

期待される銀行 十六銀行 創立 明治10年 本店 岐阜市

能楽の友

発行 能楽の友 名古屋市中区吹上本町2-20 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 36393

後見 野村万之介 青木祥二郎・武田欣司 地謡 観世浄夫ほか

53年の中部能楽界

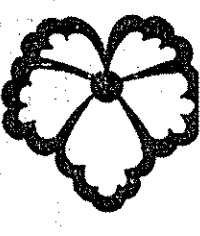
新玉の年が明けた。過ぎし昭和五十二年は、政治、経済、社会の各方面にさまざまな波紋をえがき日本人の思潮と文化に深い刻印を残した。人々の意識、思想の多様化がはっきりと生み出され、いろいろな分野で戦後への問い直しが繰り返されていく。

年頭のあいさつ

能楽協会名古屋支部 支部長 高安 滋郎

明けましておめでとうございませう。旧年中は当地能楽界の為に、絶大な御後援を蒙り、御蔭をもちまして、諸行事も無事終了させて頂きましたことを、厚く御礼申し上げます。

謹賀新年 熱田神宮 宮司 篠田康雄 権宮司 長谷晴男



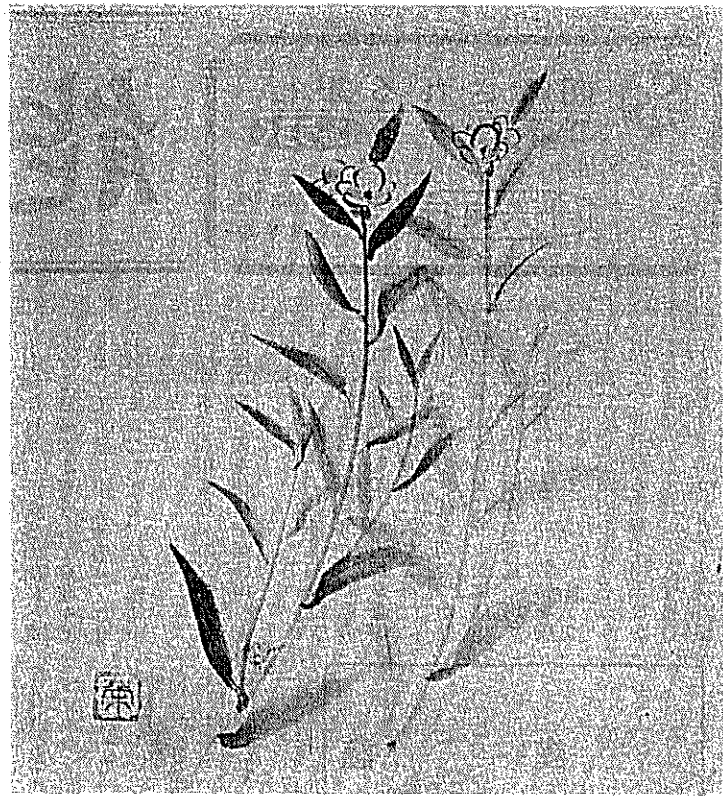
蓬菜軒

商標登録の干万

東区東区 小川町店 栄店



観世元正 東京都渋谷区恵比寿南 一-二十一-十四	鳳鳴会 武田太加志	幽花会 片山慶次郎 千603 京都市北区小山下花ノ木町二番 電話 四九二一五三〇二番	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏 大阪市東区上町二番地	山本観衛会 山本勝一 千662 西宮市南郷町五十二番 電話 〇六(七三) 四七七八	梅若景英 井上嘉久 梅若三郎 梅若紀夫 梅若万佐晴 梅若三郎 梅若万三郎 梅若万紀夫 梅若万佐晴 梅若香会 梅若盛義	山本観衛会 山本勝一	梅若三郎 梅若紀夫 梅若万三郎 梅若万紀夫 梅若万佐晴 梅若香会 梅若盛義	幽花会 片山慶次郎	幽花会 片山慶次郎	武田小兵庫 武田欣司 武田邦弘 武田詠楽会	井戸良造 井戸和男 大阪府阿倍野区文の里4-24-17
-----------------------------	--------------	--	-------------------------------------	---	--	---------------	---	--------------	--------------	--------------------------------	-----------------------------------



能紀行

むらさき
むらさき
むらさき

絵と文 二井 栄 逸

むらさきの
ひとつとゆえに
むさしの、
花はみながら
あわれとぞ見る。

むらさきは、昔、その根をしば
って紫いろの染料をついた草の
名である。夏になると、五十センチ
程度の丈に忘れ草のような白い
小花をつける野草である。

自分の好きなむらさきという花
が、一本まじっているから、武蔵
野の花という花はすべて愛らしく
思える。自分が好きな人にかゝわ
りのあるものはすべてなつかしい。
自分の愛人のゆかりのものたちは
大事に思われるというのを諷ん
だ歌である。何か事情があつて、
其の名をあげることをはぶかった
が、羨みと知らず、としたたけ
に、むらさきという花を、その

色や若紫が頭の
中を去来する。
× × ×
ロッテという
人妻を愛して自
殺する青年をえ
がいた、ゲーテの
悲しみの中に、
彼女が自分のもの
はわたくしのものだ
と、永遠に。アルベ
ルトが、あなた
の夫だというの
は何の意味か

ヴェルテルは女にそのような遺
書を書いて死ぬ。その時ヴェルテ
ルが身につけていた上衣、すみれ
色の襪い紫であったという。ゲー
テ自身紫を好んだのかも知れぬ。
(國はむらさき)

能楽カレンダー (熱田神宮能楽殿)

年(月)	学 生 能	(有料)	(番組③面)
1月(土)	青陽会定期能	(要招待券)	(番組③面)
1月(日)	梅田邦久後援会能	(来場歓迎)	(番組③面)
1月(日)	名古屋清韻会大会	(来場歓迎)	(番組④面)
1月(日)	熱田神宮能	(来場歓迎)	(番組④面)
1月(日)	邦国春の大会	(来場歓迎)	(番組⑥面)
2月(日)	宝生会定期能	(有料)	(番組④面)
2月(日)	世世梅観世	(有料)	(番組④面)
2月(日)	観世九泉会	(有料)	(来場歓迎)
2月(日)	九泉会定期能	(来場歓迎)	(有料)
2月(日)	中部会定期能	(有料)	(来場歓迎)
2月(日)	大蔵会定期能	(有料)	(来場歓迎)

(演能変更の際はご了承下さい。)

青陽会定期能

一月八日(日) 午前十時半始
熱田神宮能楽殿

神 歌 大西彌太郎

一月十五日(日・祭日) 午前十時始
熱田神宮能楽殿

謹賀新年

- 熱田神宮能楽運営委員会
- 委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男
委員 皇学館大学教授 山本文彦
熱田神宮 総務部長 岡地幸雄
熱田神宮 総務部長 柴田初太郎
熱田神宮 総務部長 シテ方 観世流 殿島修二
熱田神宮 総務部長 シテ方 東生流 内藤泰二
熱田神宮 総務部長 ワキ方 高安流 高安滋郎
熱田神宮 総務部長 信方 藤田流 藤田六郎兵衛
熱田神宮 総務部長 小鼓方 幸清流 福井啓次郎
熱田神宮 総務部長 大鼓方 石井流 河村総一郎
熱田神宮 総務部長 太鼓方 観世流 鬼頭八郎
熱田神宮 総務部長 狂言方 和泉流 井上松次郎
熱田神宮 総務部長 月見ヶ丘開発 株式会社社長 高橋半次郎
熱田神宮 総務部長 岡谷不動産 株式会社顧問 桐本陸良
熱田神宮 総務部長 茶道 松尾流 松尾宗吾

謹賀新年

柴田 初太郎 名古屋千種区本山町一三三 電話(七五二)六六七六番	壺 泉 会 名古屋昭和区山里町一〇三 電話八三二一三一八五 西宮市甲陽園目山町一〇一七八 電話八〇七九八V(二四五八)	久田 秀雄 久田 舜一郎 久田 徹二 久田 親正会 大倉流小鼓 観世流	玉 鑾 会 永観堂西町二〇 南 条 秀雄 洗 心 会 奥村富久子 華 心 会 電 075-771-0767	謡 韻 会 堺市浜寺公園三ノ二二八	毎日婦人文化センター 謡 曲 教 室 風 韻 会 殿 島 修 二	財団法人 鎌倉能舞台 中 森 晶 三 中 森 貫 太	名古屋 修 誠 会 梅 若 修 一	名古屋 観世九泉会 増 塚 本 田 滋 秀 一 有 賀 川 保 武 智 長 谷 藤 美 智 加 藤 木 美 智 青 木 武 智 高 木 武 智 吉 田 慶 瞭 野 垣 慶 瞭 子 一 妙 子 弘 彦 章 子 雄 雄	嘉 誦 会 加 藤 兵 衛 名古屋千種区青柳町五ノ一五 電話(七四二)四六七五番	一 誦 会 河 村 鉦 二 叶 石 会 河 村 総 一 郎 名古屋昭和区前山町 一丁目二三三(466) 電話(七六二)四八八二	大 垣 浦 声 会 稲古場 大垣市竹島町善念寺 住 所 京都市左京区下鴨之本町五八 浦 田 保 利	竹 韻 会 杉 村 竹 翠 名古屋千種区藤ヶ丘八三 電話七七一五〇三九番	誠 交 会 奥 善 助 東京都世田谷区三軒茶屋二一〇一三二 電話(〇三)四二二二六三三番	松 音 会 泉 泰 孝 東京都杉並区宮前四一九一四 電話〇三(三三三)八二八〇番 大阪府城東区諏訪一三三二一八 電話〇六(九六八)三五二四番	笹 月 会 中 川 清 長浜市地福寺町八ノ二九 電話(〇六三)〇六三〇番	竹 翠 会 若 松 宏 守 (662) 西宮市平松町四十九 電話(〇七八)二二一〇六一	雄 誦 会 下 田 雄 三 大阪府東区高麗橋町五三	水 雲 会 水 藤 元 三	田 村 正 諷 会 田 村 正 諷 会 大阪府東住吉区東露合町一五七 電話大阪(七〇五)二四〇〇番	徳 島 正 韻 会 徳 島 市 吉 野 本 町 四 三 谷 内 電話徳島(五二二)四七四四番	春 鶯 会 梅 若 善 高 豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六)八三一七七八五	廣 田 後 援 会
--	---	--	---	----------------------	---	----------------------------------	----------------------	--	--	---	--	---	--	---	--	---	------------------------------	------------------	--	--	--	-----------

青陽会定期能

一月八日(日) 午前十時半始

熱田神宮能楽殿

素謡 神 歌 青木 武弘 長谷川 章

盛 久 高安 滋郎 河村 隆一郎 森本 重一

東 北 西村 欽也 河村 隆一郎 寛 三男

船 辨慶 高安 勝久 鬼頭 英二 池田 季信

附祝言 間 大野 弘之

狂言 蝸 牛 佐藤 友彦 井上 礼之助

加賀 紀子 加賀 敏彦

附祝言 間 大野 弘之

邦謡会能

一月十四日(土) 午後五時半始

熱田神宮能楽殿

隅田川 河合 雄一郎 武田 欣司 須部 甫

仕舞 之段 片山 慶次郎 片山 博太郎 地謡 橋本 三郎

笠之段 片山 慶次郎 片山 博太郎 地謡 橋本 三郎

弱法師 高田 みね子 福井 啓次郎 鬼頭 喜太郎

船弁慶 池田 忠三 後藤 孝一郎 鬼頭 喜太郎

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

慈童

一月十五(日) 午前十時半始

熱田神宮能楽殿

高 砂 藤沢 富美子 三谷 俊幸 安藤 信之

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

御来場歓迎

終演四時半頃の予定

主催 名古屋清韻会

補導 大槻秀夫

祝言 老 大槻 秀夫

祝言 老 大槻 秀夫

財団法人 兼倉能舞台
中 森 晶 三
名古屋 修 諷 会
重陽会 菊 池 重 郷
大山市犬山宇相生五九一六
電話(〇五六八) 〇四五〇一番
緑名会 田 中 八
今 井 清 隆

財団法人 兼倉能舞台
中 森 晶 三
名古屋 修 諷 会
重陽会 菊 池 重 郷
大山市犬山宇相生五九一六
電話(〇五六八) 〇四五〇一番
緑名会 田 中 八
今 井 清 隆

松和会 中 村 和 男 各務原市那加坂町2丁目 電話〇五八三三 二七九四番	幸謡会 近 藤 幸 江 岡崎市鶴田本町十一番地ノ三 電話(〇五六四) 〇二五二九	邦 謡 会 須 部 政 甫 清 沢 美 和 今 沢 美 和	清謡会 今 村 嘉 勇	宝 生 英 雄	近 藤 乾 三 乾 之 助	野 口 緑 久 東京都港区西麻布四一八一二八 電話(〇三三) 四〇九一〇六二〇番	名古屋 巽 会 辰 巳 孝	佐 野 正 治 〒921 金沢市泉野町四丁目十二十四 東京都文京区湯島二一三二一〇 宝生英雄方	佐 野 由 於	中 部 金 剛 会	金 剛 流 豊 星 会	豊 嶋 弥 左 衛 門 豊 嶋 三 千 春 京都市東山区知恩院山内林下町四五五 電話(〇七五) 五六一一五四〇八	林 鉄 郎	中 部 金 春 会 名古屋市中区老松町一ノ二八 電話(二四一) 三二四一番	前 田 茂 穂 米 本 平 一	金 剛 永 謹	金 剛 巖	緑 宝 会 〒458 名古屋市緑区鳴海町池上16-10 加 藤 勝 利 電話(八九六) 三四二八番	金 春 信 高 金 春 安 明	本 田 光 洋 東京都中野区上高田二ノ二五ノ二 電話(三八六) 二六四一	金 春 欣 三 東京都杉並区南荻窪三二一七一六	廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔	菊 扇 会 名古屋・京都・名張 廣 田 泰 三 廣 田 泰 能	廣 田 泰 三 廣 田 泰 能	廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔	廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔	廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔
---	--	--	-------------	---------	------------------	--	------------------	--	---------	-----------	-------------	---	-------	---	--------------------	---------	-------	--	--------------------	--	----------------------------	---------------------------------	--	--------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

熱田新春能

一月二十二日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿
能経 鬼頭京子
能井 高安勝久 鬼頭英二 鬼頭季信

邦謡会春の大会

一月二十九日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿
本田勲・安藤勝朗準師範披露

名古屋宝生会定式能

第二二期・第一回
二月五日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

鶴

カメノ片桐真ツル野々山頭睦
内藤泰二
能 飯富雅介 河村総一郎 鬼頭好信

西行桜

大坪十喜雄
西村欽也 高安勝久 飯富雅介
井上松次郎



藝術院賞をいた
だいたのは昭和二十
六年五月十六日
でありまして、御
賞のお日しで十

箆太鼓

西村欽也 柳原富司 真三男
井上松次郎

名古屋観世会定式能(初回)

二月十二日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

高節

武田邦弘 野村四郎 森本重一
野村又三郎 佐藤友彦

船弁慶

片山伸吾 高安勝久 大倉長十郎
観世元正 鬼頭喜太郎

梅猶会定式能

二月十九日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

能忠

菊池重郷 西村欽也 吉田定男 真三男
熊沢恵美子 柳原富司 真三男

能善

梅若盛義 高安勝久 河村総一郎 助川竜夫
飯富雅介 福井啓次郎 藤田昭彦

八声会
金春流 中村富次
伊勢市富町一丁目四一七

喜多実
東京都練馬区中村南一ノ二九ノ一一

高安
高安流白木会
和泉太郎

西村欽也
名古屋市瑞穂区七所町二ノ四

寶生
東京市東山区八坂上町三七六

豊嶋
高安流白木会

谷田
谷田宗二朗

和泉
和泉太郎

二井
二井栄逸

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

和泉
和泉太郎

龍吟会
藤田六郎兵衛

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

龍吟会
藤田六郎兵衛

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

藤田
藤田昭彦

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」

芸術院賞をいただいたのは昭和二十六年五月十六日でありまして、御膳食のお召しで十一時に宮内庁に向い、坂下門入って右の西洋館で食卓は長方形で中央に陛下、右側に高松宮様、左が文部大臣の天野貞祐さんで、一同のすわる場所は皆名札がおいてありましたが、私は高松宮様の向い側にありましたのですっかり恐縮しました。その席では陛下の御言葉はなく、ただ雑談を交わして、陛下にきいていただくだけでした。

さだた「乱」の舞のつらさかピアニストかよく覚えていませんが、その方の歓迎のため宮様の光輪閣で園遊会がありました。その時能をやらせようとしたが舞台がないので仕方なく、ピールのあき箱のようなものを並べて、板をのせ、一間ばかりの橋がかりをつけて鏡の間にあたる所は幕でおおって、陰で着替えるといった按配で、囃子方は四人が並ぶと一杯になって、舞うところは僅か一間半位で、後がすぐ金屏風になっていました。

曲は「乱」の舞のつらさかピアニストかよく覚えていませんが、その方の歓迎のため宮様の光輪閣で園遊会がありました。その時能をやらせようとしたが舞台がないので仕方なく、ピールのあき箱のようなものを並べて、板をのせ、一間ばかりの橋がかりをつけて鏡の間にあたる所は幕でおおって、陰で着替えるといった按配で、囃子方は四人が並ぶと一杯になって、舞うところは僅か一間半位で、後がすぐ金屏風になっていました。

「たまには能も御覧下さい」と申し上げました。

この日は三十分位でしたが、陛下はその日煙草もお酒等も召し上がり水ばかりおありでしたが、始終物静かな態度でいらして、どうして賞を受けたかと紹介しながら言上されました。

私共は順に五分間位づつお話をするので、中には紙にくわしく書きこんだのを懐中から取り出して読みあげる方もあり、陛下もさぞ御迷惑だったことだろうと御気の毒に思いました。(つづく)

邦謡会春の大会

一月二十九日(日)午前九時半

- 本田 勲 準師範披露
安藤 勝朗 邦謡会春の大会
- 今沢 美和
河村 総一郎
山口 亮
藤田 昭彦
- 能小袖曾我
佐藤 友彦
- 狂言 鬼 瓦 井上松次郎
志 賀 久田 徹二
通 盛 橋本 磯道
藤 盛 橋本 磯道
仕舞 藤 盛 橋本 磯道
雷 電 キリ 武田 邦弘
国 松 栢 電 浅井 宏然
独吟 老 松 栢 電 浅井 宏然
須部 一政 小野 朗
梅田 邦久
- 半龍 嵐 山 高安 滋郎
後見 今沢 美和 地謡
久田 秀雄 地謡
梅田 邦久 地謡
- 吉田 定雄 鬼頭 好信
柳原 富司 三男
安藤 勝朗 久田 徹二
本田 勲 久田 徹二
高橋 敏一 小野 朗
高橋 敏一 小野 朗
- 〔御来場歓迎〕
梅田 邦久 久会



- 西行楼 西村 欽也 高安 滋郎 飯富 雅介 井上松次郎
- 能羽衣 高安 勝久 後藤 孝二 鬼頭 八郎 藤田 昭彦
- 能善 梅若 盛義 西村 欽也 飯富 雅介 河村 総一郎 藤田 昭彦 助川 竜夫
- 附祝言 主催者 古屋 梅 猶会

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(三三三)二三四二番

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五丁目一四一
電話(二六二)一一八三番

楽諷庵舞台
加納 保一
名古屋市中区栄五丁目一四一
電話(八三三)七〇二番

長生会 鬼頭 八喜太郎 好喜太郎 信太郎	吉田 定男	寛 鉦一	飯島 佐之六 〒920 金沢市香林坊2-8-8	安 福 春雄 東京都杉並区天沼一丁目一〇	亀井 俊一 保 忠雄 実 雄	谷口 喜代三 京都市西京区桂町五丁目二六	谷口 正喜 京都市上京区中立売室町西入 室町スカイハイツ六〇	福井 啓次郎 福井 良久 福井 良治 柳原 富司 忠	高安同志会 飯富 良人 熊本市黒髪二丁目六ノ二九	山崎 俊輔 岐阜市松屋町 後藤方	住駒 幸陽英介 〒920 金沢市片町一丁目二二 電話〇七六二〇五二四〇	住駒 明三 名古屋市中区栄五丁目一四一	狂言 共同社 善 竹 忠一 一郎 神戸市東灘区御影町那家大蔵二二	朝日文化センター 囃子 教室 小鼓 後藤孝一郎	熱田神宮能楽殿 仙 田 美千子 電話(六七)二九二番	観世武雄	梅田 邦久 名古屋市中区栄五丁目一四一 電話(八三三)四六三二番	山本 孝 大阪府豊能郡豊能町ときわ台三三 電話(〇七七)三八一三九四番
-------------------------------	-------	------	----------------------------	-------------------------	----------------------	-------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	---------------------	---	------------------------	--	-------------------------------	----------------------------------	------	--	---

愛知県中島郡那平和町城西
電話(三三三)〇一九六〇番

野村狂言の会
野村 万蔵
東京都豊島区南長崎六丁目一五
電話(〇三)九五一一四八七三

喪中につき年頭のごあいさつ
失礼させていただきます

中部能楽会 ゆく年くる年

能楽の友社同人座談会

——新しい年、昭和五十二年を

迎え、愛読者の皆様は誰れも年頭の賀詞を申し上げます。いろいろなことありましたが昭和五十二年を振り返り、またことしの展望などについて語って頂きたい。

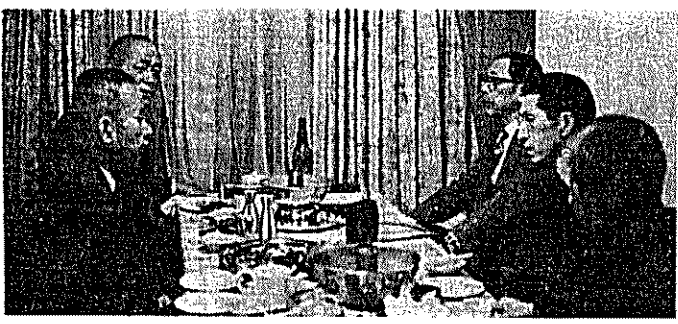
A 昨年は能楽協会名古屋支部の行事も恒例どおり催されました。熱田神宮例大祭、遊能、歳末助け合い義演、それに大衆能など、ご協力を感謝したい。

B とくに新能は、はじめて二日間行なわれました。お天気にも恵まれましたし、熱田神宮でちょうど十回行なわれたわけですが、すっかり市民納涼能として定着してまいりました。

C 昨年十二月四日、熱田神宮で「清経」「杜若・恋之舞」「偶田川」「蓮々」第二回(八月十三日)が「花月」「羽衣」「天鼓」「小銀治」のそれぞれ能四番、第三回、第四回は能三番立てとなっていました。

D いろいろな形で、公的な補助を活用していくことは重要ですが、そういったことに今までの目が届いていないだけに、梅若修一師の修業会が十月に二日間行なわれ、その他社中会も多く予定されています。

E 記念能としては、梅若修一師の修業会が十月に二日間行なわれ、その他社中会も多く予定されています。



F 狂言では、朝日狂言会、やるまい会、和泉狂言会など大変盛況でした。A 昭和五十三年の演能行事として注目されるのは、日本能楽会の地方公演が予定されていることです。

G 狂言では、朝日狂言会、やるまい会、和泉狂言会など大変盛況でした。A 昭和五十三年の演能行事として注目されるのは、日本能楽会の地方公演が予定されていることです。

H 狂言では、朝日狂言会、やるまい会、和泉狂言会など大変盛況でした。A 昭和五十三年の演能行事として注目されるのは、日本能楽会の地方公演が予定されていることです。

I 狂言では、朝日狂言会、やるまい会、和泉狂言会など大変盛況でした。A 昭和五十三年の演能行事として注目されるのは、日本能楽会の地方公演が予定されていることです。

名古屋宝生会昭和53年定式日程

名古屋宝生会主催の昭和五十三年定式日程(第二十二期)の日程、および演能曲目は次のとおりである。

- 第一回 二月五日(日)
- 能 鶴 亀 内藤 泰二
- 能 籠 太鼓 衣笠 正宜
- 能 西行 桜 大塚 十喜雄

名古屋宝生会主催の昭和五十三年定式日程(第二十二期)の日程、および演能曲目は次のとおりである。

- 第二回 三月五日(日)
- 能 熊 野 辰巳 孝
- 能 黒 塚 宝生 英雄
- 能 三井 寺 野口 緑久
- 能 葵 上 倉本 雅

名古屋宝生会主催の昭和五十三年定式日程(第二十二期)の日程、および演能曲目は次のとおりである。

- 第三回 九月十五日(日)
- 能 三井 寺 野口 緑久
- 能 葵 上 倉本 雅

名古屋宝生会主催の昭和五十三年定式日程(第二十二期)の日程、および演能曲目は次のとおりである。

- 第四回 十一月十五日(日)
- 能 三井 寺 野口 緑久
- 能 葵 上 倉本 雅

名古屋宝生会主催の昭和五十三年定式日程(第二十二期)の日程、および演能曲目は次のとおりである。

- 第五回 十二月十五日(日)
- 能 三井 寺 野口 緑久
- 能 葵 上 倉本 雅

53年1月放送予定

●NHKラジオ第一放送(毎週日曜日午前10時15分)

53年1月	8日(日)	観世流	「女 郎 花」	観世喜之はか
	15日(日)	流 多	「自然居士」	友枝喜久夫はか
	22日(日)	流 金	「東 北」	今井幾三郎はか
	29日(日)	流 宝	「五 北」	渡辺三郎はか

●NHK・FM(毎週日曜日午前7時15分)

53年1月	8日(日)	下懸宝流	「張 良」	松本謙三はか
	15日(日)	観世流	「船 弁 慶」	観世元昭はか
	22日(日)	観世流	「和 布 刈」	大槻秀夫はか
	29日(日)	観世流	「海 士」	本原康次はか

●NHK教育テレビ

1月16日午前9時~10時
仕舞・独吟・一調集
梅若六郎、近藤乾三、後藤得三、松本謙三はか

(放送は予定番組ですので変更の際はご了承下さい)

伊 魚 節 鮮 魚

謹賀新年

豊橋市魚町18 電話(52)5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

12月4日能4番を上演

能楽協会名古屋支部主催、中部能楽師会後援による「歳末助け合い義演集(第一回)」の演能。

美子(狂言「杭か人か」)、井上松次郎(井上礼次郎)、金剛流能「龍一」(シテ吉田貞子)、王(シテ)

朝日歳末助け合い協賛能 大阪能楽会館

九月三日(予定) 大衆能 十二月三日 歳末助け合い義演

青陽会定期能

昭和五十三年一月八日(日) 午前十時半始 熱田神宮能楽殿

計 報

観世喜之氏

観世流シテ方、観世喜之氏は十二月十七日、午後十一時四十五分、急性心不全のため、名古屋市東区、九草会館で逝去された。七十五歳。告別式は十二月二十二日午後一時から東京新橋区、丸栄能楽堂で行なわれた。喪主は武雄氏。

杉市太郎氏

森田流シテ方、杉市太郎氏は、十二月十八日午後一時十分、脳軟化症のため、京都府、日本専売公社京都病院で逝去された。八十八歳。告別式は十二月二十一日、東山区、慈仁寺境内の興雲庵で行なわれた。故人は明治三十六年、熱田流能の故郷である。熱田流能の故郷である。

佐藤太俊氏

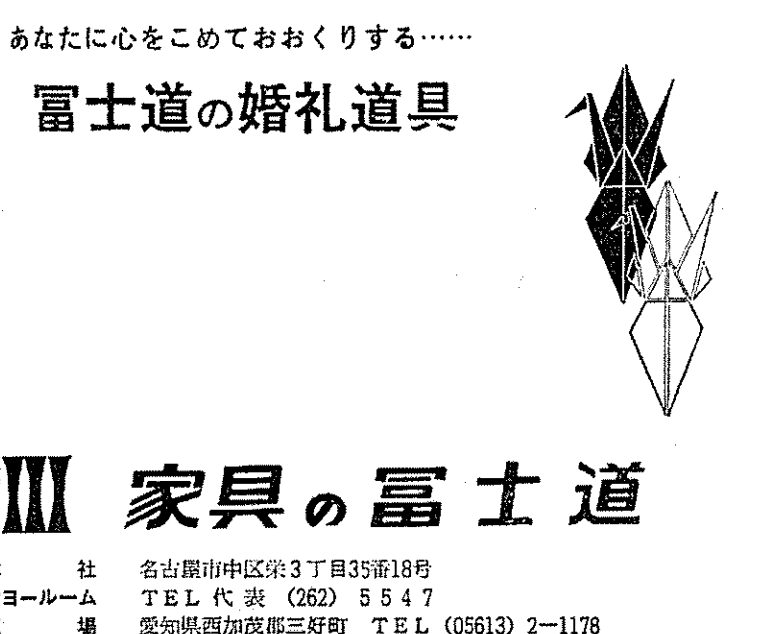
観世流シテ方、佐藤太俊氏は十二月十八日午後七時二十五分、名古屋市中区、岡田病院で脳血塞のため逝去された。七十二歳。告別式は十二月二十一日午後一時から名古屋市中区、上社二一三の自宅で行なわれた。喪主は妻文恵さん。故人は武田太加志門下として、松尾会を主宰、後進の指導にも当たり、青陽会でも活躍、名古屋能楽会の中核でもあった。

富士道の婚礼道具

家具の富士道

本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL代表 (262) 5547
支店 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

昭和五十三年一月十四日(土) 午後五時半始 熱田神宮能楽殿



新しい視力の見直し—オプトメトリー—

明けまして おめでとう ございます

新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。

定休火曜日 営業 10時~7時

マガネの玉水屋

なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826(代)

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
- 共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 窪田富司筆

発行 能 楽 の 友

名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 3 6 3 9 3

購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[2月]

12日(日) 観世会定式能 (有料) (番組①面)
19日(日) 梅猶会能 (有料) (番組①面)
25日(土) 観世九阜会定期能 (有料) (番組②面)
26日(日) 壺泉会能 (来場歓迎) (番組③面)

[3月]

5日(日) 名古屋観世九阜会春の会 (来場歓迎)
19日(日) 松 謡 会 (来場歓迎)
21日(祭) 壺泉会春の会 (来場歓迎)
26日(日) 大 濠 狂 言 会 (来場歓迎)

[4月]

2日(日) 龍吟会能 (来場歓迎)
9日(日) 観世会能 (有料) (来場歓迎)
16日(日) 久田観正会能 (来場歓迎)
23日(日) 観世会能 (来場歓迎)
29日(祭) 幸友会能 (来場歓迎)
30日(日) 鳳鳴会能 (来場歓迎)

[5月]

3日(祭) 観世流友大会 (来場歓迎)
5日(祭) 巽 会 (来場歓迎)
7日(日) 邦 謡 会 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了解下さい。)

金剛流誌「金剛」は、昨五十二年九月発行誌で百号を数えたが、これを記念して、金剛会と金剛雜誌の主催により、さたる三月十九日(日)京都・金剛能楽堂で、「第一部」流友大会(第二部)物故先生追悼、稀曲「墨染桜」観賞会の二つの催しが行なわれる。

金剛流「墨染桜」を復曲

流誌「金剛」百号記念の催し

3月19日 京都 金剛能楽堂で

第一部の流友大会は、各社各会から流友の参加によって、独吟、連吟、仕舞などの出演が予定されている。(午前九時半から午後三時まで)

第二部は、流誌「金剛」が創刊された昭和十三年から現在までに物故された諸先生を追悼し、その

中日五流能

第二十三回中日五流能は、さたる三月二十六日(日)・名古屋・栄・中日劇場で催される。第一部・午前十時開始、第二部・午後四時開始(番組要は本紙十二月号掲載)(特別席)五千二百円、(A席)四千五百円、(B席)四千円、(C席)二千円(全指定席)

芸術活動を顕彰

文化賞・奨励賞など

愛知県 選奨制度を新設

日続ける以外に方法はなく、これとても金箔する事は不可能とされ、唯々病気の進行を止める効果しかないといわれています。またこれによる中毒症状の出る人もあり、足の指が曲ってしまったとか、大脚部がマヒしてしまったりとかで、

「墨染桜」は、明治、大正時代は現行曲として上演されていたが昭和改正本で廃曲とされ今日に至るまで、現行の昭和修正本発行と同時に、再びこの曲を現行曲に組入れ、復活することになったものである。

この曲は本三番目録物で、所は京都深草、シテは墨染桜の精、後場では尼僧姿で現れ、ワキは「深草の野辺の桜し心あらばこの春ばかり墨染に咲け」の歌の作者、上野峰雄の出家姿。花帽子のシテが序之舞を舞う変わった扮装と趣向が大きな特長で、花片を墨に染めた桜の作り物が出るのも、この能をさらに幽艶なものにする。

この復曲観賞能は、当中部地区で活躍され、故人となられた伊藤鉄之進、大塚一、竹市秀雄、山田三郎(五十音順)の諸師の追悼でもあり、流友の多数の参加が期待されている。

第二部は午後三時半始。

名古屋観世会定式能

二月十二日(日) 十二時半始

熱田神宮能楽殿

安宅 野村 四郎 鬼頭 英二 森本 重一
舞 雜子 地謡 今村 嘉勇 殿島 修二 小島 一邦 久英

歳末助け能楽協会名古屋支部

社団法人能楽協会名古屋支部(高安渡部支部長)は、旧うら四日、熱田神宮能楽殿で恒例の「歳末助け能楽協会名古屋支部」を開催。能四番はか狂言、仕舞などきわめて盛況であった。

協会名古屋支部では、この収支決算の結果、三十九万八千四百円おくられている。

演能案内

附祝言	節分	高砂	安宅
後見 関根 秀夫 地謡 小島 一邦 久英	野村 三郎 佐藤 友彦	武田 邦弘 観世 元昭 西村 敏也 後藤 洋一郎 藤田 大五郎	野村 四郎 鬼頭 英二 森本 重一
井上松次郎	関根 祥六 大槻 秀夫 地謡 久田 邦久 武田 邦久	小島 一英 地謡 河村 総一郎 藤田 大五郎	殿島 修二 小島 一邦 久英
梅若 盛義	梅若 盛義	梅若 盛義	梅若 盛義

住友 松戸

取締 名古屋電

欧風料理

とんかつ

予告

故梅若猶義師七回忌追善能楽会

十一月五日(日) 十一時始

熱田神宮能楽殿

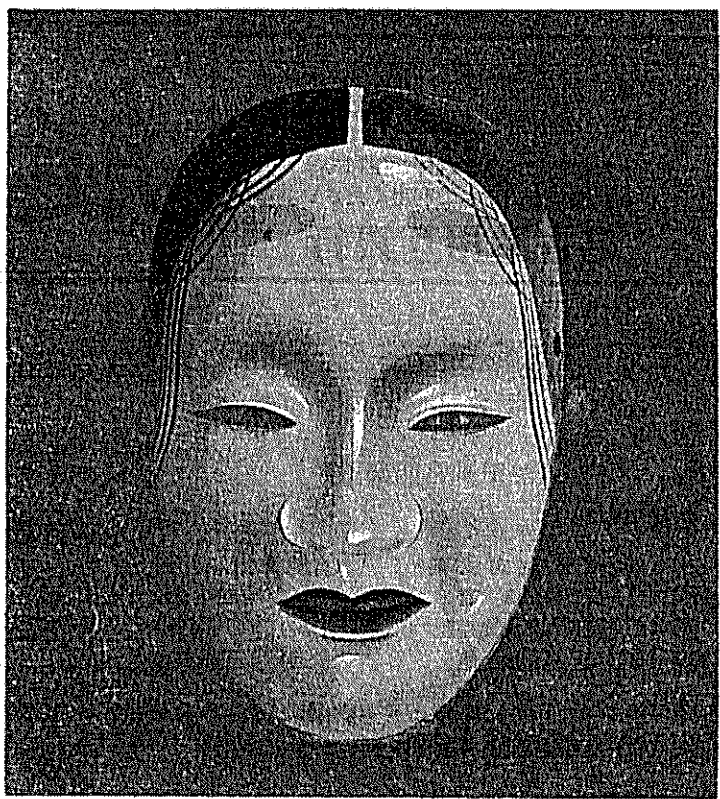
会員券お申込は 出演楽師宅又は 能楽殿へ

会員券 三、〇〇〇円(全自由席)

梅若 盛義

梅若 修一

梅若 盛義



能紀行

臘月の花

朝日文化センターの謡曲教室に通ってくださる林さんから、昨年の大晦日に近い積古日に美事な臘月の味を帯びた美しい臘梅であった

に出たりしている破調も面白い。「梅に女面を備うべし」と、我が家の伝書には梅についてこのように教えているが、これは臘梅にもあてはまる事だとも思う。伏目がちに咲く此の花は長い人生苦に耐えてきた曲見(しやくみ)のように憂鬱さえたよむせるのである。四十歳前後の中年の女性を表現した能面に曲見や深井の面があるが、じっと見ているとやはりしみみと思ふのである。(絵は曲見)

故斎田喜兵衛師追善会

2月27日 大槻能楽堂で

葛野流大鼓方・斎田喜兵衛師は昨年一月、九十歳で逝去されたが故人は関西における唯一の同流「通鼓」下川勝一「開田川」キリ塩谷武治「山姥」キリ井戸良造「仕舞」賀茂「藤谷政二」鐘之助「笠田隆」善知鳥「八木康夫」大西信久「船弁慶」キリ南条秀雄

大西信久 舞臺子「松虫」梅若盛義・笛貞光義次、小鼓・中川隆夫、大鼓・佐伯実 同「桜川」大槻文蔵、笛・赤井藤男、小鼓・曾和博明、大鼓・井藤忠雄 同「頼政」梅若万三郎、笛・森田光春、小鼓・中川隆夫、大鼓・大村良二 一調「江口」辰巳孝、大倉長十郎 舞臺子「二人静」梅若雅俊、梅若泰之、笛・貞光義次、小鼓・曾和博明、大鼓・佐伯実 追加・舞臺子「融」上田照也 笛・森田光春、小鼓・大倉長十郎、大鼓・大村良二、大鼓・三島太郎

名古屋観世九臈会

二月二十五日(土)午後一時始 熱田神宮 能楽殿

Table listing performers and roles for the Nagoya Kanze Kyūryū Kai. Roles include 能熊 (Noh Bear), 能海 (Noh Sea), 能葵 (Noh Aoi), 能葵望 (Noh Aoi Nozomi), 能葵望月 (Noh Aoi Nozomi Tsuki), 能葵望月 (Noh Aoi Nozomi Tsuki), 能葵望月 (Noh Aoi Nozomi Tsuki).

壺泉会大会

二月二十六日(日)午前九時始 熱田神宮 能楽殿

Table listing performers and roles for the Utsunokuni Kai Taikai. Roles include 素謡 (Sūryō), 舞臺子 (Maizaiji), 二人静 (Futarijizō), 花 (Hana), 素謡 (Sūryō), 舞臺子 (Maizaiji), 二人静 (Futarijizō), 花 (Hana).

名古屋観世九臈会春季大会

三月五日(日)午前十時始 熱田神宮 能楽殿

Table listing performers and roles for the Nagoya Kanze Kyūryū Kai Spring Taikai. Roles include 素謡 (Sūryō), 舞臺子 (Maizaiji), 二人静 (Futarijizō), 花 (Hana), 素謡 (Sūryō), 舞臺子 (Maizaiji), 二人静 (Futarijizō), 花 (Hana).

私の番が廻りましたので芸のお話でなく、なるべく短なお話しようと思ひまして軍隊

名古屋市の東郊、尾張旭市に能舞台が竣工、さる十一月二十三日この能舞台は、尾張旭市東大道

名古屋観世九臈会 尾張旭市に竣工

松坂屋1丁南 1059

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」

り、故人の教えをうけた精進が世に語り継がれ、永年にわたり縁故の深かった方々の賛同を得て、故人をしのぶ気持ちをこめ、きたる二月二十七日(月)大阪・大槻能楽堂(大阪府東区上町二番地)で「故斎田喜兵衛師道追善会」が催される

舞臺子「百萬」山本勝一、笛 直光義次、小鼓・中川隆夫、大鼓 佐伯実、太鼓・三島太郎
同「松風」観世寿夫、笛・赤井藤男、小鼓・大倉長十郎、大鼓 井藤男、小鼓・大倉長十郎、大鼓 亀井忠雄

舞臺子「二人静」梅若雅俊、梅若泰之、笛・直光義次、小鼓・曾和博朗、大鼓・佐伯実
追加・舞臺子「融」上田照也 笛・森田光春、小鼓・大倉長十郎 大鼓・大村良二、太鼓・三島太郎

舞臺子「見聞」見聞翁、大鼓・高橋半次郎(見聞翁開演) 舞臺子「見聞」見聞翁、大鼓・高橋半次郎(見聞翁開演)

舞臺子 氷 室 泉 嘉夫 鬼頭英二 助川 童夫
素謡 二人 静 藤井 力男 柴田うた子
花 長江 泉 武藤久仁男 浅井 邦容

尾張旭市に竣工 名古屋市の東郊、尾張旭市に能楽舞台が竣工、さる十一月二十三日舞台披露が行なわれた。

素謡「安宅」「三井寺」「恋重荷」「雨田川」「藤戸」 連吟「菊慈童」など ほか舞臺子、仕舞など二十数番

私の番が廻りましたので芸のお話でなく、なるべく短いお話ししようと思ひまして軍隊の時のことを申し上げました。

観世流の神髓を体得した現在唯一の能楽師である。今日までの演舞数は約千五百番でこれは一曲のシテを勤めた数であるから、ツレ役又謡だけ、あるいは囃子等を計算するとばく大な量である。

能楽最高の秘蔵たる老女ものも「楳垣」 「楳垣」 「鶏籠小町」 「卒都婆小町」を一度ないし数度ずつ勤め、その他の大曲秘曲をも勤めていることは氏が凡庸の楽師でない証左である。

昭和十五年三月東京音楽学校講師に就任す
昭和二十五年に各会の月並催能以外に勤めし曲目左の通り
鶏籠小町(杖之舞) 五月二十一日
大阪大槻十三氏還暦祝賀能之節(梓之出) 九月二十四日
観世会別会之節
簡(物着) 十一月一日
芸術祭の節
風(見留) 十月四日
能楽ルネッサンスの会の節(この項おわり)

尾張旭市に竣工 名古屋市の東郊、尾張旭市に能楽舞台が竣工、さる十一月二十三日舞台披露が行なわれた。

尾張旭市に竣工 名古屋市の東郊、尾張旭市に能楽舞台が竣工、さる十一月二十三日舞台披露が行なわれた。

能楽協会名古屋支部 新年謡初式

1月3日 熱田神宮能楽殿で 能楽協会名古屋支部(高安澄郎支部長)は、一月三日午前十一時から熱田神宮能楽殿に協会支部委員が参集、舞台で謡初め「四海波」を全員で連吟、楽屋で高安支部長の新年のあいさつが述べられ、熱田神宮宮長谷崎男権宮司・熱田神宮能楽殿運営委員会委員長から年頭の祝辞、さらに義捐金寄託の報告などが行なわれ、新年の祝賀を交歓した。

2月・3月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)			
2月12日(日)	宝生流「巴」	三川泉ほか	栗谷菊生ほか
2月19日(日)	喜多流「籠太鼓」	藤波重和ほか	藤波重和ほか
2月26日(日)	観世流「難波」	観世元正ほか	観世元正ほか
NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)			
2月12日(日)	観世流「弱法師」	観世元正ほか	梅若万三郎ほか
2月19日(日)	観世流「都都」	梅若万三郎ほか	今井幾三郎ほか
2月26日(日)	金剛流「東北」	今井幾三郎ほか	今井幾三郎ほか
3月5日(日)	金春流「籠太鼓」	梅若三万郎	梅若三万郎
3月12日(日)	観世流「墓上」	梅若三万郎	梅若三万郎
3月19日(日)	金春流「三井寺」	梅若三万郎	梅若三万郎
3月26日(日)	狂言「鐘の音」	野村万蔵	野村万蔵

観世流謡曲本 ちくさ正文館

ちくさ駅前 電話1137

第十七世 幸流宗家継承披露能

小鼓方幸流第十七世宗家として幸正彰氏が継承され、この披露能が二月四日(土)東京・観世能楽堂で開かれ、各統宗家重鎮の出演で、能、囃子、一調、独調、狂言が催された。



〔写真〕舞台披露で「高砂」を舞う河村鉦二師



若杉栄氏 独調「菊慈童」(村上義美、鬼頭喜太郎) 仕舞「鶴亀」(山本弘子) 「班女」(宮崎とみ子) 「通小町」(毛利節志子) 「弱法師」(長戸花子) 「東北」(堀登志子) 「善知鳥」(村木寿恵子) 「天鼓」(澄川幸子) 「野守」(内田勝子) 「屋島」(遠藤俊雄) 「花月」(小林辰彦) 「鐘丸」(海田トシ子) 「山姥」(川瀬絹子) 「難波」(北村利彦) 「羽衣」(山口源一) 「笠之段」(加藤歌子) 独吟「老松」(堀川修) 「井筒」(留永五郎) 「定家」(松本順一) 「実方」(加藤武) 素謡「狸々」(大森圭子、永井和子)

宝生流全曲旅の友

宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。

合本(全一冊) 定価¥27,000 (送料別)
天・地・人(三冊) 定価¥30,000 (送料別)

天の巻(翁・あ〜こ) 地の巻(さ〜と) 人の巻(な〜ろ・蘭曲)

わんや書店 東京都中央区銀座8-7-5 電話(03)710511

檜書店

流元 剛行 流本 金元 流宗 世宗

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話(231)1990

かすかす山 扇かふん 十松金井

かすかす山 扇かふん 十松金井

かすかす山 扇かふん 十松金井

東文堂書店

謡曲本専門販売 株式会社

名古屋市中区栄3-28-26 (松坂屋1丁南) 電話(052)241-1059

故人をしのび思い出の文を綴る
は心痛む。愛されたこと、叱られたこと、教えられたこと、喜怒哀楽の波がどっと押し寄せ、またかわるがわるに胸の中をかすめて通る。能界の方々の場合、特にすばらしかった舞台と楽屋での尽きぬ芸話が悲しさと楽しさをもつて一杯に駆け廻る。昨年末の観世喜之氏に新年早々豊嶋弥左衛門氏逝去する。今ここに追慕の辞を捧げて長年の交際を謝したい。

淵帰回顧

喜之氏と弥左衛門氏
野村 広二

走されてきた。熱田能楽殿が出来上るまでたびたび変わった舞台でも始終熱心に多くの能を舞われた。当時NHK(名古屋)にいた私は放送にもよく出ていた。舞台で対談もさせていただいた。今昭和二十五年から三五年前後の能評(朝日ほか、筆者)を繰ると、喜之さん対象の短文が多い。「冷たく光る美しさ」「波き」「見事な技の切れ」などの見出しで。

東京で邦謡会能

2月19日 銀座能楽堂

邦謡会(梅田邦久師主)は、二月十九日、東京・銀座能楽堂で邦謡会能を開催する。

能組は次のとおり。
片山博太郎
補助 崇志 寺井 啓之
大倉長十郎

案の友社
地区吹上本町2-20
番号 464
(731) 7984
名古屋 36393

豊嶋弥左衛門氏の来名は同じ記録によれば、昭和九年十一月尾崎浪音翁進能に離子能をはじめ目にする(当時豊嶋一、鬼頭八郎太鼓を打つ、布池能楽堂。注、地謡後見の明記が同記録にはない。記す年月よりも早い来名が推察されるが、これは見出しに措く。枕草堂・右京、松風見留・右京ツレ殿(初代)小鍛冶白頭・殿(同)狂言は木六駄(狂言共同社)であった。主催者片野東四郎・山田三郎兩氏のうち山田氏もなくなりました。

豊嶋弥左衛門氏逝去
人間 豊嶋弥左衛門師逝く
1月18日金剛能楽堂で葬儀
金剛流シテ方・豊嶋弥左衛門氏は、一月三日午後五時二十分、肝臓障害のため東京都東山区知恩院山内林下町四五五の自宅で逝去された。

能界を代表する名手として活躍
能楽界を主宰し、金剛流の最長老
都で活躍している。
梅若基宣氏逝去
観世流シテ方、梅若基宣氏は、十二月二十二日午後八時四十五分大阪桜橋・渡辺病院にて心不全のため逝去。享年五十歳。

新玉の年が明けた。過ぎし昭和五十二年は、政治、経済、社会、五十二年は、政治、経済、社会、

53年の中部能楽界
新たな展望もつて

料理
あつた
蓬菜軒
その長い歴史
のなかで練られ
磨かれてきた能
狂言が、激動の
新しい年などの

和楽会新年謡会
喜多流・和楽会(和谷鳥二郎師)は、一月二十二日、鳥羽錦浦館で新年初謡会を開催。素謡、舞囃子など二十余番。
喜多流・喜多流(中尾和子師主)は、一月二十九日、津市渡辺ビル能楽舞台で新年会を開催。舞囃子十五番、仕舞など三十番。

おちよほ
登録商標
季節の干菓子 生菓子 松露糖 味噌松風
万年堂薬舗
小川町店 東区東桜二丁目17-21 電話(052)931-6446代・1234
栄店 中区栄三丁目4-105 電話(052)241-1234・6446

城
割烹・小料理
熱田神宮能楽殿喫茶部
住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
電話 731-1128

メガネの日進堂
正しいメガネでしあわせを……
名古屋市西区上島町57(円頓寺本町)
451 TEL (571) 6181-3

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行能楽の友
名古屋千種区吹上本町2-1
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8
振替口座 名古屋 3 6 3 9
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [3月] 19日(日) 松詠会追善会 (番組①面) (来場歓迎)
26日(日) 大麗狂言会 (来場歓迎)
[4月] 2日(日) 龍吟会春季大会 (番組①面) (来場歓迎)
9日(日) 観世会定式能 (番組②面) (有料)
16日(日) 久田観正会春季大会 (番組②面) (来場歓迎)
23日(日) 観照会大会 (来場歓迎)
29日(祭) 幸友会春の会 (来場歓迎)
30日(日) 鳳鳴会大会 (番組③面) (来場歓迎)
[5月] 3日(祭) 観世流友大会 (来場歓迎)
5日(祭) 巽会 (来場歓迎)
7日(日) 邦詠会 (来場歓迎)
13日(土) 観世九草会定期能 (有料)
14日(日) 青陽会 (有料)
20日(土) 猶園会 (来場歓迎)
21日(日) やるまい会公演 (有料)
28日(日) 観衛会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい。)



柴田初太郎氏叙勲
勲五等瑞宝章を受章

観世流シテ方柴田初太郎氏(八九)は三月一日付で、高階者叙勲として、勲五等瑞宝章を受章された。
柴田氏は、明治二十二年三月一日名古屋市中区七間町に生れ、十八才から青木萬治先生に就き観世流謡曲を修業、大正三年成田宗治郎師に師事し謡曲を、橋岡久太郎師に立方を学び、その後観世左近師にも師事、昭和九年観世流謡曲師にも師事、昭和十二年二月二十一日(道成寺)に於て、

芸術新人賞に友枝昭世氏
選奨

昭和五十二年度の芸術選奨文部大臣賞と同新人賞が二月二十八日決まり、文部大臣新人賞に古典芸能部門で、能シテ方・友枝昭世氏(三七)が受賞した。
授賞式は三月二十四日、東京霞が関の国立会館で行なわれる。友枝昭世氏は喜多流の名門・友枝喜久夫氏の長男、戦後家系喜多門下に内弟子として長門興りとともに修業、喜多流をになう若手のホープとして期待されている。
今回の受賞は「自然居士」(三月、能楽鑑賞の会)、「鳥頭」(九月、果水会)ほか新作能「復活」のシテ所演。

能の幽玄美」展覧会
3月17日からオリエンタル中村で
日開開催される。

細川家伝来の能面、能装束など八十余点がオリエンタル中村本店で三月十七日から公開される。この展覧会の企画は、本紙一月号に所載のとおりであるが、「能の幽玄美」と題して、財団法人永青文庫、毎日新聞社の主催で三月十七日(金)から二十二日まで六日開催される。
同展は細川家秘蔵の重要美術品のほか能面十七点、能装束三十五点、道具など永青文庫公開シリーズの一つとして八十余点を初公開する。
また特別企画「能・狂言入門講義」にあたり、とくに青陽会を主宰して当地の能楽界の興隆に大きく貢献している。
重要無形文化財「能楽」保持者日本能楽会会員、熱田神宮能楽殿運営委員。
住所名古屋千種区本山町一ノ三二。

Table of names and roles: 水野美代子, 梅田邦久, 河村総一郎, 寛三男, 後藤孝一郎, 助川竜夫, 宮川千尋, 後藤孝一郎, 寛三男, 佐々木勝雄, 高木美智子, 西村欽也, 福井啓次郎, 藤田六郎兵衛, 能千手, 野村欽也, 福井啓次郎, 藤田六郎兵衛, 能千手, 野村欽也, 福井啓次郎, 藤田六郎兵衛

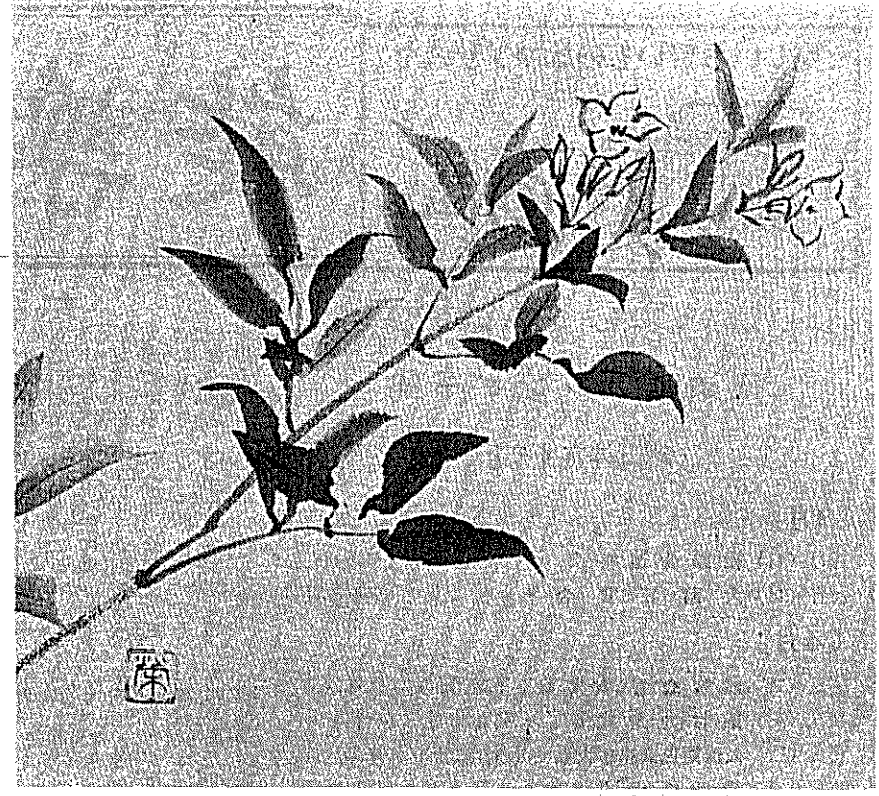
Main table listing names, roles, and dates for various events. Includes columns for names (e.g., 草子洗小町, 船辨慶, 草子洗小町), roles (e.g., 若野澄, 水谷富子), and dates (e.g., 三月三日).

Table of NHK radio broadcasts: NHKラジオ第一放送, 四月二日(日) 午前10時始, 四月二十九日(祝) 午前9時始

能 紀 行

伝承と創造

絵と文 二井栄逸



一夜明けると、廻りは一度に春がやってきたように若緑が映えてまぶしい位。枯草の間から若緑の草の芽がすいすいと伸びていたり口紅(くちべに)水仙の芽や、いちばつが頭に露をのせて思っている。みずき科のさかんしゅが、こがね色に朝の露に輝いて

三日籠る内に、外の世界はどんなん衣がえをしてゆく。秒をききむ時計の針のように、自然の移り変りに狂いは無い。
私の世界には、秒をききむ時計の針はない。自分で勝手に時間をストップさせたり、飛び越えたりしている。しかし、現実には正確に命がちぎられてゆく。やらなくしてはならない仕事がつしりと肩に重いかたも、伝承と創造に つながる仕事なら、いくら肩が重くても苦にならない。私は、伝承を継の線だと思っている。遠い古えからつながっている良き古典であり、又、忘れてならない精神文明でもあるのだ。

伝承というものは、そのまゝを伝えるのではなく、たしかなものに伝えるには、又、たしかな伝承者がなければならぬ。時代時代の空気を呼吸して、時代がかれてゆかなければならぬ。新しい時代というものは大体半世紀毎におとつれるであらう。私は、この新しい時代、創造の時代、時代の継ぎ目を、時代の継ぎ目を

横の線である創造ということは大変なことで、縦の線を極め得ないものに創造は出来る筈がない。形を変えたり、変ったことをするものが創造ではないのだ。良い創造は縦の線となつて、又伝承されてゆく筈である。
もう一、二カ月すると、ジャスマンをふりまきながら素馨(そけい)が咲き出す。花とよい、葉とよい、縫箔の文様に良いような姿をしている。此の花の中でも早く咲くのは、うんなんそけいで、或る花人が、春の萩、と呼んだ位である。素馨はモクセイ科の常緑灌木で、香りが良く、ジャスマンの原料になる。ジャスマンは香油の名前でもあり、モクセイ科のジャスマナム属の植物二〇〇種以上の総称でもある程度、素馨はその代表になつてゐる。
昔、森重明師(幸清流小波方)の主宰される相会(小波の会)が、よく山王の山の茶屋で催されたが、私は小波の師であつた松本節に連れられて、時々この会に参加したことがあつた。山の茶屋は、東京の真中でありながら、一寸、深山幽谷の感があつて私の好きなどころであつた。晩春の会が終り晩餐の頃は、ふと、ジャスマンの香りがするのである。夜霧が流れる森の中に、日枝神社の御神燈がうらんで見え、その御神燈のかけに幾株かの素馨が香りを放つていたのを今でも覚えている。
ジャスマンのように香りを放つことが出来なくても、せめて周囲の人に喜んで貰える仕事が出来ればこれに越した喜びはないと思つて

生れるのではなからうか。私は能の世界に生きる者。能というきびしい縦の線に住みながらそんなことを考へるのである。私は、能のほけしさである、ほけしさといつても表に出るはげしさではない。水山のように表に出る何倍かの容積を持つ凝集された力が好きなのである。
能は常に新鮮で若々しく、みずみずしいのは何故なのか。それは強靱な縦の線と、世界にひろがる横の線の交わりの所産なのではなからうか。

京都 金剛流・広田後援会の春期公演は、四月十六日(日)京都・金剛能楽堂で催される。午後一時三十分始。能番組次のとおり。
能 葛 城 岡治郎右衛門
谷口 正壽 前川 光隆
曾和 正博 森田 光春
間 茂山 千作
後見 金剛 崇徳
宇高 通成 松野 謙徳
重本 昌三 今井 義三郎
本木 昌三 岡田 通雄
三浦 三郎 岡田 通雄

能 善 知 鳥 谷田宗三朗
井林 清一 杉 市和
曾和 博明
間 網谷 正美
後見 金剛 崇徳
掛川 昭二 豊嶋三千春
宇高 通成 種田道雄
重本 昌三 今井 義三郎
附祝言 (五時頃終演)
主催 広田後援会
指導 宗家金剛殿
会員券申込み
京都市左京区下鴨東高木町24、
電話(〇七五)七八一八八五
または下鴨西町二八、電話(〇七五)七八一八八五

観世会定式能 (三回)
四月九日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿
能 組
河合雄一郎
久田 秀雄
河村 証二
久 江崎金治郎
江崎 康夫
吉田 定男
福井啓次郎
寛 三男
鞍馬天狗
清沢 一政
梅田 邦久
水藤 元三

久田観正会春季大会
四月十六日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿
素 安 達 原 福田 進
後藤 常治 鈴木 康友
仕 舞 敦 盛 松本 光男
小泉 重雄 小 抽 曾 我
花 笹 水谷すゞ子
小田切敏子
鶴 吉川宇良子
吉田 定男 藤田 六郎兵衛
久田 舜一郎
連 吟 五 甚 熊崎 節枝
市岡 宗子 岡田 是る
上田 照也 久田 舜一郎
番外一調 松 虫 上田 照也

西行桜
梅若万三郎 西村 敏也
高安 澄郎 河村 証二
高安 澄郎 河村 証二
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
間 大野 弘之
田中 武 塚本 秀雄
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
久田 舜一郎 藤田 六郎兵衛
後見 小島 一英 地 謡
梅若万三郎 河村 証二
久田 舜一郎 藤田 六郎兵衛

盛
久 江崎金治郎
江崎 康夫
吉田 定男
福井啓次郎
寛 三男
船渡 舞 井上松次郎
佐藤 友彦
後見 佐藤 秀雄
笠之段 梅若万三郎
仕 舞 梅若万三郎
千 手 梅若 盛義
春日竜神 梅若万三郎
梅若万三郎 西村 敏也
高安 澄郎 河村 証二
高安 澄郎 河村 証二
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
間 大野 弘之
田中 武 塚本 秀雄
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
久田 舜一郎 藤田 六郎兵衛

能 安 宅 高安 澄郎
久田 舜一郎 寛 三男
連 吟 花 月 川崎製鉄曲部 鉄 輪
仕 舞 放 下 中村 舜代子 杜 若
採 女 三宅 靖子 敦 吉川 和子
網 之 段 大場 カツ 葵 上 盛 吉川 和子
独 吟 網 之 段 伊藤 成章 四 季 桐井 喜金
独 調 調 法 師 久田 敬二
賀 茂 広中 敬樹 鬼頭 英二
阿 漕 神谷 功 吉田 定男 助川 竜夫
立 廻り 山岡 冬味 眞 鏡一
松 風 山岡 冬味 眞 鏡一
池田 松井 弘 中川 雅章
義 仲 一 柳 正直 吉田 定男 助川 竜夫
野々山 正彦 藤田 六郎兵衛
五 之 段 舞 石井 鏡子

能 安 宅 高安 澄郎
久田 舜一郎 寛 三男
連 吟 花 月 川崎製鉄曲部 鉄 輪
仕 舞 放 下 中村 舜代子 杜 若
採 女 三宅 靖子 敦 吉川 和子
網 之 段 大場 カツ 葵 上 盛 吉川 和子
独 吟 網 之 段 伊藤 成章 四 季 桐井 喜金
独 調 調 法 師 久田 敬二
賀 茂 広中 敬樹 鬼頭 英二
阿 漕 神谷 功 吉田 定男 助川 竜夫
立 廻り 山岡 冬味 眞 鏡一
松 風 山岡 冬味 眞 鏡一
池田 松井 弘 中川 雅章
義 仲 一 柳 正直 吉田 定男 助川 竜夫
野々山 正彦 藤田 六郎兵衛
五 之 段 舞 石井 鏡子

船 弁 慶 後藤 是る 鬼頭 英二
大竹 あや 寛 三男
芦 刈 安川 光雄 寛 三男
山 姥 伊藤 正子 鬼頭 好信
賀 茂 高嶋 勉 弓 之 段 加藤 忠一
偶 田 川 伊藤 正子 鞍馬天狗 平野 文彦
高 砂 村岡 純 經 正 芦原 新
小 鍛 冶 小 木 曾 進 鞍馬天狗 芦原 新
仕 舞 正 尊 水谷すゞ子
子方 水谷すゞ子
姉和 安川 光雄
義 経 柴田 武
尊 吉川宇良子 馬場 信三
井 高 衣 水野 芳子 野 宮 小田切敏子
高 柴田 芳江
仕 舞 正 尊 水谷すゞ子
子方 水谷すゞ子
姉和 安川 光雄
義 経 柴田 武
尊 吉川宇良子 馬場 信三
井 高 衣 水野 芳子 野 宮 小田切敏子
高 柴田 芳江
仕 舞 正 尊 水谷すゞ子
子方 水谷すゞ子
姉和 安川 光雄
義 経 柴田 武
尊 吉川宇良子 馬場 信三

第16回北陸中日能仮番組

昭和五十三年九月十七日(日) 正午開演
金沢市石引四一七ノ一 石川厚生年金会館

能花 月 指吸雅之助 飯島佐之六 藤川 光春
間 茂山千五郎 福井啓次郎
後見 武田 宗和 佐竹 友孝 泉沢 昭博
古橋 正士 地謡 古川 良忠 河村 晴夫

能千 手 森 茂好 河村 陽介 片岡 吉雄
後見 渡辺容之助 地謡 千原 恒男 田川 雅章
高橋 右任 大西 孝二 堀野 小太郎
宝生 英雄 金 孝介 上野 友次

能綾 鼓 森 茂好 河村 陽介 片岡 吉雄
間 福井啓次郎 森田 光春
後見 山田太佐久 地謡 佐々木 英一 島村 敏
萩 俊彦 吉谷 直次 松本 忠宏
佐々木 英一 島村 敏 佐々木 英一 島村 敏

狂言栗 焼 茂山千五郎 茂山 正義
佐野 山崎
宝生 英雄
能花 月 指吸雅之助 飯島佐之六 藤川 光春
間 茂山千五郎 福井啓次郎
後見 武田 宗和 佐竹 友孝 泉沢 昭博
古橋 正士 地謡 古川 良忠 河村 晴夫

各地だより

「杜若」の名所で謡曲

知立文化協会謡曲部が誘い
かきつばたの名勝地、三河八橋
は、在原業平の遺蹟として知られ
ているが、この八橋にある無量寿
寺(文武天皇の慶雲元年創立)に
は毎年五月、かきつばたの盛り
に訪れる観光客はさきわめて多い。
謡曲にちなむ由緒ある名どころとし
て、知立文化協会謡曲部では、き
たる五月二十一日(日)同寺の一
庭を舞台に謡曲を上演して好評を

能「羽衣」「狸々」など
岐阜護国神社奉納の新能

岐阜護国神社の例大祭の奉納と
して、昨年、初の新能が催された
が、ことしは、四月八日(土)午
後四時から、能「羽衣」「狸々」
はじめ舞獅子、独調、連調で奉納
が行なわれる。

能狸 池田一雄 高安 勝久
吉田定男 高井敏雄
白木 豊 藤田昭彦
はか糺子、独調、連調など
この新能は、満開の桜のもと、
芝生に舞台を設け、かがり火に映
える能として昨年初めて舞獅子
会が催されたが、本年から岐阜に
ゆかりのあるシテ方の諸先生に順
次おねがいする段取りで桂会が奉
納能の世話にあたりてゐる。

健康談 義

「ホツプ」の効用

最近の食生活の向上に伴い、人
々の体重が増加する様になりまし
た結果、糖尿病患者が増加する様
になり、東京を始め大都市の文化
人は、栄養過剰と運動不足で大部
分の方が糖尿病になりかねない状
態のようです。また都会ばかりで
なく田舎に住む方々の中にもこう
云う様な傾向にあり、糖尿病は不
治の難病と云われる国民病の観が
ございます。

吾等の仲間にもご多聞に洩れず
糖尿病でげんざりしてゐる方が、
何処かで岐阜の方に特効薬がある
と聞き、早速用いた処、一、二カ
月ですっかり元気を回復されたら
と実談を聞ききました。
小生も糖尿病があり早速自分自
身生体実験の心算でこれを服用し
ました。小生の体質に一致した
のか、十日目より効能善の様に
非常に良い結果が出て来て、血糖
値も普通の人と変わりなくなりま
した。

3月・4月放送予定
NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)
(3月)
19日(日) 観世流「海士」木原康次ほか
26日(日) 宝生流「雲林院」近藤 礼ほか
(4月)
9日(日) 宝生流「善知鳥」宝生英雄ほか
16日(日) 観世流「草子洗小町」橋岡久馬ほか
23日(日) 観世流「兼平」観世武雄ほか
30日(日) 金春流「二人静」金春欣三ほか
NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)
(3月)
19日(日) 金春流「三井寺」桜間道雄・宝生流「小督」
近藤 礼三
26日(日) 狂言「鐘の音」野村万蔵・「水汲」茂山千作
(4月)
2日(日) 宝生流「巴」三川 泉ほか
9日(日) 観世流「難波」藤波重和ほか
16日(日) 観世流「班女」友枝喜久夫ほか
23日(日) 観世流「班女」@同上
30日(日) 観世流「須磨源氏」関根祥六ほか

病は全治しないので、何とか無
害安全で、全治しなくても日常生活
を快適にする特効薬はないもの
かと色々開発に精進されました。
そして松井氏は自家製薬の酒類卸
小売業のビールにヒントを得て寒
冷地作物であるホップを試作し、
これを噛んでみたところ非常に苦
味で三十分以上も舌の先がシビレ
るので、これならば良薬ではない
かと考えられました。
そこで岐阜薬科大学漢方薬主任
に実験を依頼し、又富山大学薬学
部にも、更に慶応大学医学部薬学
科にも研究を依頼した処、夫々よ
り高血圧に卓効がある、糖尿病に
も効果があるとの報告を受けまし
た。そして更に松井氏は自分が古
川町老人会々長でもあるので、会
員百名にこれの服用を勧めた処、
胃腸病を切らずに治ったとか、ア
レルギー、じん麻疹、冷え症、ゼ
んそく、糖尿病性白内障、関節リウ
マチ、等々色々な病気に効果があ
る報告を得ましたので、四十八年
糖原病唯一の民間薬として、高山
保健所の指導のもとに発売にふみ
きだしたのです。
しかし日本には薬事法という法
律があって、最近これが特に厳重
になり「ホップ」の様に日本薬局
方にも何れの国の薬局方にもない
物は、薬として取扱う事は出来ぬ
との当局のお話で健康食品として
販売する事になったのであります。

友の楽能
吹上本町2-20
電話 464)
731) 7984
名古屋 36393
1年 500円
1年 800円
50円

顕彰
など
を新設
運送部門は、福劇、音楽、美術
行具、美術、美術、美術、美術

義捐金贈る
歳末助け
能楽協会名古屋支部
の義捐金を愛知県民生部に十九万
九千二百円、名古屋市民生局に十
九万九千二百円と二分してそれぞ

住友のアルミ・伸銅品
戸松冶金株式会社
取締役社長 戸松 利作
名古屋市瑞穂区二野町9番16号
電話 (881) 8111 (代表)

流金剛流
世本元
宗家発行
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9
振替東京 3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (231) 1990
振替京都 113

欧風料理
とんかつ
名古屋市千種区大久手町4-11 TEL731-3680

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科
東山整形外科
TEL781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

吉田 定男
柳原 富司
寛 三男

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

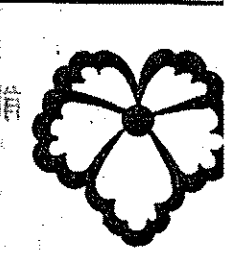
発行 能 楽 の 友
名古屋市中区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

四氏。明治三十一年野村万斎の長男に生れ、六歳のとき「観世」で初舞台、大正十二年六世万斎を襲名、昭和十五年万斎と改名、狂言界の発展と興隆、後進の指導に大きく貢献。四十二年入道。致次にわ

星市東区泉一丁目一七(三九)はかねて脳出血後遺症で療養中であつたが、四月十四日午後八時二十分逝去。享年七十八歳。氏は名古屋観世会会長として多年にわたり活躍、告別式は十六日、観世会員はじめ能楽関係者ら



つま先まで垂れる長じろもまとう全身を回転軸として、くるりと打ち返し、振り向く型がひとく小意気に見え、たがひがし



蓬 菜 軒
本店 熱田区神戸町三四 電話(071)868618
西行 桜 朝岡千代子
求 塚 谷野 博
舞臺子定 家 竹下 福子 河村総一郎 藤田 昭彦
天 鼓 森 幸子 後藤孝一郎 助川 竜夫
禮 常太郎 高安 渡部 筑 敏一 藤田 昭彦
能 金 後見 観世清頭 高橋孝一郎 助川 竜夫
後見 観世元昭 地詔 長谷川 昭一 山 義徳
亀山 雅出 沖村 竹翠 坂井 武田 志房
宗久 浜野 金峰

重要文化財 個人(人間国宝)に

文化財保護審議会(田中義男会長)は、三月二十五日、重要無形文化財、重要民族文化財、文化財保存技術の保持者などの指定を文部大臣に答申したが、人間国宝・(重要無形文化財個人指定)に九氏を認定、能楽界から宝生流シテ方高橋進氏(七)が選ばれた。

また同審議会はこの答申とあわせて技術者の高齢化や後継者難などから維持しにくくなっている伝統技術を保存するための功勞者として個人と二団体を答申したが、能楽関係では、

▽能管製作修理技術の保持者として、石川具加賀市大聖寺一本橋町一、林豊寿氏
▽能楽小鼓(扇・革)製作技術の保持者として、名古屋市中千種区

重文保存技術の保持者指定

能楽小鼓製作 鈴木磯吉氏(名古屋)
能管製作修理 林 豊寿氏(石川)

住所・東京都大田区山王四一二六一七。
賞受賞。

柴田初太郎師叙勲 卒寿の祝賀能

名古屋能楽界の長老・観世流柴田初太郎氏は、既報のように勲五等瑞宝章を受章されたが、ことし九十歳を迎えられたこととあわせ青陽会主催により、同師の卒寿祝賀能が五月六日(土)熱田神宮能楽殿で催されることになった。

能組は、番囃子「翁」(シテ河村三、千歳・青木武弘)能「嵐山」(前シテ加賀敏彦、後シテ久田秀雄)半能「石橋」大獅子(白梅田邦久、赤・久田敏二)狂言「茶屋落」(井上松次郎、井上礼之助、大野弘之)
柴田初太郎師による舞囃子「鶴亀」ほか「吉野天」(服部紗枝)「小袖曾我」(殿島修二、塚本秀雄)ほか仕舞十番で青陽会員の演出演。(番組④面掲載)

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [4月]
 - 9日(日) 観世会定式能 (有料) (米場歓迎)
 - 16日(日) 久田観正会春季大会 (番組①面) (米場歓迎)
 - 23日(日) 観昭会大会 (番組①面) (米場歓迎)
 - 29日(祭) 幸友会春の会 (米場歓迎)
 - 30日(日) 鳳鳴会大会 (番組①②面) (米場歓迎)
- [5月]
 - 3日(祭) 観世流友大会 (番組②③面) (米場歓迎)
 - 5日(祭) 舞 会 (番組③面) (米場歓迎)
 - 6日(土) 柴田初太郎師卒寿祝賀能 (番組③面) (米場歓迎)
 - 7日(日) 邦 謡 会 大 会 (番組③面) (米場歓迎)
 - 13日(土) 観世九阜会定期能 (番組④面) (有料)
 - 14日(日) 青陽会定期能 (番組④面) (有料)
 - 20日(土) 梅若齋義師追善春の猶風会(番組④面) (米場歓迎)
 - 21日(日) やるまい会公演 (番組④面) (有料)
 - 28日(日) 観 衛 会 (米場歓迎)
- [6月]
 - 3日(土) 一謡会・叶石大会 (米場歓迎)
 - 4日(日) 大槻十三・十七回忌追善能 (有料)
 - 5日(月) 熱田神宮大祭奉納能 (米場歓迎)
 - 11日(日) 観世会定式能 (有料)
 - 18日(日) 宝生会定式能 (有料)

(演能変更の際はご了承下さい)

観世会定式能 (二回)

四月九日(日) 十二時半始
熱田 神宮 能楽 殿

久田観正会春季大会

四月十六日(日) 午前九時始
熱田 神宮 能楽 殿

名古屋観昭会大会

四月二十三日(日) 午前九時半始
熱田 神宮 能楽 殿

番外連吟 菊 重 昭門会一同
成経 中村 福子
康頼 平出喜美恵
栗林 愛子 西山 愛子
目黒美保子 大奥 栄子
松原 澄子

遊行 柳 長谷川 実 橋本 正晴
油田 杉浦 茂
木曾 福本菊太郎
曾 関谷 三男

仕舞 阿 漕 田中 幸一
松 風 兄玉 正江
殺 生 石 稲葉みゆき
坂崎 勝彦 加藤木邦夫
小川 寿三

素謡 恋 重 荷 小川 寿三 玉木 敏夫
磯口健一郎 松原 澄子

石 橋 岩田 広枝 松原 澄子

舞臺子 女 郎 花 小川 寿三 筑 敏一
柳原富司忠 筑 敏一
宮 松久保美恵子 柳原富司忠 筑 敏一
野 占 鷹羽 早苗 筑 敏一
占 中村 福子 河村総一郎 筑 敏一
象 替之型 中村 福子 柳原富司忠 筑 敏一
丸山 幹子 坂井 音重

素謡 鷄 小町 丸山 幹子 坂井 音重
獨吟 阿古屋松 成田 竹藏

能 楊 貴 妃 高安 渡部 河村総一郎 藤田 昭彦
彩色 野村又三郎 藤田 昭彦

後見 観世元昭 高橋孝一郎 田 義徳
亀山 雅出 沖村 竹翠 坂井 武田 志房
宗久 浜野 金峰

幸友会春の会

四月二十九日(祝) 午前十時始
熱田 神宮 能楽 殿

鳳鳴会大会

四月三十日(日) 午前九時始
熱田 神宮 能楽 殿

番外 松 高 砂 小川 博久 突 盛キリ郷 郭太郎
風 小島 一英 殺 生 石 小川 明宏

小袖曾我 母 吉本 米子
五郎 大沢 晃 伊藤 義郎

俊 成経 間下 藤平
康頼 松井 弘 野々山 繁 村上 清

藤 戸 桑山 昭 吉川 正和
八賀 和彦

卒都婆小町 早川茂一郎 吉田 義正
伊藤 実

(④面へつづく)



能紀行 87

しだの芽を吹く頃

絵と文 二井 栄 逸

物狂いの能は、おうむね身分の軽い女性がヒロインになります...

の態度を示さないのが他の物狂いと違った特質であります...

五月も近くなりまして、この頃は各地で盛んに能が公演されます...

演能だより

山本定期能

山本定期能は四月一日山本能楽堂で能「清経」(松浦信一郎)「采女」(美奈保之伝(山本勝一))「項羽」(河村枝二)を上演...

倉本雅師「梗風会」

宝生流・倉本雅師開門会「梗風会」は同会結成二十五周年を迎え、きた四月三十日(日)夜屋川市・香里能楽堂で祝賀大会を開催する...

大蔵狂言会

大蔵狂言会(大蔵狂言会)は、三月二十六日(日)夜、大蔵狂言会が、市内の歴史ある大蔵狂言会を主催し、五月五日(日)夜、大蔵狂言会が、市内の歴史ある大蔵狂言会を主催し...

和調会春の会

和調会(和調会)は、三月五日、名古屋市市中区・栄能楽堂で春の会を開催。素謡五番、仕舞十五番、(住居表示変更)

観世・流友会(第六回)大会

五月三日(祭)午前九時半始 熱田神宮能楽殿

Table with columns for various categories (木, 頼, 高, 俊, 半, 雲, 竹生鳥, etc.) listing names and roles. Includes names like 立衆, 吉川, 正和, 藤田, 松井, etc.

川え

又謡うにしまし、う時は大きな声が出るのに、袴を...

木多都雄さんといいましたが、宮内庁に勤められて皇后様お近づきになられて...

能楽先人の訓え

「観世垂雪芸談」

又語り直ししまし
ても昔段唱歌を歌
う時には大きな声
が出るのに、荷を
はいて見台を前に
語らねばならぬと
いう時には、声が
少しも出ないで叱
られたものであり
ますが、それを申
上げました。

陛下はどのくら
い細かく御存知なの
か判りませんが、
この道の厳しいこ
とは判っていました
けたかと存じまし
た。

謡は宮中で皇居
様がおたのしみの
ようでございます
が、仲間が御相手
に上るといってなくて、待従の方が御
相手なさいているようです。せんに伝通院
前の坂にお邸のあった、三井三郎助さんの

古市公威さんがよく話されましたが、明
治天皇様は謡もよくお謡いになつたそうで
御膳食の時も御酒も強く洋酒など沢山あが
られて薬酒といひますか、お引揚げの時お
下などで口ずさんでいられたようです。
もとも余りお上手ではなかったようにい

今度の入会について流儀からは、家元を
始め在京の職分、師範からモーニングを祝
つてもらいました。式がすましましてからお
弟子の村井さんという方が、御主人の勅任
官の大礼装が焼けずに残っているの一度
着て見ないかとおっしゃって下さいとい
ましたが、背格好がピッタリ合いますので
それで記念撮影をしました。

お書きのものにもありますように新会員の
院賞の受賞者を選考するのが大切な役目な
ので、能の内から一人でも多く出ている
と都合がよいので、今度(昭和
二十八年)川崎九洲さん(葛野流大鼓家元
代理)が入られました。(この項おわり)

又語り直ししまし
ても昔段唱歌を歌
う時には大きな声
が出るのに、荷を
はいて見台を前に
語らねばならぬと
いう時には、声が
少しも出ないで叱
られたものであり
ますが、それを申
上げました。

陛下はどのくら
い細かく御存知なの
か判りませんが、
この道の厳しいこ
とは判っていました
けたかと存じまし
た。

謡は宮中で皇居
様がおたのしみの
ようでございます
が、仲間が御相手
に上るといってなくて、待従の方が御
相手なさいているようです。せんに伝通院
前の坂にお邸のあった、三井三郎助さんの

大阪
山本定期能は四月一日
山本能楽堂で能「清経」
(松浦信一)「采女」
美奈保之伝(山本勝一)
「羽衣」(河村清三)を上演。
ほかに、六月三日、七、十、十七日等、

二十五周年を迎え、きた
る四月三十日(日)夜屋
川市・香里能楽堂で祝賀大会を開
催する。
能「玉露」「羽衣」「船弁慶」
ほか。午前九時半開演。

大蔵狂言会
なごや会 大会
大蔵狂言会・なごや会(大蔵弥
太郎)は、さる三月二十六日熱
七号(〒500)

大阪市北區中崎西二丁目三番十
大阪市北區中崎西二丁目三番十
大阪市北區中崎西二丁目三番十

通小町 金丸洋子 加野昭二
仕舞 野宮 高田みね子
山崎 守部 藤子
波 越辺 節子 佐藤アヤ子

仕舞 小袖曾我 大平 敏子
班 女 後藤さくら
班 女 アト 奥田 薫

仕舞 放 福間 克彦
下 備 福間 昌作
唐 船 福間 綱一
丸 近藤 清 関谷 三男
北原良一郎

仕舞 長島美都子 伊藤すず
連 花 籃 青井 貞子
野村 園子 馬場 町子

安達原 上田 生夫 織田 照久
素 藤田 誠
地 藤原 正信
清 清水 久男 加藤 兵衛
鶴 見 理 太郎 名倉 典

弱法師 太田 高昭 高野 源三 地 河村 延二
素 藤 (一 謡会)

巻 長井 嘉生 藤本 吉雄
仕 舞 野々田 匡利 伊藤 和子
子 野 伊藤 守 寺倉 一子
方 伊藤 邦夫 内藤 義男
天 三谷 忠弘 三谷 忠弘

鞍馬天狗 野 之段 藤本 吉雄
子 伊藤 邦夫 寺倉 一子
金 井 邦夫 内藤 義男
邦 夫 内藤 義男

能玉 永井喜美子 西村 欽也
間 藤原 啓次郎 藤田 六郎兵衛

狂言 竹生島 井上松次郎 松井 直子

卷 絹 佐藤 耕司 寛 敏一 助川 龍夫
熊 野 戸田 和 後藤 孝一郎 寛 敏一 助川 龍夫

実 河野 邦男 後藤 孝一郎 鬼頭 季信
玉 井 博結 後藤 孝一郎 寛 敏一 助川 龍夫

融 後藤 孝一郎 寛 敏一 助川 龍夫

鶴 柴田初太郎 福井啓次郎 寛 敏一 助川 龍夫

山 西村 欽也 河村 延二 田 助川 龍夫
飯 富 雅也 井上 友彦 長谷川 章
後 見 久田 敬二 今村 嘉助 藤 本 重一

山 飯 富 雅也 井上 友彦 長谷川 章
後 見 久田 敬二 今村 嘉助 藤 本 重一

吉野天人 眼部 紗枝 河村 啓次郎 鬼頭 季信
近 藤 幸江 高橋 幸三 河村 啓次郎 鬼頭 季信

雲雀 安達なみ子 中山ルミ子
仕舞 政クセ 長崎 邦子 胡 蝶 植村 木子
草 紙 洗 国友 光枝 狸 々 沢田 真弓
仕舞 鶴 龜 鈴村 まつ 田 村クセ 福安すみ子
紅葉 狩 谷口 園枝

仕舞 村 月 野 村 月 野 岡本 知世子 女 角 田 洋子

仕舞 岩 船 岡本 守正 安 宅 葛原 元文

素 澤 小 濱 白 木 順子 三 浦 洋子

舞 春日龍神 葛原 正枝 柳原 司 鬼頭 季信
敦 盛 平河 和子 吉田 定男 藤田 昭彦
天 鼓 小 圃 寿子 吉田 定男 藤田 昭彦
紅葉 狩 須賀 千代子 吉田 定男 藤田 昭彦

柴田初太郎師卒祝賀能
五月六日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

附祝言
主 権 名 古 屋 巽 会
事務所 愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘
2-11-15 戸田 万

能殺生石 高安 滋郎 寛 敏一 助川 龍夫
間 大野 弘之 角田 美代子 須賀 千代子
後 見 石 辰巳 孝 地 角田 美代子 須賀 千代子
平 井 田 三 幸 今 井 田 三 幸 今 井 田 三 幸

五月五日(祝)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

高安 勝久 大野 弘之
吉井 順一 地 藤田 昭彦
武田 太志 中川 龍夫
後 見 武田 太志 中川 龍夫

五月五日(祝)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

高安 勝久 大野 弘之
吉井 順一 地 藤田 昭彦
武田 太志 中川 龍夫
後 見 武田 太志 中川 龍夫

面より柴田初太郎師奉祝賀能番組つづき

高砂 本田 豊
雲林院 長谷川 章
綱之段 野道 慶子
春日庵神 今沢 美和
舞 今沢 美和
小袖曾我 殿島 修二
塚本 秀雄 後藤 孝一郎
地謡 野道 慶子
前野 郁子 久田 純二
河村 純二

素袍落 井上松次郎
大野 弘之
井上礼之助

石橋 高安 港郎
吉田 定男 助川 三男
大獅子 高安 港郎
後見 加藤 保彦 地謡 今村 嘉男
後見 塚本 秀雄 地謡 高橋 敏彦
高橋 敏彦 久田 純二
高橋 敏彦 久田 純二
高橋 敏彦 久田 純二

〔祝賀御招待・入場無料〕
主催 青陽会
五月七日(日)午前九時半始
熱田 神宮能楽殿

番外仕舞 代主 本田 豊
須藤 源氏 須藤 市
須藤 源氏 須藤 市

舞踊子 葛城 山本 泉
葛城 山本 泉
葛城 山本 泉
葛城 山本 泉

仕舞 天 敬 横井 敬子
天 敬 横井 敬子
天 敬 横井 敬子
天 敬 横井 敬子

舞踊子 菊 慈童 牧野 あい子
菊 慈童 牧野 あい子
菊 慈童 牧野 あい子
菊 慈童 牧野 あい子

素謡 花 月 水野 美代子
花 月 水野 美代子
花 月 水野 美代子
花 月 水野 美代子

舞踊子 野 守 宮川 千尋
野 守 宮川 千尋
野 守 宮川 千尋
野 守 宮川 千尋

〔二時半頃〕
ソレ半田 仁美
ソレ半田 仁美
ソレ半田 仁美
ソレ半田 仁美

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

第二十二期・第一回 青陽会 能

五月十四日(日)午前十時半始
熱田 神宮能楽殿

狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

舞踊子 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

仕舞 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

舞踊子 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

狂言やるまい会二十周年記念 第二十一回公演

五月二十一日(日)午後一時半始
熱田 神宮能楽殿

狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

舞踊子 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

仕舞 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

舞踊子 狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之
狂言 伯母ヶ酒 大野 弘之

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

〔有料〕
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子
能千 野道 慶子

能の幽玄美 展覧会

3月17日からオリエンタル中村で
日開催される。
同展は細川家秘蔵の重要美術品

三月十九日(日)午前九時始
熱田 神宮能楽殿

素謡 萬 重信トシ子
三井寺 上野美子
三井寺 上野美子
三井寺 上野美子

四月二日(日)午前十時始
熱田 神宮能楽殿

素謡 萬 重信トシ子
三井寺 上野美子
三井寺 上野美子
三井寺 上野美子

唯子組

4月・5月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)

(4月) 16日(日) 親世流「草子洗小町」橋岡久馬ほか
23日(日) 親世流「茶平」親世武雄ほか
30日(日) 金春流「二人静」金春欣三ほか

(5月) 7日(日) 喜多流「鶴飼」粟谷新太郎ほか
14日(日) 親世流「須磨源氏」関根祥六ほか
21日(日) 親世流「頼政」野村蘭作ほか
28日(日) 親世流「賀茂」片山博太郎ほか

NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)

(4月) 16日(日) 喜多流「班女」◎女枝喜久夫ほか
23日(日) 喜多流「班女」◎同 上
30日(日) 親世流「須磨源氏」関根祥六ほか

(5月) 7日(日) 親世流「茶平」親世武雄ほか
14日(日) 親世流「善知鳥」親世英雄ほか
21日(日) 親世流「山姥」◎武田太加志ほか
28日(日) 親世流「山姥」◎武田太加志ほか

NHK教育テレビ
4月29日(祝)午前9時 能「班女」喜多流
友枝喜久夫、宝生関ほか

エンゲージリング
山田宝石
貴金属・時計・装飾品
名古屋・本山駅
電 762-2434代表

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 後田宮司筆

発行 能 楽 の 友
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

一足先きに「失礼します」と辞し
たのがお別れになるとはつゆ知ら
なかつた。
晩年はその能芸にカゲがかすか
に宿っていた。今でこそ晩年と言
えるが、この二・三年、氏独特の
品のきいた謡や、かつぶくよのよ
い

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔5月〕
13日(土) 観世九奉会定期能 (有料)
14日(日) 青陽会定期能 (有料)
20日(土) 梅若猶義師追善奉の猿蓑会(番組①面)(来場歓迎)
21日(日) 狂言やるまい会第21回公演(番組①面)(有料)
23日(日) 名古屋観能会大会(番組②面)(来場歓迎)
- 〔6月〕
3日(土) 一語会・叶石会大会(番組②面)(来場歓迎)
4日(日) 大槻十三・十七回忌追善能(番組③面)(有料)
5日(月) 熱田神宮大祭奉納能(番組③面)(来場歓迎)
11日(日) 観世会定式能(番組④面)(有料)
17日(土) 宝生流学生連盟全国大会(来場歓迎)
18日(日) (午前中)宝生流学生連盟全国大会
(午後)宝生会定式能(有料)
25日(日) 麦の会公演
- 〔7月〕
2日(日) 淡文会ゆかた会(来場歓迎)
9日(日) 朝日狂言会(有料)
22日(土) 観世九奉会定期能(有料)
23日(日) 文月会大会(来場歓迎)
30日(日) 名古屋観能会夏の茶屋会(有料)
- 〔8月〕
5日(土) 第13回名古屋新能
会場 熱田神宮境内特設舞台
6日(日) 福井啓次郎・後藤孝一郎両師独調の会
13日(日) 青陽会定期能(有料)
19日(土) 宝生流囃子会全国大会
20日(日) 同 上
27日(日) 名古屋金春会主催本田秀男十三回忌追善能(有料)
- (演能変更の節はご了解下さい)

熱田神宮例大祭は、六月五日、
神賑行事として芸能面でも各種の
行事が催されるが、能楽協会名古
屋支部主催により六月五日午前十
一時から熱田神宮能楽殿で奉納能
が催される。

熱田祭奉納能

6月5日 熱田神宮能楽殿

能 卷絹・胡蝶・鶉飾



ワキ方高安流十三世宗家・高安
滋郎氏(たかやすしげお)は、四
月二十五日正午、随障炎のため名
古屋第二日赤病院で逝去。享年六
十一歳。
通夜は二
十六日午後
七時から九
時まで、告
別式は二十
七日午前十
時から十一
時まで、名
古屋市瑞穂
区玉水町二
の六四の自
宅で執り行
な
れた。喪主
は長男杉山
守彦氏。
霊前にては
能楽協会、
日本能楽会
熱田神宮能
楽殿運営委
員会、各流
宗家、高安
会および能
楽界各会
の供花で埋
まり、文化
庁、国立美
術館、能楽
促進委員
会など、電
九十四通、
地元はじめ
東西の能楽
界から数
百人の会葬
者による焼
香が行な
われ故人の
冥福を祈
った。(関連
記事②面)

高安滋郎氏逝去

4月27日告別式執行

京都
京都新能は、きたる六
月一日、二日の二日間、
平安神宮で催される。主
催者 京都府・京都府能楽会、
午後五時半始、当日券千五百円。
六月一日 金剛流能「嵐山」(前
・広田泰三、後・豊嶋三千春) 観
世流能「小督」恐ノ舞(井上嘉久
観世流能「葛城」大和舞(片山博
太郎) 観世流能「鶉飾」真如ノ月
早装束(浦田保利) 大藏流狂言
「水掛舞」(茂山忠三郎) 金剛流
狂言「放下僧」(今井幾三郎) 金春
流狂言「山姥」(松岡金太郎)
六月二日 観世流能「賀茂」
(前松野良順、後・池内隆三) 観
塗「和泉守」(鳥越正夫)

東京
銀座狂言の会が五月十
九日銀座能楽堂で催され
るが、狂言「名取川」に
井上松次郎、井上祐一兩
氏が出演する。ほか番組は「菊の
花」(三宅藤九郎、三宅右近)「墨
塗」(和泉守、鳥越正夫)

も井筒のワキはか鬼気迫る佳きを
感得して心が冷たくなるほど感銘
した。またこれからの高安氏は堂
々とシテに対ししかもシテを越え
ない典雅な芸の持主、近い将来そ
の

氏も出動、はかにいろいろ書くこ
とが多い)。もちろん名古屋の舞
台の思い出は「三社会のこと」は
じめめきぬ。昭和四年西村滋男氏
からワキ方高安流宗家を継がれ、
長い間活躍された。呉服町・布池、
戦後の各所として熱田能楽殿の時
代である。

日本能楽会会員として重要無形文
化財に総合指定された。
梅若猶義先生七回忌追善
春の猶諷会
五月二十日(土)午前九時始
熱田神宮能楽殿

告別式は十日午後二時から東京
都台東区・浄念寺で執行。喪主は
妻多佳さん。自宅は東京都港区西
麻布四一八二二八
故野口禄久氏は東京都出身、芸
術院会員であつた故野口兼資氏の
恒例により、本紙7、8月号に

舞臺子	葛 熊 芦 実	恋 重 荷	辛都婆小町	半 部	偶 田	一調一管	木	碓	弱 法	源 氏	千 手	禾 女	春 之
象 城 野 刈 盛	後藤孝一郎	井上 和男	吉村 節	藤野さよ子	梅若 盛彦	梅若 盛彦	子梅若 盛彦	池内幸三郎	高橋 京子	鈴木喜久子	野山山 亮	後藤 政実	五月二十日(土)午前九時始
後藤孝一郎	後藤孝一郎	岡田 朗詠	梅若 盛彦	雨 月 仲頼	岡田 晃一	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	井上 良貴	佐藤 和子	杉本 良隆	三木 秀雄	熱田神宮能楽殿
鬼頭喜太郎	鬼頭喜太郎	井前 梅若池	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	梅若 盛彦	

狂言やるまい会二十周年記念
第二十一回公演
五月二十一日(日)午後一時半始
熱田神宮能楽殿

〔御来場歓迎〕
主催 猶 諷 会
後援 中日新聞
梅若 盛 義 会

十三段之舞
西村 欽也
後見 菊池 重輝
岡田 朗詠
池内幸三郎
井上 良貴
梅若 盛彦
梅若 盛彦

草 (くさびら)
山伏野村万之丞
何某 井上礼之助
久保 友彦
加藤 久裕
松本 和信
野村 万之丞
荒野 和信
光野 和信
鬼野 和信
野村 万之丞

素雅子 安宅
大坂河村総一郎
小坂福井啓次郎
笛寛 三男

武 悪
武悪 野村 万作
主 太郎冠者
野村 万之丞

重 喜
新美意野村 信行
住持 野村 又三郎
井上礼之助
佐藤 友彦

金 岡
金岡野村又三郎
妻 井上松次郎

自由席 一般二千五百円
学生 千五百円
後援 東海テレビ

電話(八三三)八〇七一
野村万之丞

あなたに心をこめ
富士道
社名 富士道
名古屋 TEL 愛知県
本ビル 工



行 紀 能

花の香子の堅

逸 栄 井 二 文 と 絵

ものふの八十少女らか
掘みまがふ
寺院の境内にこんこんと湧く泉
の水を多くの女性達が互に汲み合
う。そのほとりに淡紅色の堅香子
（かたかこ）の花がゆれている。
うつついた花弁は、少女のように
可憐であった。そのような意味を
詠んだ歌です。四月半はになると
真菜の花が散る。あひび、す

ねっこぐさ（おきなくさ）、やま
ぶき等、次々と咲き出して初夏を
呼びます。
かたかこの花を見ると、私は、
すぐ富士太鼓の子方、富士の子を
連想しますが、それは小さい体に
唐轡をつけ、あどけないひためん
に髪姿の少年がいかにも可愛かつ
たからでした。謡曲文の中には多
くの萬葉の花が顔を出しています
が、なしの花を見るとき、やはり楊
貴妃を思い出します。純白の花が
気品高く、「梨花一枝、雨を帯び
たる」のような楊貴妃のしっとり
とした表現は、梨の外には日光さ
すげ位でしょうか。
世阿弥が生誕をかねて、ひたす
ら心の演技の追究に精進をかたむ
け作った能は、何世紀を賑々と生
きぬき、時代を超え、国境を超え、
何びとも手を入れることの出来な
い前衛芸術として完成しています。
世阿弥の芸術思想は、心の演技と、
集中、ということに徹底した為、
能は他に例を見ない格調と、若さ、
強さを身につけてしまいました。
さて、現在の演能会は、ほとん
ど三番立てか二番立てかになっ
ていますが、正式の五番立ての式能
も年に何回か催されます。試能と
いうのが、試演式と、試演能の

城表の舞台の催能のことをいった
もので、現在では能楽協会主催の
もとに五流出演の五番立てで行わ
れています。
五番立ての能を世阿弥は「神・
男・女・狂・鬼」（じん・なん・
によ・きょう・き、と読む）
と、いう組方に分けてました。
初番目（神）中入後が神体にな
るもので脇能ともいう。
二番目（男）源平の武人をして
とするもので修羅物ともいう。
三番目（女）美女をしてとした
もので嬪物ともいう。
四番目（狂）狂女をしてとする
もので狂女物ともいう。
五番目（鬼）鬼や天狗の類をし
てとしたもので鬼畜物ともい
う。
この配列は、能の根本理論であ
る序破急（導入部、中心部、終末
部を意味する）の原則によるもの
で、たとえ、二番か三番立ての場
合でもその配列はそれに従って組
まなければならないとせよ。世阿弥
は
一切の事に序破急あれば
申業（さるがく）もこれ
に同じ

と説いています。五番立てと序破
急五段の配列は左のようになって
います。
初番 序 破の一段（破の序）
二番 破 破の二段（破の破）
三番 破 破の三段（破の急）
四番 急 破の三段（破の急）
五番 急

高安滋郎氏を偲ぶ
ワキ方高安流宗家・高安滋郎氏
は本名・杉山滋郎。高安流ワキ方
尾州藩西村家八代目西村弘毅氏の
長男として大正六年二月十七日生
れ。金剛右衛門、西村弘毅師に師事
大正十二年初能「狸々」、昭和四
年高安流宗家を継承、道成寺、張
良、翁足開曲、戦前の名匠原布池
財保持者、日本能楽協会、熱田
神宮能楽殿運営委員会委員、能楽
協会名古屋支部副支部長を歴任、
昭和五十二年能楽協会名古屋支部
長に就任。東京、関西、北陸、九州
などの演能にも出演し、重厚な所
演で宗家としての重きをなし、昭
和の半世紀にわたり中部能楽界に
不滅の足跡をのこし、高雅な芸風
と篤実な人間味が能楽界内外の敬
愛をうけていた。
また能楽の友誼同人として創刊
以来力を尽くされた。筆名で真



追善 能楽 六月四日(日)十二時始
熱田神宮能楽殿

散る花の会

ごあいさつ
南條 秀雄
奥村富久子

追善 能楽 六月四日(日)十二時始
熱田神宮能楽殿

追善 能楽 六月四日(日)十二時始	
能	追善 能楽 六月四日(日)十二時始
能巴	吉田 琴子
花	女アト 星野 泰子
杜	若 加藤照留子
吉野天人	伊藤 秀子
采	川瀬とよ子
恋	重荷 加藤 風来
高	砂 中川 芳子
天	鼓 伊藤 一枝
善	知鳥 足立奈々子
三	輪 青柳イヅエ
破	加納 保一
賀	下 僧 三宅川公香
乱	カクコ入
須磨源氏	山本 順之
須磨源氏	山本 順一

追善 能楽 六月五日(月)十二時始	
能	追善 能楽 六月五日(月)十二時始
能巴	吉田 琴子
花	女アト 星野 泰子
杜	若 加藤照留子
吉野天人	伊藤 秀子
采	川瀬とよ子
恋	重荷 加藤 風来
高	砂 中川 芳子
天	鼓 伊藤 一枝
善	知鳥 足立奈々子
三	輪 青柳イヅエ
破	加納 保一
賀	下 僧 三宅川公香
乱	カクコ入
須磨源氏	山本 順之
須磨源氏	山本 順一

散る花の会

ごあいさつ

南條 秀雄
奥村富久子

能とは、云うまでもなく、心技体の充実を要求される芸術です。近代医学は、ひとの寿命をこそ延ばしましたが、能に必須な諸条件の若返りまでは、無理のようです。私共は同い年で五十六才です。

能役者は五十才で一人前という持論をかねてより持っておりましたが、最早体力的には晩年にさしかかりました。此の頃、五十才で晩年と云うのは、聊か奇異に聞えるかも知れませんが、今日迄に習い憶えた能一曲一曲を、たとえ、それが花とまでではないとしても、その花びらのひとひら、ひとひらを散らす心で、私共の体力が叶うと思われず間に、精いっぱい演じて、皆様方のご高覧を賜りたく、この「散る花の会」を発足いたしました。発足すれば締結は必然であります。私どもは締結を大切にしたいと存じます。

かつて西郷隆盛は、城山で自刃するとき、側近の制止を笑って「もうこのへんでよか」といったそうです。もし、私共の心が曇って進退を躊躇ったときは、私共の肩を叩いておっしゃって下さい。「もうこのへんでよか」と。

私の恩師は幼少より出征するまでは、先代故梅若万三郎、妻は故梅若猶義、復員結婚後は、昨年急逝した観世喜之で、皆故人となつてしまいましたが、私共の今日あるのを思うにつけ、ここに、上記三師並びに日頃敬愛する斯

文化財の選定保存技術

能管づくり一筋

保持者 加賀 林 豊寿氏

国では、このたび文化財保護の立場から能管製作修理と小鼓製作技術を「選定保存技術」に選定し、林豊寿氏(加賀市)と鈴木磯吉氏(名古屋)がその「保持者」に認定された。(本紙前号既報)



「能管製作修理技術保持者」に認定された林豊寿氏(加賀市大聖寺一本橋町一三)は、昭和四年十月生れ、昭和二十四年森田流笛方(名古屋)の指導を受け、二十八年金沢、片岡吉雄師につき同年初舞台、四十一年森田流笛方、この間能管が容易に入手できない能界の事情からその製作を志し三十四年能管の内部構造をレントゲン撮影するなどその製作法を研究工夫し試作を重ねた。爾来古管に範をとって伝統の製作技術修得につ

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

散る花の会

ごあいさつ

能 葵 上

能 恋 重荷

能 卒都婆小町

能 第二回散る花の会

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

能 能 葵 上

観世会定式能(第三回)

六月十一日(日) 十二時半始

半 菰

梅若 景英 能 楽 西村 欽也 佐藤 友彦 久田 敬二 山本 勝一 後見 山本 勝一 地謡 長谷川 章 河村 証二 梅田 邦久

雀 之 段

藤井 久雄 清沢 久一 藤井 徳三 梅田 邦久 藤井 徳三 武田 邦久

女 郎 花

久田 敬二 山本 勝一 西村 欽也 吉田 定男 福井 啓次郎 鬼頭 八郎 大野 弘之

人間国宝 野村万蔵氏逝く

和泉流狂言方、野村万蔵氏は、五月六日午後十時二十九分、肝臓がんのため聖母病院で死去した。七十九歳。

観世流・増田一雄氏逝去 観世流師範・増田一雄氏(名古屋)は、脳出血後遺症で療養中であつたが、四月十四日午後八時二十分逝去。享年七十八歳。

Table with subscription information: 種区吹本町2-20, 番号 464, 7 9 8 4, 名古屋 3 6 3 9 3

重要文化財(個人)指定 (人間国宝)に 賞受賞。住所・東京都大田区山王四一七。

重文保存技術の保持者指定 賞受賞。住所・東京都大田区山王四一七。



賞受賞。住所・東京都大田区山王四一七。

演能の記録

野村又三郎の「釣狐」

東京・観世能楽堂の「能楽鑑賞の会、第二十一回公演」(三月三十日)で狂言「釣狐」(野村又三郎、野村万蔵)の二番が催され、野村又三郎氏が東京では初めての

盛義の「善界・黒頭」を観る

竹尾邦太郎

合が持続します。シテは正中で正を向き、ツレは地前目付仕に對し、安坐しての眉が凝然と存在感があり、そしてシテの胸中を過る感情を地が余情たふりに謡います。地謡岡田朗以下地の地謡、詠唱力は曲趣を描写して遺憾がありません。

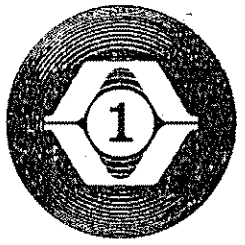
朝日新聞 「同じ和泉流ながら万作とはまるで違った狐を見た。狐のもつ陰鬱な執念よりは、一族の仇討を企む悪戯狐のひよきんが前に押し出され、必要以上の緊迫感を感じられ、刀んだアドの万之丞をやや拍子抜けさせた。

Advertisement for 'Ipponryu' (一平流) featuring a large stylized character '軒' and contact information for various branches.

Advertisement for CBC 5 (CBC-TV) with logo and broadcast schedule: 18:00-18:30

豊春会春の能 5月21日京都・金剛能楽堂 金剛流・豊春会(豊嶋三千春師)は、恒例の春の能を五月二十一日(日)金剛能楽堂で開催する。

Table with broadcast schedule for NHK and NHK-FM, listing dates and program details for May and June.



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 藤田官司筆

発行 能 楽 の 友

名古屋市千種区吹上本町2-2

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 500円

郵送の場合 1年 800円

一 部 50円

能(観) 井

後前 久田 秀雄
筒 邦弘

西村 欽也

吉田 定男
福井啓次郎

藤田 昭彦

「観賞の手びき」
「清経」世阿弥作

演の曲目。神苑の緑に映える新の
明りのもとに各流の気鋭と老練の
所演が大いに期待されるところで
ある。

8月5日、能3番上演

「名古屋新能」はことし第十三
回を迎え、きたる八月五日(土)
熱田神宮神楽殿前・特設舞台で催
される。

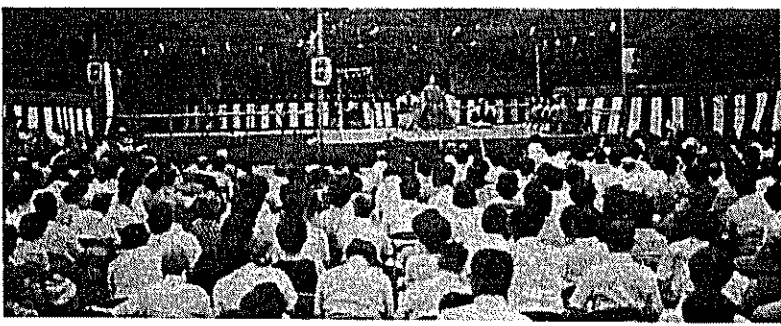
名古屋新能は、精進能楽の夕と
して昭和四十一年から毎年能楽協
会名古屋支部主催、名古屋市、中
部能楽師会の後援で催され、緑陸
にくりひろげる野外能として親し
まれてきている。

昨年最初の試みとして二日間に
わたり開催されたが、ことしは、
諸般の関係により八月五日(土曜
日)の一日だけの演能として、中
部能楽師会の総出演により能三番
狂言一番、舞囃子、仕舞が予定さ
れている。

重要無形文化財総合指定 中部 新たに九名認定

社団法人日本能楽会では、この
ほど新たに認定された重要無形文
化財総合指定能楽保持者六十四名
の新人会を決定したが、当中部地
区から次の九氏が入会した。

- ・久田秀雄氏(六四)
- ・梅田邦久氏(四七)
- ・笛方藤田流(一)
- ・寛三男氏(五六)
- ・小鼓方幸清流(一)
- ・福井啓次郎氏(四八)
- ・後藤孝一郎氏(四七)
- ・大鼓方大倉流(一)
- ・寛一氏(四七)
- ・吉田定男氏(五〇)
- ・河村総一郎氏(四五)
- ・太鼓方観世流(一)
- ・助川寛夫氏(五三)



演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [6月]
- 17日(土) 宝生流学生連盟全国大会 (来場歓迎)
 - 18日(日) (午前中) 宝生流学生連盟全国大会 (有料) (番組1面)
 - (午後) 宝生会定式能 (有料) (番組1面)
 - 25日(日) 麦の会公演 (有料) (番組1面)
- [7月]
- 2日(日) 淡文会夏の練成会 (来場歓迎) (番組2面)
 - 9日(日) 朝日狂言会 (有料) (番組2面)
 - 22日(土) 観世九卓会定期能 (有料) (番組2面)
 - 23日(日) 文月会大会 (来場歓迎)
 - 30日(日) 名古屋観世会夏の楽謡会 (有料) (番組3面)
- [8月]
- 5日(土) 第13回名古屋新能 熱田神宮境内特設舞台 会場
 - 6日(日) 福井啓次郎・後藤孝一郎両師独演の会(来場歓迎) (有料) (来場歓迎)
 - 13日(日) 青陽会定期能 (有料) (来場歓迎)
 - 19日(土) 宝生流楽託会全国大会
 - 20日(日) 同上
 - 27日(日) 故本田秀男師追善会 (来場歓迎) (有料)
- [9月]
- 3日(日) 大衆能 (有料)
 - 9日(土) 鬼頭八郎師喜寿祝賀会 (来場歓迎)
 - 10日(日) 名古屋観世会定式能 (有料)
 - 15日(祝) 宝生会定式能 (有料)
 - 16日(土) 観世九卓会定式能 (有料)
 - 17日(日) 淡文会 (来場歓迎)
 - 23日(土) 泉狂言会 (来場歓迎)
 - 24日(日) 和舞大 (来場歓迎)
 - 29日(金) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 30日(土) 日本能楽会名古屋公演 (有料)
- (演能変更の節はご了解下さい)

能組予定は次のとおり。
●八月五日(土)
宝生流能「清経」(シテ衣斐正直)
観世流能「井筒」(前シテ久田秀雄、後シテ武田邦弘)
狂言「曹掣」野村又三郎、井上松次郎ほか
観世流能「鞍馬天狗」(前シテ殿島修二、後シテ梅田邦久)午後五時半始、前売券千二百円当日券千五百円。
(写真：昨年の名古屋新能)

演能案内

第廿二期・第二回
名古屋宝生会定式能
六月十八日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

御願い 一応確保しておりますが、素謡「巻網」終了迄にお出掛け下さる様お願い申し上げます。	後援 中日新聞	主催 名古屋宝生会	名古屋市中区和区山里町一三五 内藤泰二方電話三三三四四九
---	------------	--------------	---------------------------------

<p>本日のにについて</p> <p>熱田神宮能楽殿</p> <p>西田 三好</p>	<p>山 姥 吟</p> <p>菊 正 舞</p> <p>殺 生 石</p> <p>高橋 暎一</p>	<p>寛 高安 勝久 後藤孝一郎 吉田 定男 森本 重一</p> <p>井上松次郎</p>	<p>俊 寛 高安 勝久 後藤孝一郎 吉田 定男 森本 重一</p> <p>井上松次郎</p>	<p>井 筒 西村 欽也 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛</p> <p>井上松次郎</p>	<p>船 舟 西村 欽也 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛</p> <p>井上松次郎</p>	<p>附祝言</p> <p>喜多流 長 田 田 徹</p> <p>観世流 久 田 田 徹</p>	<p>入場券 二、〇〇〇円</p> <p>熱田神宮能楽殿</p> <p>各出演者宅</p>
---	---	---	---	--	--	--	---



名古屋本社：名古屋電
東京本社：東京電
北陸本社：金沢電





能紀行

おもかげ

絵と文 二井栄逸

二十四、五才から三十才位までの女性の面の中でも孫次郎は傑出してゐるようです。傑出してゐるといふ意味は、能楽師が自分の分身としての面を最上とみるのではなく、絵かきが美の対象として眺めた場合の意味です。たしかに、孫次郎には最上の美が秘められて

能楽功労者表彰

観世流殿島修二、杉村竹翠、河村鉦二、塚本秀雄、四氏

社団法人日本能楽会(会長高喜多実氏)は、多年にわたり能楽界につくした功績を顕彰して各流高師者表彰を行ない五月末、表彰状と記念品を贈つた。

家内をなくして、何事でもすがすがしく、大きな支えを

深井(ふかい)の子が小面(おもて)で、その小面の子という意味で孫次郎という名前がついたという説がありますが私にはよく分りませんが、やはり、私は、金剛孫次郎が亡くなった若妻を忘れることが出来ず、ひそかにその面影を打ったのが孫次郎という説を信じます。

伊勢路の吾が家には、今、日光さすけ、夕化粧、白糸草等が同居して咲き競っています。花の命にも似て短かかった薄幸の金剛孫次郎はその生涯の中に、先立った妻の面影を必死に打ちつけ完成しました。時代を超えて現在、未来と生かすつづける孫次郎を思う時、私はほろびざる仕事の専心さしみじみ思うのです。

淡文会夏の錬成会素謡組

七月二日(日)午前九時半始 熱田神宮能楽殿

神歌

- 池上 楠 千歳野口 清子
丸山 貞介 河合 正次
北島 貞一郎 松本 久子
千早 光子 下枝 純子
原 小夜 芝 義美
後藤多加子
松浦喜代一
藤井 喜美
川口美樹子
立栗 吉川波奈子
貴之 鳥沢 信子
伊塚トシ子
草子洗小町 運 吟
鳥沢 信子
玉之段 竹井 喜信
菅田 彰治
上野 一美
中島 一美
大原 四郎
早川 功一
長沢 三郎
杉山 正雄
小川 久夫
賀 茂 天女 佐藤 淑子
前ツレ 佐藤 道子
伊藤 長八
長沢 良子
今井喜代子
三井寺 長沢 良子
土屋 美根
小島 一臣
藤田 喜作
小 督 トモ 高木千鶴子
ツレ 外賀 静香
鳥沢 重男
大庭 克子
早川 良
富士太鼓 加藤 孝長
早川 良
笠之段 伊藤 篤
西尾 三子男
篠原 真次
勸進帳 鳥沢 昭夫
独吟 篠原 真次

大阪だより

本年後半期の演能

- 山本定期能
山本定期能楽会の七月公演は七月二日十二時半から山本能楽堂で催される。
能「俊寛」(八木康夫)「梅枝」(山本勝一)「船弁慶」(千崎隆)
今後の公演日程は次のとおり。
九月三日能「狂正」(遊行者)「紅」(遊行者)
九月七日能「芭蕉」(井)
「御茶屋」(遊行者)「御茶屋」(遊行者)

第二十回朝日狂言会

七月九日(日)午後一時半始 熱田神宮能楽殿

鶏 鷺

- 佐藤 融 佐藤 友彦
佐藤 秀雄 大野 弘之
茂山千五郎 茂山千之丞
藤田六郎兵衛
小松 柳原富司忠
大野 鬼頭 八郎

塗師平六

和泉 保之 野村又三郎

武 悪

茂山千之丞 茂山 正義

釣 針

井上松次郎 井上礼之助

班 女

長谷川 章 西村 敏也
飯富 雅介 吉田 定男
飯富 秀雄 佐藤 友彦
飯富 秀雄 佐藤 友彦

魚 説 経

茂山千五郎 茂山千之丞

五段神楽

藤田六郎兵衛 小松 柳原富司忠

塗師平六

和泉 保之 野村又三郎

武 悪

茂山千之丞 茂山 正義

釣 針

井上松次郎 井上礼之助

班 女

長谷川 章 西村 敏也

魚 説 経

茂山千五郎 茂山千之丞

五段神楽

藤田六郎兵衛 小松 柳原富司忠

塗師平六

和泉 保之 野村又三郎

武 悪

茂山千之丞 茂山 正義

釣 針

井上松次郎 井上礼之助

班 女

長谷川 章 西村 敏也

魚 説 経

茂山千五郎 茂山千之丞

五段神楽

藤田六郎兵衛 小松 柳原富司忠

名古屋観世九奉会定期能

七月二十二日(土)午後一時始 熱田神宮能楽殿

班 女

長谷川 章 西村 敏也

魚 説 経

茂山千五郎 茂山千之丞

五段神楽

藤田六郎兵衛 小松 柳原富司忠

塗師平六

和泉 保之 野村又三郎

武 悪

茂山千之丞 茂山 正義

釣 針

井上松次郎 井上礼之助

班 女

長谷川 章 西村 敏也

魚 説 経

茂山千五郎 茂山千之丞

五段神楽

藤田六郎兵衛 小松 柳原富司忠

卒寿の祝賀能
青陽会主催で開催
名古屋能楽界の長老・観世流宗
田初太郎氏は、既報のように觀世
等瑞宝章を受章されたが、ことし
九十歳を迎えられたこととあわせ
年令を超えた見事な舞いで、見所

友の楽能社
〒100 東京都千代田区吹上本町2-20
電話 464
(731) 7984
名古屋 36393
1年 500円
半年 250円
1年 800円
半年 400円

去る四月二十五日ワキ方高安滋郎氏逝去。享年六十一才。まことに悲しい。
家元高安氏とは四月下旬の観世会(名古屋)で、能の終った後の静かな楽屋で、しばらく当日の能について話し合ったのが最後の対話となった。当日の盛久(シテ上田照也、ワキ江崎金次郎)と西行楼(シテ梅若万三郎、ワキ高安滋郎)のワキの進退についてであった。いつものように、口元に小さく笑いをたたえて語られるそのなごやかな顔付には、能を伝えていくべきしさと真剣さがしみじみとうかがわれて感にたえなかった。一足先きに「失礼します」と辞したのがお別れになるとはつゆ知らなかった。

「とても面白かった。演目にバラエティがあって終演まで倦まなかった」
「満員の見所も満足した体だったね。かわいい「重喜」からはじまって、にぎやかな「我」で打上げると、舞台の出来も平均して良かった」
「武蔵」が一番面白かった。芝居を見るように劇的な緊迫感に溢れた感じ。演者三人(万作、又三郎、万之丞)の意気もどっぴりだったね」
「その通りだが、や、緊迫感に溢れ過ぎた気がしないでもない。武蔵の幽霊の出る後半、又三郎の主の科白(シグサとセリフ)に世話がかったところがあつたようだが、前半の緊張感をほぐす手とまた残酷な男から病弱な男へ、その変り目の不自然さを避けようとする配慮ともうけた。このあたり、はめてよし、トガめてよしという微妙なところだ。わかるかな」
「わからない、独り合点のウガチ過ぎは君の悪いけど」
「そう思って聞き流してくれろと有難い。とにかく見物者は演出

能楽奉納

神宮能楽殿
蝶・鶉飼

6月1、2日 平安神宮で
京都新能は、きたる六月一日、二日の二日間、平安神宮で能される。主催 京都府・京都府能楽会、観衆 京都府民、当日券千五百円。午後五時半始、当日券千五百円。六月一日 金剛流能(嵐山) (前)

追憶無限

高安滋郎氏のこと

野村広二

も井筒のワキはか鬼気迫る佳さを感得して心が冷たくなるほど感銘した。またこれからの高安氏は堂々とシテに対ししかもシテを越え、ない典雅な姿の持主、近い将来その

「やるまい会」見たま

前田満穂

よくわからない。能がかって上品なところがどうしていいのかわね」
「能がかった狂言は他にもあるが、一体に狂言が大事がるほど素人には面白くないようだ。能は能、狂言は狂言と割り切って、それぞれの木質を生かした演目に興味を寄せる現代人には、能のバロデイクとも見える狂言が歓迎されない……というより、その面白味がピンと来ないのも無理はない。老巧老熟の名人級にして、はじめて演(し)生かされるものではないかな。それがそれだけの習いものたるゆえんだらう」
「「我」(万之丞、礼之助、万作ら大勢)は文句なしに楽しめた。これこそ狂言だなあという気がしたよ」
「「重喜」(信行、又三郎)同様、無邪気で罪がない。こんな天衣無縫の明るさ、人を食ったユーモアが、思つまる管理社会に生きる現代人には魂の救いと写る。舞台のにぎやかさに、とかくのアラも目立たず、見所は大喜び大笑いでめでたしめでたし」(五月二十一日、熱田神宮能楽殿)

長、熱田神宮能楽会、長谷晴男氏、本年三月四日付で神職階位降階、同身分一級に昇進した。

を望んだのに、その希望は空しくわが胸におさめねばならなくなつた。惜しむても余りあると申すはかばかしい。
父弘敬氏譲りの、味わいこそちがえ、備ワキの見事さ、大原御幸の青色の袴姿もよい。独武者も



八橋・無量寿寺で
「杜若」素謡会盛會
知立市文化協会謡曲部
本紙三月号既報のとおり、かきつばたの名所、愛知県知立市八橋の無量寿寺境内・休息室において五月二十一日知立市文化協会謡曲部主催の「杜若」素謡会が催された。「写真」
この催しは、だれでも自由に参加できる会で、当日は観世流の地元(熱田)の同好者をはじめ、豊田市、名古屋からも謡曲愛好者が参加し、午前十時から始曲、午前中三回、午後四回、繰り返しにぎやかに「杜若」が謡われ、仕舞も三番が演ぜられ午後三時半終了した。今を盛りと咲くかきつばたを觀賞する人々も会場のみならず、杜若池の中につくられた亭からしずかに耳を傾ける人も多数あり、ひ

梅若猶義先生七回忌追善

春の猶諷會

谷口喜代三氏逝去

大鼓・石井流家元代理
石井流大鼓方・谷口喜代三氏(たにぐち・きよぞう)は、五月二十八日午後五時四十分、心不全のため京都市西京区の西京病院で逝去された。享年八十二歳。
自宅は西京区桂町四四一二六。告別式は五日午前十時から岡崎別院で行なわれた。喪主長男正盛氏。
谷口氏は大鼓石井流家元代理。大鼓方の重鎮として活躍、後進の育成、指導につくし、昭和四十年日本能楽会会員として重要無形文化財に総合指定された。
◎謹告
暑中広告の掲載
恒例により、本年7、8月号に

宝生流全曲旅の友

宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。
合本(全一冊) 定価¥27,000 (送料別)
天・地・人(三冊) 定価¥30,000 (送料別)
天の巻(翁・あ〜こ) 地の巻(き〜と) 人の巻(な〜ろ・蘭曲)
わんや書店 東京中央区豊洲 8-7-5
電話 (03) 710-0511

富士道の婚礼道具

家具の富士道

あなたに心をこめておくりする……

本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL代表 (262) 5547
愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

中華料理 桃源亭

御宴会・御集會・御商談等には是非御座敷を御利用下さい

中区栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081
支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋

城

割烹・小料理

- 熱田神宮能楽殿喫茶部
- 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
- 喫茶・グリル(愛知評地下ビル) 電話 731-1128

名古屋鉄道株式会社

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能 楽 の 友

名古屋市中種吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

第10回 大衆能

9月3日 熱田神宮 2部制で 能楽殿

能楽協会名古屋支部主催による「大衆能」はことし第十九回を迎え、愛知県、名古屋市、朝日新聞社、中部能楽師会の後援により、九月三日(日)熱田神宮能楽殿で開催される。

「大衆能」は例年愛知文化講堂あるいは市民会館ホールで行なわれてきたが、今回は熱田神宮能楽殿を会場とし、第一部(午前十時

重要無形文化財総合指定 日本能楽会64名増員

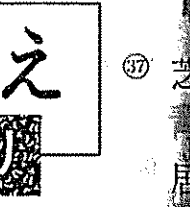
社団法人日本能楽会(喜多実会長)は、既報のように新たに認定された重要無形文化財総合指定能楽保持者の増員を決定したが、新会員はシテ方三十八名、ワキ方二名、笛方三名、小鼓方七名、大鼓方七名、太鼓方四名、狂言方三名の六十四名である。なお今回は第六次の増員で総員三百三十三名となる。(五十三年六月現在)新会員は次の諸氏。(敬称略・中部地区関係分月号既報)

故高安滋郎氏追叙
勲五等雙光旭日章
ワキ方高安流十三世宗家・高安滋郎氏は、さる四月二十五日逝去されたが、政府では、このたび同日付で勲五等に叙し、雙光旭日章を授与しその功績を顕彰した。

暑中御伺い申し上げます
暑中御伺い申し上げます
熱田神宮 宮司 篠田 康雄
権宮司 長谷 晴男

「武悪」という上方風の濃茶のあ
「良い悪いの問題じゃない。五
月にあった」やるまいか。の「武
悪」と較べてみるといい。あれは
た。「流平六」(和泉保之)の
「流平六」(和泉保之)の
「流平六」(和泉保之)の

観世元正 東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四	鳳鳴会 武田太加志 名古屋市中区葵二丁目一十九 吉田 義 正 方	幽花会 片山慶次郎 〒603 京都市北区山下花ノ木町二一 電話 四九二一―五三〇三番	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏 大阪市東区上町二番地	山本観衛会 山本勝一 〒662 西宮市南郷町五一―二二 電話 〇七六(七三) 四七七八	梅若盛義 梅若盛義 梅若盛義	梅若三郎 梅若三郎 梅若三郎	梅若万三郎 梅若万三郎 梅若万三郎	梅若万佐晴 梅若万佐晴 梅若万佐晴	幽謳会 片山博太郎	名古屋橋岡会 名古屋市中区丸屋町五ノ三五 山田紀子方 上田 観正 会 社団法人 観正 会 上 田 照 也	武田小衛 武田小衛 武田小衛	武田欣司 武田欣司 武田欣司	武田邦弘 武田邦弘 武田邦弘	井戸良造 井戸良造 井戸良造	井戸和男 井戸和男 井戸和男
--------------------------------	---	---	-------------------------------------	--	----------------------	----------------------	-------------------------	-------------------------	--------------	---	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------



芝居は好きです
何しろ梅若の父
ね。

能は能、芝居は芝居で全然別ですが、自分
の芸に忠実でなければならぬことが、当然
ながら同じでありましょう。だから芝居か
ら漏れてくる自分やっつてみたいにく
たりしたものです。
今の私からは想像も出来なと思います

だがその方は何しろ能の着附でいやという
程経験していますから大丈夫です。
日本駄右衛門が私で、弁天小僧は今の方
三郎さん等の兄さんの竜雄、忠信利平が青
木只一、赤星十三が青木永三、そして南郷
力丸が鉄之丞で、捕手にはその頃の物着方

表
久田徹二
長田 堯

佐野由於
金剛流華月会
今井 幾三郎

今井 幾三郎



山ぼうしが白々と緑の樹間に映
く頃となりました。此の花木は、
どういふものか数が少なく、ここ
らあたりの山ではあまりお目にか
かることが出来ません。取り立て
てきれいな花ではないのですが、
初夏にはどうしてもほしい花です。
少しベージュがかかったのや、緑が
かったのもあって、私には好まし
い花の一つなのです。

能にお目見得する花々は、ほと
んどが萬葉の花ですが、やまぼう
しは出てこないようです。これは
牡丹が深見草とか、山橘の名で出
ているように、別の呼名で顔を出
しているのかも知れません。
私は、花は勿論、花の咲かない
樹々や、葉等も含め、すべての草
木を花と呼びますので、ほとんど
の能には私の呼ぶ花がお供をして
いる理です。
最高の三番目物とされる芭蕉は
専ら清高幽雅の詩情を表現した能
で、他の三番目能のように、恋愛
とか、人間
的情味等を
ふくんでい
ません。そ
して、草木
の梢には皆
太鼓の序の
舞が入るの
ですが、こ
の曲には太
鼓を用いな
いで皎々と
降る月光の
下に現れる
思いきり
伊賀のつばにやまぼうしを生け、
青だたみの床に置くと、古代の文
化がよみがえってきます。そんな
時芭蕉の初句を讀むたくなのは当
然のことと思います。

演能写真
ウシマド写真工房

財団法人 鎌倉能舞台
中森 晶三
中森 貫太

竹韻会
杉村竹翠

松音会
泉泰孝

毎日婦人文化センター
風韻会
殿島修二

邦謡会
梅田邦久

徳島正韻会
徳島市吉野本町四三谷内
電話徳島(五二)四七四番

講誦会 里井順次郎
玉鑾会 永徳堂西町二〇
洗心会 南条秀雄
華心会 奥村富久子

大垣浦声会
浦田保利

田村正韻会
大阪市東区東區合町一五七
電話大阪(七〇五)二四〇〇番

久田親正会 久田徹二
大倉流小鼓 久田舜一郎
松月会 久田秀雄

一誦会 河村鉦二
叶石会 河村総一郎

雄議会 下田雄三
水雲会 水藤元三

壺泉会 嘉嘉夫
名古屋市昭和区山里町一〇三
電話 八三二一三三
西宮市甲陽園目山町一の一七八
電話八〇七九八V 二四五八

名古屋観世九皇会
観世武雄

名古屋修諷会
梅若修一

久田親正会 久田秀雄
大倉流小鼓 久田舜一郎
松月会 久田秀雄

野高吉 塚本秀雄
高木武 加藤保章
青木美智 長谷川滋子
吉田美智 有賀川

嘉誦会 加藤兵衛
新住所 名古屋市千種区田代町板伏22-38
星ヶ丘ハイム102 電話大1-4882

柴田初太郎
名古屋市千種区本山町一三三
電話(七五二)六六七六番

名古屋観世九皇会
観世武雄

名古屋修諷会
梅若修一

能 紀 行

やまぼうし
絵と文 二井栄逸

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

〔7月〕	22日(土) 観世九皇会定期能 (有料) (番組④面)
	23日(日) 文月会大会 (米場歓迎)
	30日(日) 名古屋観世会夏の素謡会 (有料) (番組④面)
〔8月〕	5日(土) 第13回名古屋新能 (番組⑥面)
	会場 熱田神宮境内特設舞台
	6日(日) 福井啓次郎・後藤孝一郎両師独演会 (米場歓迎)
	13日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組⑤面)
	19日(土) 宝生流囃託会全国大会
	20日(日) 同上
	27日(日) 故本田秀男師追善 (番組⑤面)
	同門会 (米場歓迎)
	追善能 (有料)
〔9月〕	3日(日) 大衆能 (有料)
	9日(土) 鬼頭八郎師壽賀祝賀会 (米場歓迎)
	10日(日) 名古屋観世会定式能 (有料)
	15日(祝) 宝生会定式能 (有料)
	16日(土) 観世九皇会定式能 (有料)
	17日(日) 淡交会 (米場歓迎)
	23日(土) 和泉狂言会 (米場歓迎)
	24日(日) 融雲会大会 (米場歓迎)
	29日(金) 中日文化センター発表会 (米場歓迎)
	30日(土) 日本能楽会名古屋公演 (有料)
〔10月〕	1日(日) 竹韻会大会 (米場歓迎)
	8日(日) 青陽会定期能 (有料)
	10日(火) 正風会 (米場歓迎)
	14日(土) 修風会15周年記念大会 (米場歓迎)
	15日(日) 修風会15周年記念能 (米場歓迎)
	21日(土) 長田親後援会 (有料)
	22日(日) 風韻会大会 (米場歓迎)
	28日(土) 一誦会・叶石会大会 (米場歓迎)
	29日(日) 誦案会大会 (米場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

能楽先人の訓え

観世華雪芸談

芝居は好きです。何しろ梅若の父が大変好きだったので、どんなつまらないものでも欠かさずゆきました。が、気に入ったものがかかると三度位はゆきましたからね。昔は一掛四人づめなので、梅若の父の外、母はつき合いで私は腰さんちやくです。好きなのは市村座時代の菊五郎、吉右衛門で、これがかかさず観ています。個人的なつき合いはありません。

大阪の手塚雅三さんの先代亮太郎さんが梅若に修業に誘われていて、六月三日の梅若の祖先祭に仮装することをすすめられましたが、何しろ皆若かったものだから大変喜んでやりだし、それがいつの間にか芝居をするようになってしまったのです。三十年も前のことですがね。

「人に情を掛川から」とやっていると内につかえたので、「こぞ」と紙を見るのですが文字が一向にわからなから、何となく一杯と、飲めもしないのに来たか飲んでいたのその酔い一度に廻って来ているのでそれこそ酔ももうろうなのです。いや弱りましたね。一寸飛ばして「賊徒の服本日本駄右衛門」と見舞は切りましたが、おこがましいことですが、よう私のようなものに二百番からの謡が覚えられたものだと思えました。

私が菊五郎、吉右衛門、三津五郎はよく能を見に来ていましたから、こちらも何となく好きでしたし、芸の私の好みにあうのかやはり楽しみにして見ました。殊に三津五郎の所作事は少しもごまかさないというのが、能の気持と同じで一番好きです。

日本能楽功労者表彰

狂言方 河村丘造氏受賞

社団法人日本能楽会(喜多美会長)は多年にわたり能楽界につくした功績を顕彰して高年齢表彰を行なったが、中部能楽界関係では観世流シテ方として殿島修二、杉村竹翠、河村鉦二、塚本秀雄の諸氏(以上四代既報)とともに、狂言方、和泉流・河村丘造氏が表彰された。

また故観世流佐藤大俊氏(昭和五十二年十二月十八日逝去)も表彰された。(表彰決定後逝去)

河村丘造氏

和泉流狂言方、明治二十八年六月二十三日生れ。名古屋狂言界の伝統に新しいページを記した狂言共同社の創立者の一人、河村鉦三郎師を父として明治三十二年初舞

私は余り上手じゃありませんが、いつか「弁天娘男女白浪」(べんてんむすめをのしらなみ)の五人男の勢揃いをしました。やはり祖先祭のことです。先生は余り名の聞えぬ本職で、衣裳は全部借衣裳で衣裳方が来てつけて呉れましたが、人形のように

三郎、三川泉、本間英孝、高橋勇、塚田光太郎、小倉敏克、中村孝太郎、ワキ方森常好、囃子方は笛・眞三男、小鼓・福井啓次郎、大鼓

宝生流能楽団演能

南米移民七十周年記念を記念して、宝生流能楽団では、さる六月二十日渡米、六月二十四五日の両日、サンパウロ市立劇場での公演を振出しに、ブエノスアイレス、ニューヨーク、ロスアンゼルスなど各地で計九回の公演を行ない、七月十日帰国した。

7月・8月放送予定

●NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)

- [7月] 16日(日) 観世流「山姥」◎武田太加志ほか
- 23日(日) 金剛流「大江」◎広田隆一ほか
- 30日(日) 喜多流「天鼓」◎喜多長世ほか
- [8月] 6日(日) 下懸宝生流「女郎花」◎松本謙三ほか
- 13日(日) <高校野球放送>
- 20日(日) 故人をしのんで「末広」◎梅若盛義・梅若修一
- 27日(日) 観世流「蟬丸」◎梅若善高・井戸良造・井戸和男

●NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)

- [7月] 16日(日) 観世流「楊貴妃」◎梅若景英ほか
- 23日(日) 観世流「景清」◎藤井久雄ほか
- 30日(日) 下懸宝生流「女郎花」◎松本謙三ほか
- [8月] 6日(日) 宝生流「頼政」◎宝生英雄ほか
- 13日(日) 観世流「三井寺」◎◎梅若万三郎ほか
- 20日(日) 観世流「三井寺」◎◎梅若万三郎ほか
- 27日(日) 金剛流「大江」◎◎広田隆一ほか

ウシマド写真工房

248 鎌倉市長谷三ー五ー一三 電話(〇四六七) 〇五五五七

竹韻会 杉村竹翠

東京都杉並区宮前四一ー九一四 電話(〇三三三) 八二八〇番 大阪府東区諏訪一ー三一一八 電話(〇六九六八) 三五一四番

表の会

921 金沢市泉野町四丁目十二ー二十四 佐野由於

京都府京山区知恩院山下下町四五 電話(〇七五) 五六一ー五四〇八

熊沢恵美子 名古屋市名東区平和ケ丘3ー176 日車マンション四〇四

内藤泰二 大山市大山字相生五九一ー一六 電話(〇五六八) 〇四五〇一

李川周子 名古屋市千種区西崎町3ノ6

菊田後援会 名古屋・京都・名張 東京・亀岡・綾部

吉川会 名古屋市千種区西崎町3ノ6

今井清隆 今井幾三郎

尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六一五) 〇三三〇四

竹腰勝一

廣田隆一

各務原市那加桜町2ー11 電話(〇五八三) 〇二七九四番

吉田俊彦

廣田泰三

岡崎市鶴田本町十一番地ノ三 電話(〇五六四) 〇二五二九

倉本雅

廣田泰能

名古屋市名東区猪高町上社足廻間84 電話(〇五三) 七〇三三ー五七七番

緑宝会 名古屋市東区中町一ー13ー26 本山アーバンライフ 四〇一

金春信高

清瀬会 今村嘉男

加藤勝利 名古屋市緑区鳴海町池上16ー10 電話(八九六) 三三四二八番

金春安明

宝生英雄

金剛永謹

本田光洋

宝生英照

金剛永謹

金春欣三

近藤乾三 東京都豊島区東鴨五ー二二三八

金剛永謹

金春欣三

名古屋巽辰巳会

中部金剛会

林鉄郎

演能案内

名古屋観世九阜会定期能

七月二十二日(土)午後一時始
熱田 神宮 能楽 殿

長谷川 章
西村 敦也 吉田 定男 藤田 昭彦
飯富 雅介 福井 良久

狂言 佐藤 友彦
佐藤 秀雄

清水 井上礼之助 佐藤 友彦

仕舞 小島 芳雄

道明 寺 盛 佐々木勝郎
松 風 五木田武計

鉄輪 塚本 秀雄
高安 勝久 寛 敏一 鬼頭 八郎
飯富 雅介 關原 富司忠 鬼頭 秀信

附祝言 大野 弘之

〔有料〕 主催 名古屋観世九阜会
事務所 名古屋南区九塚町一十一一七
加藤保彦方 電話(六一一)三六五九番

観世会夏の素謡会

七月三十日(日)十二時半始
熱田 神宮 能楽 殿

生駒美代子

近藤 幸江

熊沢恵美子

前野 郁子

吉田 妙

通小町 小島 一英 塚本 秀雄 殿島 修二

志賀 高橋 暎一
教 盛クセ 中村 和男
放 下 徹小歌 清沢 一政
車 組 祖父江修一

青陽会能

八月十三日(日)午前十時半始
熱田 神宮 能楽 殿

松 虫夕七 杉村 竹翠
松 風 加藤 貞衛 水原 元三

碓 笠之段 上田 照也
五之段 片山博太郎

葵 上 久田 敬二 井上 嘉久 久田 秀雄 河村 鉦二

附祝言 終了四時五十分頃
入場料(全館自由席)前売券二、五〇〇円 当日券三、〇〇〇円

第十三回名古屋新能

八月五日(土)午後五時半始
熱田 神宮 神楽 殿前

福井啓次郎師 日本能楽会入会記念
後藤孝一郎師 独調会

独調会 八月六日(日)午前十時始
熱田 神宮 能楽 殿

〔乱〕 〔楽〕 〔獅子〕

花 籠 鈴木 一雄 村木 寛茂

蟬 丸 鈴木 一雄 森 正利

駒之段 梅若 盛義 奥田 敏子

難波 梅若 盛義 松久 素子

連調 六番 「竹生島」ほか六十番

獨調 「御来場歓迎」

須部 市 立石 澄雄 河村 大 池田 三男
高橋 暎一 後藤 孝一郎 野垣 幸江 長谷川 三章
近藤 幸江 河村 鉦二

中部金春会 名古屋市中区老松町一ノ二八 電話(二四一)三二四二番

前田茂穂 米本平一

八声会 金春流 中 伊勢市富町一ノ四一七 電話(五九〇)三三三三番

喜多実 東京都練馬区中村南一ノ二九ノ二

安芸市名誉市民 貫周 福岡 周 斎 〒214 川崎市多摩区生田一八九〇

大阪喜多会 和調会 和島富太郎 〒665 宝塚市宝梅二丁目12-1 電話(〇七七)七八六三〇

長田曉後援会 喜多流 山 本 才 名古屋千種区福山町二二三 電話(七八二)二一九三番

西村 欽也 〒467 名古屋市瑞穂区仁所町二ノ四五 電話(八三二)五九一九番

高安流白水会 和泉太郎 〒142 東京都品川区三葉二一八一二 電話(七八〇)四〇九三番

福王輝幸 〒662 西宮市名次町六一二 電話(〇七八)九六五一

江崎金治郎 江崎康雄

大倉正之助 源二郎 吹田市江の木町一六ノ一ノ七〇三

森好会 森好会 常茂 好好 電話(〇三三)三七〇一 四六〇九

高安流白水会 和泉太郎 〒142 東京都品川区三葉二一八一二 電話(七八〇)四〇九三番

福王輝幸 〒662 西宮市名次町六一二 電話(〇七八)九六五一

江崎金治郎 江崎康雄

大倉正之助 源二郎 吹田市江の木町一六ノ一ノ七〇三

和谷亀二郎

桂会

幸圓次郎 〒164 東京都中野区中央四一四七一 電話(三八一)九四一三番

幸義太郎

名古屋和泉会

狂言共同社

谷田宗二郎 〒603 京都市北区衣笠街道町31-7 電話(六三三)六三三三番

久保田千三郎 岩倉市奥川町五ノ一五 電話(〇七七)三三三三番

高安同志会

飯富良人 熊本市黒髪二丁目六ノ二九

山崎俊輔 大牟田市馬場町五七

龍吟会

藤田六郎兵衛

藤田昭彦

森田光春 京都市東山区八坂上町三七六

寺井政数 〒154 東京都世田谷区世田谷四一三二五 電話(四二〇)六六七六番

具竹会

算本重男

森本重男

鬼頭季信

幸圓次郎

幸義太郎

名古屋和泉会

狂言共同社

通小町 小島一英 殿島修二
 塚本秀雄 高橋一
 申村和男
 連調 「竹生島」ほか六冊
 三冊を本誌に収録し、八冊目、九冊目、十冊目、十一冊目、十二冊目、十三冊目を予定する。

鐵輪 熱田神宮能楽殿
 長谷川章 加藤保彦
 青木武弘
 地謡 須部 久田 高橋 秀雄
 舞 須部 久田 高橋 秀雄

小鍛冶 西村 欽也 河村 亮
 飯富 雅介 山口 亮
 後見 安藤 邦久 地謡 生駒 美代子
 梅田 邦久 地謡 祖父 江修一
 高橋 一 殿島 修二

本田秀男師追善同門会大会
 八月二十七日(日)午前九時始
 熱田神宮能楽殿
 奏謡 「弱法師」(トヨタ車体謡曲部)
 舞踏子 「小袖替我」(安田文五、篠崎勉) 「初雪」(林功)
 「半節」(安藤たま子)

本田秀男師十三回忌追善能
 八月二十七日(日)午後三時始
 熱田神宮能楽殿
 舞踏子 宇仁田吉助 福井啓次郎 寛三男

羽衣 須部 市 立石 澄雄 河村 孝一郎 池田 三男
 後見 梅田 邦久 地謡 近藤 孝江 長谷川 修二
 今村 嘉男 敏彦 殿島 修二

天鼓 久田 徹二 井上 礼之助 井上 松次郎
 高安 勝久 大野 弘之
 後見 近藤 幸江 地謡 今沢 美和 青木 武弘
 久田 秀雄 地謡 前野 郁子 塚本 邦久
 祖父 江修一 河村 修二

宗論 井上 松次郎 井上 礼之助
 中村 安宏 林 鉄郎 本田 光洋
 後見 中村 富次 河村 高 地謡 渡部 道三
 河村 高 地謡 近藤 正男 宇仁田 吉助
 近藤 修弘 河村 恒宏

望月 西村 欽也 福井 啓次郎 鬼頭 喜太郎
 後見 中村 富次 河村 高 地謡 渡部 道三
 河村 高 地謡 近藤 正男 宇仁田 吉助
 近藤 修弘 河村 恒宏

和谷 龜 壽 郎
 江崎 金 治 郎
 幸 圓 次 郎
 幸 義 太郎
 狂言 共同 社
 狂言 やる まい 会
 野村 又 三 郎
 名古屋市昭和区南山町12-7
 電話(八三三) 八〇七二番

幸友会 幸陽 英介
 福井 啓次郎
 福井 良久
 福井 良治
 柳原 富司 忠
 山口 正 喜
 助川 竜 夫
 山口 義 郎
 山口 亮
 前川 光 隆
 前川 光 長
 長生会 鬼頭 喜太郎
 好喜太郎 信
 愛知県中島郡平和町城西
 電話(三三三) 〇一九六〇番

龜井 俊一
 保忠雄
 保美雄
 狂言 和泉会 保之
 茂山 千五郎
 茂山 千作
 京都市上京区中筋通り石葉師上ル
 朝日文化センター
 雛子教室
 小鼓 後藤孝一郎
 熱田神宮能楽殿
 仙田 美千子
 電話(六七) 二九二番

安福 春雄
 寛 鉦一
 吉田 定男
 大蔵 狂言会 基彌 太郎
 大蔵 基義
 東京都練馬区関町一四六一一四
 電話(三三三) 九二〇 六九六四番
 名古屋市昭和区滝川町四七七八三
 電話(八三三) 七〇一 一 番

演能案内

第十三回名古屋薪能

八月五日(日)午後五時半始
熱田神宮神楽殿前

能組

仕舞(観) 難波 高木美智子 地謡 野田 慶子

錦 木キリ 吉田 妙 地謡 前野 郁子

鉄 輪 熊沢恵美子 地謡 近藤 美和子

遊 行 柳クセ 塚本 秀雄 地謡 大岡 修二

松 風 杉村 竹翠 地謡 高橋 邦久

仕舞(春) 鶴之段 前田 茂徳 地謡 河村 鉄郎

仕舞(喜) 花 徳 長田 敏 地謡 藤田 直輝

能(宝) 清 立石 澄雄 地謡 鬼頭 季信

能(宝) 經 福井 良治 地謡 吉田 俊彦

能(宝) 土蜘蛛 菊川 幸三 地謡 鬼頭 孝二

能(宝) 蜘蛛 竹市 幸三 地謡 森本 重一

火入式 熱田神宮権司官 長谷 晴男
御挨拶 名古屋市長 本山 政雄

能(観) 井筒

前 久田 秀雄
後 武田 邦弘
西村 欽也
吉田 定男
福井啓次郎
藤田 昭彦

友の楽能

F種区吹上本町2-20
E番号 464
(731) 7 9 8 4
名古屋 3 6 3 9 3
1年 500円
1年 800円
50円

第13回名古屋薪能

8月5日、能3番上演

狂言(和) 貫 野村又三郎
井上松次郎 佐藤 友彦

牛若丸 河井雄一郎
高橋 寧 遠藤 誠
後藤 孝也 加藤 清也
寛 清道 寛 佳子
久田 陽春子
前 殿島 修二
後 梅田 邦久

能(観) 鞍馬天狗 高安 勝久
河村總一郎 助川 竜夫
柳原富司忠 算 三男

大野 弘之
井上礼之助

後見 河村 雄二 地謡 安藤 勝朗
久田 秀雄 地謡 田中 一政
長谷川 徹二
青木 敏彦 小島 邦一
後藤 一弘 契英 英

附祝言
主催 能楽協会名古屋支部
後援 名古屋 熱田 神宮
中部能楽師会

前売券 千二百円、当日券 千五百円
入場券発売所 出演各楽師宅、能楽殿、市内各プレイガイド

夏を飾る 薪能

全国各地で行なわれる薪能は二十を越えるが、名古屋薪能は、昭和四十一年創始され、京都、大阪鎌倉などについてその伝統をきき込んでおり今回は第十三回目にあたる。

本年の演能は、宝生流能「清経」観世流能「井筒」「鞍馬天狗」で名古屋薪能としてはいづれも初演の曲目。神楽の緑に映える薪の明りのもとに各流の気鋭と老練の所演が大いに期待されるところである。

〔観賞の手びき〕
「清経」世阿弥作
「井筒」世阿弥作

れ、人水の様を所作を交えて物語り、最後に修羅道の苦患を見せる。

「井筒」世阿弥作
大和国石上の在原寺を訪れた旅僧が紀有常の娘の往時をしのびり、現れ、花水を手向ける。僧が女の上をきくと、この寺の本願業平のあとを尋うのだとい、問われるままにその昔井筒にかけて互いに背文を較べ合ったという「伊勢物語」の中の話を語る。

後場はシテが業平の形見の直衣(舞台では長箱)を被て、優麗な序之舞を舞う。美しく花やかであった清純の心情のなかに淡い愛をもたせ、情趣に富む本三番目物である。

「鞍馬天狗」宮田作、世阿弥説
いわれる天狗物の中で、この曲は特殊な曲柄で、所は鞍馬の山寺一山をこぞる花見の席に大天狗は一山伏の姿でふみこみ、雅児一同が去つたのち、沙那王の半若と語り合、半若の胆力と技量を試したうで平家討伐の基礎となる兵法の奥義を伝えるという雄渾の氣風にあふれた切能物。

狂言「貫舞」
酒癖のよくない夫、千鳥足で帰り出迎えた妻に無理難題をい、お定まりの出で行けということになる。男は何とか元のサヤに納めようと娘を説得するが、娘はききれない。一方、翌朝酔の醒めた夫は後悔して男を訪ねるが……。

中日新聞 東京新聞 中日新聞
名古屋本社: 名古屋市中区三の丸1丁目6-1 電話(201) 8811
東京本社: 東京都港区港南2丁目3-13 電話(471) 2211
北陸本社: 金沢市香林坊2丁目7-15 電話(61) 3111

祝 名古屋薪能

現代をみつめる眼 東海テレビ

CBG & you 中部日本放送

シェークハンド! 名古屋テレビ

演能案内
六月二十五日(日)十二時始
熱田神宮能楽殿
本日の能について
西田 三好

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 種田宮司筆

発行 能 楽 の 友

名古屋市千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
— 部 50円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

8月	19日(土)	宝生流囃子会全国大会	(有料)
	20日(日)	同上	(有料)
	27日(日)	故本田秀男師追善門会	(有料)
9月	3日(日)	大衆能	(有料)
	9日(土)	鬼頭八郎師壽祝賀会	(有料)
	10日(日)	名古屋観世会定式能	(有料)
	15日(祝)	宝生会定式能	(有料)
	16日(土)	観世九奉会定式能	(有料)
	17日(日)	名古屋淡文会秋季大会	(有料)
	23日(土)	和泉狂言会	(有料)
	24日(日)	鐘響会大会	(有料)
	29日(金)	中日文化センター発表会	(有料)
	30日(土)	日本能楽会名古屋公演	(有料)
10月	1日(日)	竹韻会大会	(有料)
	8日(日)	青陽会定期能	(有料)
	10日(火)	正風会	(有料)
	14日(土)	修護会15周年記念大会	(有料)
	15日(日)	修護会15周年記念能	(有料)
	21日(土)	長田驛後援会	(有料)
	22日(日)	風韻会大会	(有料)
	28日(土)	一福会・叶石会大会	(有料)
	29日(日)	謡楽会大会	(有料)
11月	3日(祭)	幸友会秋の会	(有料)
	5日(日)	梅若猶義師七回忌追善能	(有料)

社団法人日本能楽会主催による
国家指定芸能「能楽特別鑑賞会」
が九月三十日(土)熱田神宮能楽
殿で開催される。
この特別鑑賞会は、文化庁、社
団法人能楽協会の後援で開催さ
れるもので、観世流能「碓」宝生流能
「望月」の能二番はじめ狂言、舞
囃子、仕舞など六番。番組は次
のとおりである。

能 楽 特 別 鑑 賞 会

9月30日 能「碓」「望月」

又三郎、井上礼之助、佐藤秀雄
能(宝生)「望月」(シテ辰巳
孝、ツレ内藤泰二、子方片桐真、
ワキ殿田保輔、笛・篋三男、小鼓
・後藤孝一郎、大鼓・吉田定男、
太鼓・鬼頭八郎)

本田秀男師十三回忌 名古屋金春会能

8月27日 熱田神宮能楽殿

名古屋金春会は、きたる八月二
十七日(日)熱田神宮能楽殿で故
本田秀男師十三回忌追善能を開催
する。春会は大正十五年発会。昭和三十
九年六月名古屋金春会「碓」
「望月」を上演(番組七月
号⑥面掲載)
故本田秀男師は、熊本出身。桜
間伴馬の内弟子として成長、関東
大震災で焼失した明治版謡本を
復興するための大正版謡本の節付
改定原稿を担当。又、現在の流儀
謡本(昭和版正本)の改訂を担当。
(⑥面関連記事)

本 店 熱田区神戸町三四 電話(61)8686、8
電話(62)5598(代表)

蓬 菜 軒

第十九回 大衆能

九月三日(日)十時・二時・二回
熱田神宮能楽殿
■第一部 午前十時始
内藤泰二
輪 高安 勝久 寛一 敏一 鬼頭喜太郎
福井 良治 森本 重一

能(宝)三
間 後見 玉井 博結 小沢 喜一
竹内 澄子 地謡 福川 勝利
鬼頭 嘉男 森本 重一

仕舞(春)田 村キリ 前田 茂徳 地謡
宅 日比野圭昭 福井啓次郎 地謡
福井啓次郎 森本 重一

狂言(和)伯母が酒 佐藤 友彦 佐藤 秀雄
藤田 直輝 金子 匡一 片岡 三郎
長田 駿 西村 欽也 山口 亮三 寛 三男

能(宝)鬼界島 西村 欽也 河村 総一郎 寛 三男
後見 前田 光子 地謡 山本 義金 大島 政久
赤塚 知子 地謡 川井 宏彦 二見 逸

附祝言
■第二部 午後二時始 (観世流)
小島 一英 飯富 雅介 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
立石 澄雄 吉田 定男
後見 加賀 敏彦 地謡 本田 一孝 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
杉村 竹翠 田中 武政

能(能)班
間 後見 加賀 敏彦 地謡 本田 一孝 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
杉村 竹翠 田中 武政

大江山 清沢 一政 今村 嘉吉
籠鼓 水藤 元三 加藤 保彦
柏崎 須部 甫 加藤 兵衛
國栖 加賀 敏彦 加藤 兵衛
采女 有賀 滋子 地謡 高野 恒子

後見 加賀 敏彦 地謡 本田 一孝 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
杉村 竹翠 田中 武政

後見 加賀 敏彦 地謡 本田 一孝 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
杉村 竹翠 田中 武政

後見 加賀 敏彦 地謡 本田 一孝 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
杉村 竹翠 田中 武政

宝生流 宝生流 合せ 合本 天の巻(翁 わ)

十松金初井

高橋 昭一 西村 欽也 鬼頭 英二 池田 季信
後見 水藤 元三 地謡 須部 勝助 福生 芳雄
塚本 秀雄 長谷川 章 梅田 邦久 加藤 兵衛

附祝言
前売券 千円 主催 能楽協会名古屋支部
当日券 千二百円 後援 愛知県・名古屋市中
出演各楽師宅・市内 朝日新聞社・中部能楽師会
各ブレイガイド

鬼頭八郎師壽祝賀会
九月九日(土)午前十時始
熱田神宮能楽殿

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

素謡神 歌 星野 佳 大橋 武雄
舞鶴 龜 山田 政利 垣見 芳男
鞍馬天狗 野々山 順子
玄象 池田 力寿
難波 富士道周明
唐山 佐藤アヤ子
唐船 高田みね子

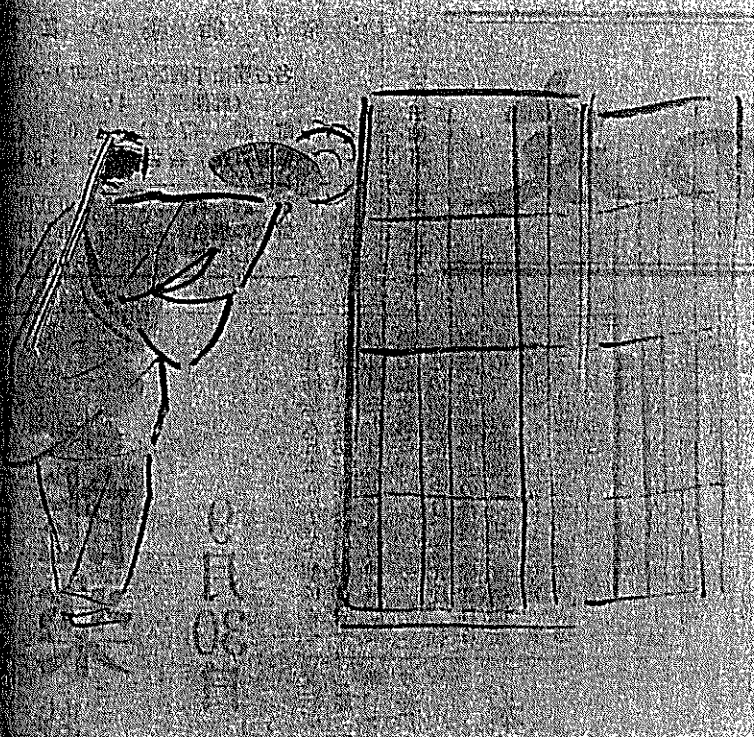
能紀行

身代り牢

絵と文 二井栄逸

時守の打ちます鼓
声聞けば
時こそうつれ
君はおそくて――

籠太鼓のシテは作物に結びつけられた鼓を打ち、この萬葉の古歌を詠いながら、俗に云う鼓の段の妙境を展開しようとする。
物狂能の多くは愛児に別れたり夫に遠ざかった女性が、愛慕の情にたえかねて、心が乱れるさまをえがいたものであるが、この籠太鼓は一寸違う。口論の末、人を殺めた科で牢に投ぜられた剛勇の夫をかばう烈婦型の女性をシテとする狂女能である。領主の権勢に対して反抗の意気を示しながらも、



一面、夫への愛情はまことに深く身替りに投獄させられた妻は、領主から、夫の在処を問せばこの牢を出してやると言われても、この牢の内こそ夫のかたみよ、なつかしや、と、言って牢を出ようとして、この心根に動かされた領主は、ついに夫の罪をも許してしまふのである。
牢と狂女と牢番がひときり打つ鼓を配して、複雑な感情の起伏を表現したこの能は傑作となっていた。
浮世と断絶した牢獄の中には、もろもろの執念がひそんでいるのだから、又、厳密な儀衛の道場であるのだから、現実の牢獄は古城のように陰森と静まりかえっている。
昔、齊藤劉氏の獄中の記を記したことがある。筆者はその書の中に獄中生活の一切を告白、赤裸々に感情を吐露し、心身の塵埃を払って、静かに真実を語っているところに非常に清潔な美しさを感じたものである。中でも次の歌は好きだったのでメモしてある。
此の牢に、居馴れて聞けば音に澄みて
庭松が枝を吹く風のあり
牢に仰ぐ、月の尊き座を移し
さすみ光を身に浴みにつけ
獄屋の高い窓に流れる雲。月は又静かな光をもつてさしのぞく。
このさびしい牢獄に、朝夕をくりかえさねばならない人達は、むしろ、犯さざりし日の重々しい心にくらべて、鼓のあとの方がすがすがしさをしみじみと感じているに違いない。牢と言えは昭和三十年頃だったと思う。三重県連合婦人会からの要請で刑務所の教職場に

第16回北陸中日能

9月17日金沢で開催

重要無形文化財第十六回「北陸中日能」は九月十七日(日)金沢市・石川厚生年金会館で開催される。午後零時半開演。
主催北陸中日新聞、石川テレビ放送、後援文化庁。能組次のおり。

- 花月 飯島佐之六 森田 光春
指歌雅之助 福井啓次郎 藤井 久雄
- 千手 河村総一郎 片岡 吉雄
住駒 陽介 地頭 正治
- 狂言 栗 茂山 正義
佐野 由於 茂山 千五郎
- 鼓 森 茂好 河村総一郎 三島 太郎
佐野 英雄 福井啓次郎 森田 光春
- 綾 鼓 地頭 松本 忠宏
ほかさ生流仕舞「巻箱」(定田文一郎)「忠度」(金森孝介)「井筒」(渡辺容之助)「花笠」(原川小太郎)「阿漕」(山田太佐久)「融」(佐野正治)観世流仕舞「難波」(古橋正士)「藤戸」(藤井久雄)

- 〔①鬼頭八郎師喜祝賀能つづき〕
- 一調 金 札 武田 志房 小寺 俊三
 - 胡蝶 橋岡 久共 観世 元信
 - 〔宝〕船弁慶 辰巳 孝 鬼頭喜太郎
 - 舞臺子 小袖曾我 観世 静夫 鬼頭 英二 藤田六郎兵衛 寿夫 大倉長十郎
 - 一調 春日龍神 内藤 泰二 菱谷清一郎
 - 龍 田 梅田 邦久 山口 義郎
 - 野 守 南条 秀雄 池田 茂
 - 舞臺子 羽 衣 観世鏡之丞 瀬尾 乃武 鬼頭 季信 後藤孝一郎 鬼頭 八郎
 - 独鼓 烏帽子折 観世 武雄 観世 元則
 - 狂言小舞 環 清 野村又三郎
 - 舞臺子 枕 慈 童 大坪十喜雄 筑 鉦一 助川 龍夫 〔宝〕 柳原富司忠 筑 三男
- 〔御來場歓迎〕 主催 長生会

名古屋観世会定式能(四回)

九月十日(日)十二時半始

- 班 女 塚本 秀雄 杉村 竹翠 山 中 武
- 能 盛 武田太加志 河村総一郎 鬼頭 八郎 岡治郎右衛門 大倉長十郎 藤田六郎兵衛
- 盛 間 佐藤 友彦
- 休息十分
- 後見 久田 徹二 地頭 後藤 契雲 河村 一英 久田 秀雄 武雄 小島 梅田 邦久
- 天 鼓 武田 志房 小島 梅田 邦久
- 三 輪 大槻 文蔵 地頭 梅田 邦久
- 熊 坂 井上 嘉久

葛城

観世 武雄 吉田 定男 鬼頭喜太郎 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田 昭彦 大野 弘之

後見 塚本 秀雄 地頭 長谷川 和男 梅田 邦久 武田 志房 加藤 保彦 大槻 文蔵 加藤 兵衛 武田 邦弘

附祝言 主催 名古屋観世会

第廿二期・第三回 名古屋宝生会定式能

九月十五日(祝)午後一時始

- 郡 内藤 泰二 吉田 俊彦 野 鄂 鈴木 義久 鬼頭 嘉男
- 能 組 熱田 神宮 能楽殿
- 半 飯 仕 舞 衣斐 正立
- 鶴 上 藤 藤 和 地頭 倉本 知子 藤 藤 和 馬塚富田夫 竹内 澄枝
- 三井寺 辰巳 孝 西村 欽也 河村総一郎 藤田 昭彦 飯富 雅介 後藤孝一郎
- 栗 狂 井上礼之助 佐藤 秀雄
- 葵 上 高安 勝久 山口 亮 助川 竜夫 梓ノ出飯富 雅介 大野 弘之
- 後見 内藤 泰二 地頭 佐藤 昌一 吉田 俊彦 衣斐 正宜 高田 真六 鬼頭 嘉男
- 連吟 安達 原 フキ 内田 富子 岩田ます子 内田 玲子 内田 弘子 其ノ上 弘子

いや今日(川崎 九瀬氏引退披露能 三一・九・二〇観

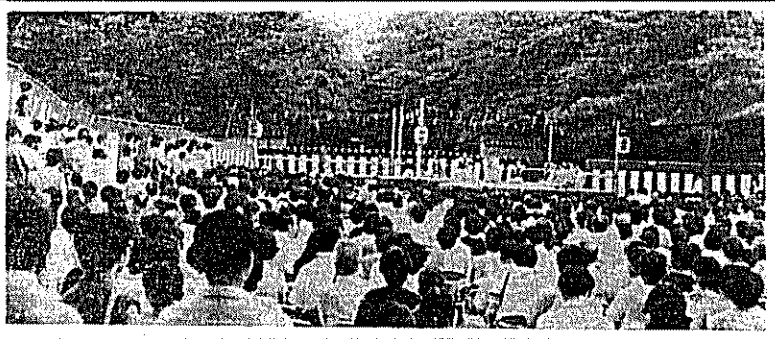
だから今日はお難手も地もノリといひ、位といひ、全く私の思っていた通りなので、ほんとうに楽しく舞っていたのです。実際

九月十六日(土)午後一時始 熱田 神宮 能楽殿

連吟 安達 原 フキ 内田 富子 岩田ます子 内田 玲子 内田 弘子 其ノ上 弘子

第13回名古屋新能

好天に恵まれ盛会



第十三回名古屋新能は、八月五日、熱田神宮境内で快晴に恵まれ午後五時十五分開演、観世流仕舞「難波」にはじまり金春、喜多流仕舞七番、宝生流能「清経」金剛

観世流能「井筒」演能のち木山名古屋市長から「日々の生活のなかで静かに能を観る気持ちを大切にしたい。名古屋新能の一層の発展を促す」とあいさつ。狂言「貫一観世流能「鞍馬天狗」など興業協会井上名古屋支部長、内藤副支部長に聖火が渡され火入式が行なわれた。

なお今回はNHKテレビCBCテレビで新能の様子が放映された。

〔写真〕①から新能会場、火入れ式の行事、能、井筒「鞍馬天狗」

「朝日狂言会を見て」

「武悪」を中心に

前田 満穂

「どうだい。で感想は。『武悪』が一番面白かったらう」

「返事を先取りされちゃ困るねまあ、そういうところが、君だつてそうだろう」

「そうだ、面白いという点ではね」

「狂言は喜劇だ。面白ければそれで十分、ほかに文句をつけることはあるまい」

「そうばかりも云い切れないのじゃないか。喜劇といつても松竹新喜劇とは違う。古典の喜劇だ。観る方にも演じる方にも、それ相応の教養が要る。面白いだけでは済まない」

「その通り。近ごろは古典芸能の学問研究が大はやり。結構ながら、無形文化財、人間国宝という頭から神聖視して、名人芸の妙境を鑑賞せんものと、肩ひじいからせて待ち構える観客が多くなつたのはいかげんものか。教養は必要だ。予備知識があればあるほど結構だ。教養、予備知識がなくともわかる狂言、という考え方には危険なものを感じる。狂言ブームの世の中だけになおさらね。しかし観るときは教養を捨て、楽しむことだ。『衆愚』に帰つて見所の一人となる喜びを知らぬ人に狂言の研究など必要ない」

「悪い悪いの問題じゃない。五月にあった『やるまい会』の『武悪』と較べてみる。あれは和泉流、これは大藏流、片や万之和流、又三郎の野村一門、片や流を促す」といふきつ。狂言「貫一観世流能「鞍馬天狗」など興業協会井上名古屋支部長、内藤副支部長に聖火が渡され火入式が行なわれた。

なお今回はNHKテレビCBCテレビで新能の様子が放映された。

〔写真〕①から新能会場、火入れ式の行事、能、井筒「鞍馬天狗」

第19回大衆能

9月3日 熱田神宮
2部制で

謡曲二百五十番集索引

謡曲研究に必備の道標

京都・赤尾照文堂が刊行

謡曲は近世文学全般を覆ってきわめて大きい影響を与えているがとくに文学的内容において、それ以前のあらゆる文芸世界を総合しているといつて過言ではない。和歌、物語、説話、語り物はもちろんだが、国において古典化されたものはそれ以上に消化されたかたちで文学史的基盤を形成していることを、もつとも顕著にあらわしているのが謡曲である。

この謡曲の語彙と表現が検出できる索引として、このほど京都・赤尾照文堂から「謡曲二百五十番集」と一冊二百五十番集索引」が刊行された。

この刊行の中心になつたのは大

阪の俳諧研究者で、松蔭女子学院大教授大谷篤蔵氏(編集者代表)ら執筆者十数名により七年以上の歳月を費して編集されたもの。謡曲の語彙検索の書としては、昭和十年代に「謡曲語句総覧」があるが不備な点があり研究者から出版が待望されていたもので、千四百頁におよぶ「謡曲大索引」として各界から注目されている。

刊行の辞

「謡曲二百五十番集索引」

編集者代表 大谷篤蔵

「俳諧の源氏」と称された謡曲のこと、およそ近世文学の読解を試みる際、謡曲の本文を机辺に備

え、たえずそれを参照しなければならぬことはいうまでもない。男子成人の教養として、謡曲を習い、また謡の講釈を聞くなどして謡曲を通じて古典的教養を得てい

た近世人にとっては、謡は耳に熟し頭に諳んじてその精神的素養の血肉ともいふべきものであった。しかし我々の世代では事情はいささか異なる。われわれの多くは、とかく謡曲に親近し習熟してないのが常である。大阪に俳文学研究会なるグループがあつて、集つて談林俳諧などを読んでいううちに、誰もが期せずして持つた謡曲本文の索引への待望が、一応の形をなしたのが本書である。

凡そ索引なるもの、その編集方針により、また利用者のめざす用途により、それぞれその便宜・効果に差異を生ずるを免れ得ない。しかし、叙上の経過から生れた本索引ではあるが、今編纂の業を終え、一つの共同作業の所産として本索引を見る時、単に文学作品の読解に資するなどの応用的利用の便にとどまらず、謡曲そのものの研究者愛好家はもとより、国語学

者その他一般に古典に関心ある各位の要求にも応える所少なからぬものがあると考へる。本索引編者の一人として、本書が汎く江湖博雅の諸賢の利用に供されんことを望むものである。

「謡曲二百五十番集索引」A5判 一四四〇頁、定価二九、〇〇〇円

「謡曲二百五十番集」A5判 六三〇頁、定価八、〇〇〇円

本文・索引二冊セット購入の場合には特別価格三四、〇〇〇円。

詳細な内容見本、問い合わせは赤尾照文堂(京都市中京区河原町通六角下。電話〇七五(二二)一五八八(三二)七七七三)に申込めば送付される。

なお本紙「能楽の友」にてもカタログお送りします。

大阪新能

第二十二回大阪新能は、八月十一日(金)十二日(土)の二日間生園神社で開催。

〔第一日〕喜多流能「鱗形」(シテ高林白牛口)観世流能「蟬丸」(シテ山本真義、蟬丸、山本順之)観世流能「鞍馬天狗」(シテ大藏文蔵)

〔第二日〕観世流能「松馬」(シテ梅若盛徳、観世流能「千手」(大西智久、木内清)観世流能「土蜘蛛」(生一察知)

名古屋金春会

追善同門会

8月27日熱田能楽殿で

名古屋金春会による本田秀男師十三回忌、同門の長老故伏原順四郎氏一周忌追善同門会大会は追善能第一部として八月二十七日(日)午前九時から催される。番組次のとおり。

〔観〕(伏原順四)

〔舞〕(清水力)

舞臺子・小袖曾我(藤崎敷、安田文五)初音(林功)半部(安藤たまた)仕舞・芭蕉(広瀬瑞弘)山姥(河村高)独吟・鉢木(大島吉之助)謡(伏原順四)

〔観〕(伏原順四)

〔舞〕(清水力)

舞臺子・小袖曾我(藤崎敷、安田文五)初音(林功)半部(安藤たまた)仕舞・芭蕉(広瀬瑞弘)山姥(河村高)独吟・鉢木(大島吉之助)謡(伏原順四)

〔観〕(伏原順四)

〔舞〕(清水力)

舞臺子・小袖曾我(藤崎敷、安田文五)初音(林功)半部(安藤たまた)仕舞・芭蕉(広瀬瑞弘)山姥(河村高)独吟・鉢木(大島吉之助)謡(伏原順四)

二井会ゆかた会

喜多流・二井会(二井栄逸師)は七月二十三日、島羽・戸田家別館でゆかた会を開催。

連吟、独吟、独調、仕舞など四十番。

安城宝生会五十年史

安城市の宝生流の歴史を記した

「安城宝生会五十年史」が刊行された。安城謡曲の会代表者鈴木謙三先生は、謡曲を通じて郷土文化の向上に尽された功績が顕彰されて昨年の文化の日に安城文化協会から文化功労賞を贈られた。二百三十四頁におよぶ立派なもので番組を全部掲載、有力者の思い出をのせ貴重な資料である。(宝生誌より)

福岡周斉氏逝去

喜多流・福岡周斉氏は七月二十二日逝去されました。七十七歳。名古屋出身。日本能楽会会員。自宅は川崎市多摩区生田一八九〇。葬儀は七月二十四日行なわれま

した。喪主謙一氏。

中村亨道氏逝去

大坂方石井流・中村亨道氏は七月二十七日逝去。七十四歳。日本能楽会会員。告別式は二十九日(土)京区福寿寺で行なわれまし

た。

観世門元昭

徳久

三

完

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
- 共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 様田宮司筆

発行能楽の友

名古屋市中区吹上本町2-2
(郵便番号 464)
電話 (731) 798
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一部 50円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

9月	15日(祝)	宝生会定式能 (有料)
	16日(土)	観世九皇会定式能 (有料)
	17日(日)	名古屋淡文会秋季大会 (来場歓迎)
	23日(土)	和泉流狂言大会 (来場歓迎) (番)
	24日(日)	舞臺会大会 (来場歓迎) (番)
	29日(金)	中日文化センター発表会 (来場歓迎)
	30日(土)	日本能楽会名古屋公演 (有料) (番)
10月	1日(日)	竹韻会大会 (来場歓迎) (番)
	8日(日)	青陽会定期能 (有料) (番)
	10日(火)	正風会 (来場歓迎) (番)
	14日(土)	修験会15周年記念大会 (来場歓迎) (番)
	15日(日)	修験会15周年記念大会 (来場歓迎) (番)
	21日(土)	長田助後援会 (来場歓迎) (番)
	22日(日)	風韻会大会 (来場歓迎) (番)
	28日(土)	一福会・叶石会大会 (来場歓迎) (番)
	29日(日)	謡楽会大会 (来場歓迎) (番)
11月	3日(祭)	幸友会秋の会 (来場歓迎) (有料)
	5日(日)	梅若嶺義師七回忌追善能 (有料) (有料)
	12日(日)	観世会定式能 (有料) (有料)
	19日(日)	和泉流狂言会 (有料) (有料)
	23日(祝)	中部金剛会 (有料) (有料)
	26日(日)	梅若嶺義師追善会 (来場歓迎) (有料)
12月	3日(日)	歳末助け合い義捐能 (有料) (有料)
	10日(日)	豊泉会能 (有料) (有料)
	17日(日)	青少年のための芸術劇場 (有料) (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

定期能、記念大会など

熱田神宮能楽殿 9・10月の演能

恒例・大衆能ではじまった秋の演能は、九月九日、観世流太鼓方の長老・鬼頭八郎師の喜寿祝賀能が宝生流宗家、観世元信宗家の来演で盛大に開催された。熱田神宮能楽殿の九、十月の演能は、定式能、記念能で充実した鑑能が期待される。

名古屋観世会定式能(十日)につづき名古屋宝生会定式能(十五日)観世九皇会定期能(十六日)の上演。

二部制の大衆能

能友随想

今年の大家能は、例年の文化講堂が借りられず、熱田神宮能楽殿で午前と午後の二部制という苦肉の策に出たわけだが、これはもちろんあくまで異例、大家能の建前からいって、従来通り文化講堂か市民会館で、ホール能の形でやるのが本筋だろう。

大衆能はフアンの底辺を広げるのが主旨だから、なるべく多くの人々に手軽に見てもらえることが第一義、その点能楽殿は足場もよいとはいえず収容力も

少ない。二部制は止むなしとするが、午前(宝、剛、喜、春)と午後(観)と観客がアンバランスに片寄り、演者にも観客にも不便と不満を残したのが残念だ。しかし舞台は好調で能「三輪」(宝)「鬼界島」(剛)「班女」(観)まで演者と息の合った囃子方地謡ら地元総動員体制がものをいって舞台の活気を倍加した。殊に演者に中堅、若手が揃っただけにフレッシュな感触が豊かだったのは収穫で、中京能楽界の将来に明るい期待を抱かせた。

のほうれい。現段階で大ききとか迫力とか円熟とかは求める方が無理、というより、啓蒙的な大衆能としてはそれは二の次の問題で、それよりは行儀正しく誠実で熱のこもった舞台こそ望ましい。その意味で、女性の後見の使い方(第一部)仕舞の並べ方(第二部)は一考を要しはしないか。親しみ易さと安易さを混同されないよう、大衆能なればこそなおさら...と思うのである。

狂言は「伯母が酒」と「重喜」両方とも佐藤、野村親子にまかせて軽くすませた感じがする。悪いというわけでは決してないが、もっと噛み合いの面白味を期待した向きには不満だろう。大衆能はむづかしい。(M)

和泉流狂言大会

九月二十三日(祭)午後一時始
熱田神宮能楽殿

福之神	津田庄三郎	林東助
鬼びり	原田三男	岡崎久太郎
しり	松井直子	大原紋三郎
柑子	佐藤融	井上松次郎
重葉	光岡修	荒木和幸
喜練	今枝靖雄	井上松次郎

三人長者 中北宇多子
柿山伏 今枝 郁雄
成上り 山本凌太郎
薩摩守 松井 一平
舟ふな 長谷川通雄
仏師 鷲見 政行
蝸牛 徳田 文三

玉石	新城狂言同好会
名古屋	名古屋大和会
名古屋	名古屋和泉会
也留舞	狂言共同社

観雲会大会

九月二十四日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

能清 内藤 泰二
恋之音取 立石 澄雄

能海 坪井香容子
飯富 雅介

の謡曲名所をたずねます。同好の方々おきそい合せのうへご参加下さい。

振替口座 名古屋 36393
十月中に座席指定の会員登録を送り致します。

能楽の友社 (〒464)
振替口座 名古屋 36393
〒101 東京都
〒604 京都市



能楽特別鑑賞会

九月三十日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

能老 佐野 正治
能養 吉田 定男
能老 後藤孝一郎
能老 藤田六郎兵衛

能流 久田 徹二
能流 片山博太郎
能流 西村 欽也
能流 河村総一郎
能流 福井啓次郎
能流 片岡 竜夫

仕舞 後見 殿島 修二
仕舞 久田 秀雄
仕舞 須部 一政
仕舞 味方 邦久
仕舞 吉田 正彦
仕舞 山田 義久

仕舞 通小町 久山 秀雄
仕舞 口 青木祥二郎
仕舞 梅田 邦久
仕舞 井上礼之助
仕舞 佐藤 秀雄

附祝言 主催 社団法人 日本能楽会
社団法人 能楽協会

会費券 全自由席 三、〇〇〇円
取扱い 各出演者宛
事務所 熱田神宮能楽殿内 電話六七二一九二

能紀行

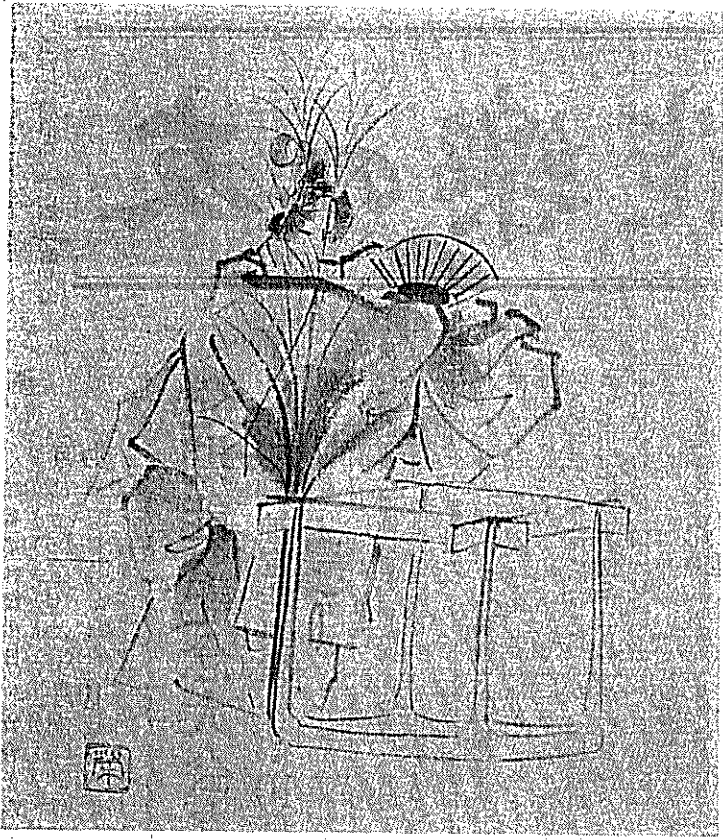
尾花派

絵と文 二井栄逸

八月も終ろうとしている。大空をゆきかきかう雲の色や、小雀のそよぎ等に、ふっと秋の気配を感じるこの頃である。思えば長い夏であった。

名古屋新能、大阪新能、夏のゆかた会等、汗を流す行事も例年のように多く、長い夏を忙しく暮してきたが、中でも一番重要なこと

は、日本財界の主治医とまでマスコミにさわがれる中山恒明教授の検診と人間ドックである。世界の国々からひっぱりだこの中山教授に直接検診を受けることの出来る私は、ほんとうに幸せものである。永野会長なればこそと、いつも感謝していることであるが、これも無事に先日終わってほっとした。



面白く古歌であるが作者の名は知られない。この作者は、人が皆秋の景物として秋をほめるので、いや、自分は尾花を秋の花にしましよというのである。

昔は、秋は萩とまきまつていたらしい。萬葉集の中に最も多くよみこまれる植物である。春の梅と満。夏の、たちばなとほととぎすに並んで、萩と鹿とがよく取り合せられてゐる。しかし、私には、萩より尾花の方が好きである。又、秋の能の背景になるのは尾花が第一位であるので親しみやすい。

又尾花は天平を中心に愛された萩より、もっと古くから親しま

命あつての物だね、と、昔から言われるが、先ず、健康保持が第一、それは健全な肉体こそエネルギー源だからである。

新秋九月、いよいよ忙しくなる。先づ口火をきるのが三日の大阪能である。九月に入るとさわやかな秋風と共に秋の花が咲き出す。秋の花はやはり萩であり尾花である。

人皆萩を秋というよし、私は尾花が萩を秋とは言はむ。

秋の野の美草(みくき)刈き草きぬれりし宇治の都の飯盛(かりいお)し思ほゆ

と額田王(ぬかたのおうきみ)はよんでいる。この美草は尾花のことを言ったもので、飯盛に草きすきは、室寿(むろほぎ)の宗教的意味を含んでいるのである。室寿とは新室(にいむろ)を開く祝のこをいう。山上権良は秋の七草を次のように選定し有名な歌を残した。

萩が花尾花葛花撫子の花
女郎花また藤袴朝顔の花

そういう理で、私は萩派でなく尾花派なのである。

伊勢物語に取材した能は数々あるが、中でも興味微韻、本三番目物の真隨に徹した能の中に、井筒がある。この能には、井筒にスキを立てた作物を正面先に出す。

冠直衣は女とも見えす
男なりけり業平の面影

と、井に寄り自らの姿を映して見込む型がある。このあたり、物真似と幽玄の完全な融合であると評つてよい。

今年も秋の陽を受けて丘の尾花は一せいに秋風にそよぐであろう。黄褐色の穂が銀色に輝くすき野原を早く歩いて見たいと思う。

観世楽能会秋季大会

10月1日 栄能楽舞台
名古屋観世楽能会(観世武雄)は十月一日、名古屋・栄能楽ビル舞台上で秋季大会を開催する。

素齋(羽法師) (田中さん、高橋源一)、「井筒」(芝村栄枝、鈴木胡蝶)、「花笠」(加藤敏子、若松加津子、浅井桂二、加藤保彦)、「松風」(天竺桂とも、野野原)

田常子、観世武雄、塚本秀雄
「鶴飼」(後藤新藏、深見賀子、深見一枝)、「通小町」(浅井桂二、橋本とも、五木田武計)

大阪

大阪能楽観賞会の九月公演は九月二十六日(火)午後六時から大阪能楽会館で開催される。

喜多流・和島富太郎師の「黒塚」替装束、狂言は浅山千作、山本東次郎師らによる秘曲「枕物狂」を上演する。

会費A四千二百円、B二千七百円。
梅若猶義七回忌追善能

観世流・梅若猶義師は昭和四十七年七月逝去されたが、その七回忌追善能が十月八日(日)大阪能楽会館で開催される。

能「景清」(シテ梅若盛義) 能「木賊」(シテ井戸良造) 能「山姥」(シテ梅若善高)

また名古屋では十一月五日(日)熱田神宮能楽殿で開催される。

第二十二期第三回 青陽会能

十月八日(日)午前十時三十分始

通	盛	高橋 勝一	井	高	服部 沙松	山	錦	今沢 美和	山	能	加賀 敏彦	生駒美代子	立石 澄雄	鬼頭 英二	鬼頭 季信
仕	舞		仕	舞		能	能		能	能		佐藤 秀雄	福井啓次郎	久木 武弘	武蔵 二
												梅田 邦久	前野 郁子	河村 亮	加藤 保彦
												今沢 美和	高橋 敏彦	河村 亮	加藤 保彦
												梅田 邦久	高橋 敏彦	河村 亮	加藤 保彦
												梅田 邦久	高橋 敏彦	河村 亮	加藤 保彦
												梅田 邦久	高橋 敏彦	河村 亮	加藤 保彦

竹韻会大会番組

十月一日(日)午前九時半始

松	丸	伊藤 善子	盛	久	八神由季代	江	口	奥村 泰広	藤	戸	野村又三郎	花	花	大西智津子	求	求	飯田 悦子	玄	玄	八神由季代	山	山	八神 孝充	素	素	奥村 泰広	山	山	奥村 泰広																		
仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞		仕	舞										

訓え

号(昭和五十年一月)より連載させて頂きました「観世華雲草紙」は本号をもって終

同四十七年(24)満期除隊となる。道成寺を抜く。

同四十三年(27)3・6梅若実追善能、を開始。

同二十二年(64)観之丞を織維に襲名させ、華雪と称す。3・30、その披露能に期

修福会大会

(第一日)十月十四日(土)午前九時半始

熱田神宮能楽殿

舞台で秋季大会を開催する。
素齋「弱法師」(田中きん、高橋順二)、「井筒」(芝村栄枝、鈴木胡蝶)、「花住」(加藤敏子、若松加津子)、「加藤保子」

能楽先人の訓

觀世華雪談

「觀世華雪談」は本号をもって終回といたします。
掲載にあたりましてご理解を頂きまして誠にありがとうございました。
世傳法師、檢書店はじめ関係皆様のご厚意を感謝いたします。

觀世華雪略年表
明治十七年 11・14、五代鎖之丞の嫡子として浅草鳥越に生れ、織雄と稱す。
同二十年(4才) 初子方(シテ父証雪、雲雀山)
同二十四年(8) 10・18、梅若月並にて合浦初シテ、同年觀世家舞台にて再演。
同三十五年(19) 先代梅若実二女花子と結婚。

同三十二年(74) 10・24、波那夫人逝去。
同三十二年(74) 11・23、重要無形文化財保持者に認定される。
同三十三年(75) 3・2、觀世会定期能に於て通達を以て後継者となす。
十二月肺氣腫を併発重症に陥る。
同三十四年(76) 1・6、午後十時三分港区赤坂青山町南の自宅に於て死去。
1・20、青山葬儀所に於て社団法人能楽協会葬執行。敷四等、正五位に叙せらる。

長田 後援会能

十月二十一日(土)午後一時始

独吟	竹生 島	二井 栄逸
長田 郷	熱田 神宮 能楽 殿	

附祝言 佐藤 秀雄
後見 大野 弘之
後援 毎日 新聞 社会
〔御来場歓迎〕

能 紅葉 狩	狂言 千 鳥	舞臺子 鳥	後見 和島 富太郎	仕舞 駒 之 段	網 之 段	之 之 段	仕舞 駒 之 段	後見 和島 富太郎	舞臺子 鳥	狂言 千 鳥	能 紅葉 狩	
高林 中二	高安 勝久	大島 久見	西村 敏也	飯富 雅介	山口 亮一	寛 三男	飯富 雅介	山口 亮一	寛 三男	飯富 雅介	山口 亮一	寛 三男

9月・10月放送予定

● NHK ラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)

〔9月〕
17日(日) 金 春 流「郎 野」 榎間金太郎ほか
24日(日) 観 世 流「夕 顔」 浦田保利ほか

〔10月〕
1日・8日・15日 全国学校音楽コンクール放送
22日(日) 観 世 流「柏 崎」 上田照也ほか
29日(日) 宝 生 流「黒 塚」 松本恵雄ほか

● NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)

〔9月〕
17日(日) 宝 生 流「鳥 追」 野村蘭作ほか
24日(日) 観 世 流「蟬 丸」 梅若盛義ほか

〔10月〕
1日(日) 宝 生 流「花 雀」 ①田中幾之助ほか
8日(日) 観 世 流「上 寛」 観世元昭ほか
15日(日) 観 世 流「俊 寛」 観世元昭ほか
22日(日) 観 世 流「夕 顔」 浦田保利ほか
29日(日) 観 世 流「玉 葛」 粟谷菊生ほか

● NHK 教育テレビ
9月15日(祝) 午前9時~10時 一調・仕舞・舞臺子
(放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

附祝言 宗 五 言 大 会

〔第一日〕十月十四日(土)午前九時半始

熱田 神宮 能楽 殿

後見 前野 郁子 地謡 本村 久子
祝言 磯野 八 泉 嘉夫
波 宮 大槻 秀夫
大槻 文蔵

主催 青 陽 会

狂言しびり	番外仕舞	素齋 弱法師	井 高	安 宅	舞臺子 三	半 部	羽 衣	菊 慈	善 知	舞臺子 砧	舞臺子 高
野村 信行	阿 村切	山根 行夫	秋山 つる	梅若 修一	輪 佐藤 敏子	西村 欽也	西村 欽也	中村 富子	鳥 山本 千代	尾沢 好枝	砂 梅若 修一

井 高	安 宅	舞臺子 三	半 部	羽 衣	菊 慈	善 知	舞臺子 砧	舞臺子 高
梅若 修一	岡田 朗詠	後藤 孝一郎	河村 総一郎	河村 総一郎	池内 幸三郎	池内 幸三郎	河村 総一郎	河村 総一郎

舞臺子 野	唐 船	仕舞 雀	舞臺子 紅葉	養 老	舞臺子 橋	舞臺子 高
宮 森 恭子	須賀 繁子	川 小川 美愛	池内 幸三郎	安福 建雄	岡田 朗詠	砂 梅若 修一

〔御来場歓迎〕

主催 梅 若 修 一 会

〔終了六時頃〕

後援 中日 新聞

卒都婆小町	弱法師	熊 野	山 姥	紅葉 狩	舞臺子 橋	舞臺子 高
高橋 道子	吉田 善高	梅若 修一	近藤 愛子	清水 松隆	岡田 朗詠	砂 梅若 修一

舞臺子 野	唐 船	仕舞 雀	舞臺子 紅葉	養 老	舞臺子 橋	舞臺子 高
宮 森 恭子	須賀 繁子	川 小川 美愛	池内 幸三郎	安福 建雄	岡田 朗詠	砂 梅若 修一

舞臺子 野	唐 船	仕舞 雀	舞臺子 紅葉	養 老	舞臺子 橋	舞臺子 高
宮 森 恭子	須賀 繁子	川 小川 美愛	池内 幸三郎	安福 建雄	岡田 朗詠	砂 梅若 修一

〔御来場歓迎〕

主催 梅 若 修 一 会

風韻会能

十月二十二日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿
歌 関谷三男
千才北原良一郎 地謡
高砂 関谷三男 北原良一郎 三島 修二
トモ 毛利 菊枝
ツレ 小島 初恵
小 督 小笠原敏子 戸田 隆子
(下歌・上歌省き、後シテより)
(ク・リ・サシ・クセ省く)

大 江山 浮貝 第一
野 守 原 伊三男
富士太鼓 栗田 純子 服部 誠子
(ク・ドキ省き、下歌・上歌の地省く)

田 丸 後藤 三千代
花 藍クルヒ 鬼頭 貴代子 地謡
竜 田 キリ 殿島 満里子 地謡
船 井 慶キリ 江崎 清子
中村 喜久子
山 姥 関山 美恵子 古井 佐幸

安 坂田 信雄 山田 欣也
高橋 一 徳田 三郎
同山 近藤 一清
子方 坂田 聡
関谷 三男
宅 今村 嘉勇 筑紫 敏一
後藤 孝一郎
勸進帳

柱 若 日比 大吉郎 助川 飛夫
代 若 日比 大吉郎 助川 飛夫

の友社
大上本町2-20
464)
7984
屋 36393
年 500円
年 800円
50円

能楽特別鑑賞会

第十九回 大衆能

井上松次郎 後見 泉 嘉夫 地謡
大平 敏子 赤松 慎友
高井 敏子 杉村 文二
渡辺 幸江 大隈 文二
近藤 アヤ子 泉 信隆
佐藤 幸江 泉 信隆
盛 富士道周明 眞 敏一
筒 金丸 洋子 眞 敏一
福間 昌彦 眞 敏一
福間 昌彦 眞 敏一
能 放 下 僧 西村 欽也 山口 英二
後見 殿島 修二 地謡
大隈 文二 地謡
伊藤 公義 三島 修二
原 伊三男 河村 修二
高橋 一 杉村 文二
高橋 一 杉村 文二
松 半 屋 島 大平 敏子 福井 啓次郎 藤田 昭彦
部 奥田 薫 山口 英二 藤田 昭彦
虫 古井 佐幸 福井 啓次郎 藤田 昭彦
笠 渡辺 節子 藤田 昭彦
枕 高田 みね子 地謡
雨 之 段 佐藤 アヤ子 近藤 幸江
殿島 博子 鬼頭 英二 藤田 昭彦
鼓 高安 勝久 鬼頭 英二 藤田 昭彦
半能天 後見 殿島 修二 地謡
泉 嘉夫 北原 良一郎 赤松 慎友
近藤 幸江 水田 嘉孝 泉 信隆
栗 狂 大野 弘之 井上松次郎
番外仕舞 大隈 文二 泉 信隆
波 秀夫 地謡 泉 信隆
水田 嘉孝 泉 信隆
祝言 難 波 殿島 修二 泉 信隆
水田 嘉孝 泉 信隆
〔御来場歓迎〕
後援 毎日新聞社
主催 能楽の友社
電話 (731) 7984



御料理 あつた 蓬菜軒
本店 熱田区神戸町三四 電話(07)868618
熱田区新宮町一 電話(07)5598(代表)

秋の「伊勢路」を訪ねる
謡曲名所めぐり
11月23日(祭)実施要項
京都 10月8日金剛能楽堂
広田後援会の秋期公演
は十月八日(日)金剛能
楽堂で催される。午後一
時半開演。
能「花位」小書・大返シ(シテ
広田陸)能「星界」小書・白頭
(シテ広田泰三)狂言「文荷」茂山
千作ほか)入場料三千円(自由席)
実施要項
日時 十一月二十三日(祭日)
集合名古屋・栄・愛知文化講堂
前(NHK南側)午前8時
出発 午前8時10分
帰着 午後6時30分(予定)
(雨天でも実施します)
ガイド 謡曲名所の説明に加え、謡曲を謡っていただきます。
定員 四十五人(満員になり次第締め切ります。)
※原則として補助席は使用しません。が、やむを得ぬときは、補助イスを使用します。
なお座席はお申込み順に前列より指定いたしますが、ご年配の方は優先席とすることがあります。どうかご理解いただきたいと思ひます。
会費 七千円
(バス代、拝観料、昼食代一切をふくみます。)
謡曲本 謡曲名所と季節にちなみ、次の謡曲本または百番集をご持参下さい。
「田村」「小鍛冶」「野宮」「熊野」「敦盛」「阿漕」
お申し込み 会費を添えて現金書留、または振替にて左記へお申し込み下さい。
名古屋千種区吹上本町2-120 能楽の友社 (〒464)
振替口座 名古屋36393
●十月中に座席指定の会員登録をお送り致します。
主催 能楽の友社
電話 (731) 7984

宝生流全曲旅の友
宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。
合本(全一冊) 定価27,000(送料別)
天・地・人(三冊) 定価30,000(送料別)
天の巻(翁・あ〜こ)地の巻(さ〜と)人の巻(な〜ろ・蘭曲)
わんや書店 東京都中央区銀座8-7-5 電話(03)57110511

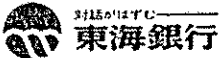
謡曲二百五十番集
大谷篤藏補訂 大谷篤藏編
謡曲二百五十番集索引
AS判クローソ装/六三〇頁定価八、〇〇〇円
AS判クローソ装/特別価格三四、〇〇〇円
お申込みは、直接弊社・又は最寄りの書店まで
株式会社 赤尾照文堂 京都市中京区河原町通六角下る TEL (221)1588(211)7773 振替京都3326

井上松次郎 佐藤友次郎 野村信行 野村又三郎

みなさまの暮らしとともに...

預ける・貯める・払う・借りると1冊1枚 2年・1年・6ヵ月・3ヵ月...有りに貯める

[東海]総合口座・[東海]定期預金



東海銀行

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋市中千種区吹上本町2-20
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7 9 8 4
 振替口座 名古屋 3 6 3 9 3

購読料 1年 500円
 郵送の場合 1年 800円
 一 部 50円

熊 素袍落 藤井 完治 茂山千五郎 岩崎 狂雲 正義 後援 能楽協会神戸支部 市

野 宝生 弥一 亀井 忠雄 藤田大五郎 大場 幸三 大場 幸三 大場 幸三 大場 幸三

主 催 神 戸 市 能 楽 協 会 神 戸 支 部

第10回・能楽協会名古屋支部主催

12月3日(日)能4番上演

能楽協会名古屋支部主催、中部能楽師会後援の歳末助け合い義捐金募集能は、昭和四十四年から毎年催されているが、本年は第十回を迎え、きたる十二月三日(日)熱田神宮能楽殿で催される。

本年の演能は、「金剛流放下僧」「シテ百々康治、ツレ日比野圭照」(シテ百々康治、ツレ日比野圭照) 親世流、宝生流など九番。

当日は午前十時開始。入場料は昨年と同じで千円。十回目を数えるこの義捐能は能楽協会名古屋支部主催による本年度の演能の挿尾をかざるもので、昨年は愛知県、名古屋市内に三十九万八千四百円が寄付されている。

(番組④面掲載)

54年度宝生会定式能

年3回初回2月4日

名古屋宝生会の昭和五十四年度の定式能予定番組および日程は次のとおりである。

◎第一回 二月四日(日)
 (素謡) 翁 辰巳 孝
 (能) 雲林院 内藤 泰二
 (能) 鞍馬天狗 宝生 英雄
 他に狂言・仕舞
 ◎第二回 六月十七日(日)
 (素謡) 松 風 辰巳 孝
 (能) 融 野村 蘭作
 (能) 通小町 大坪十喜雄
 他に狂言・仕舞
 ◎第三回 九月三十日(日)
 (素謡) 未定
 (能) 正風会大会 10月10日能四番上演
 宝生流・正風会(衣笠正宣師)は、十月十日、熱田神宮能楽殿で同門会を開催。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔10月〕		
14日(土)	修撰会15周年記念大会	(来場歓迎)
15日(日)	修撰会15周年記念大会	(来場歓迎)
21日(土)	長田 駿 後援会	(来場歓迎)
22日(日)	風韻会大会	(来場歓迎) (番組①面)
28日(土)	一編会・叶石会大会	(来場歓迎) (番組②面)
29日(日)	謡楽会大会	(来場歓迎) (番組②面)
〔11月〕		
3日(祝)	幸友会秋の会	(来場歓迎)
5日(日)	梅若猶義師七回忌追善能	(有料) (番組③面)
12日(日)	親世会定式能	(有料) (番組③面)
19日(日)	和泉狂言會	(有料)
23日(祝)	中部金剛會能	(有料)
26日(日)	梅若猶義師追善會	(来場歓迎)
〔12月〕		
3日(日)	歳末助け合い義捐能	(有料) (番組④面)
10日(日)	登泉會能	(有料)
17日(日)	青少年のための芸術劇場	(有料)
〔54年1月〕		
3日(水)	能楽協会名古屋支部新年開初式	
6日(土)	学 生 能	(来場歓迎)
7日(日)	青陽會定期能	(有料)
15日(祝)	清韻會大会	(来場歓迎)
20日(土)	邦 謡 會 能	(来場歓迎)
21日(日)	熱 田 神 士 能	(来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)

風 韻 會 能

十月二十二日(日)午前九時半始

神 歌 関谷 三男 千才 北原良一郎 地謡 今村 嘉二 高 砂 関谷 三男 北原良一郎 地謡 今村 嘉二 高 砂 関谷 三男 北原良一郎 地謡 今村 嘉二 高 砂 関谷 三男 北原良一郎 地謡 今村 嘉二

富士太鼓 栗田 純子 服部 誠子
 大 江 山 浮員 第一 地謡 高橋 島 信隆
 野 守 原 伊三男 地謡 高橋 島 信隆
 仕 舞 村ヶセ 森 三千代 地謡 高橋 島 信隆
 花 丸 後藤 三千代 地謡 高橋 島 信隆
 竜 田 丸 後藤 三千代 地謡 高橋 島 信隆
 船 井 慶 慶 江崎 清子 地謡 高橋 島 信隆
 姥 中村 喜久子 古井 佐幸 地謡 高橋 島 信隆
 山 中村 喜久子 古井 佐幸 地謡 高橋 島 信隆
 安 子方 坂田 信隆 山田 欣也 地謡 高橋 島 信隆
 同 坂田 信隆 山田 欣也 地謡 高橋 島 信隆
 子 坂田 信隆 山田 欣也 地謡 高橋 島 信隆
 勸進帳 今村 嘉二 後藤 誠子 地謡 高橋 島 信隆

登録商標
 季節の
 万
 直元蔵

〔御来場歓迎〕		能 松		実 井		放 下 僧		半 屋		栗 天	
祝言	難 郎 兼	御 救 紀代 守部 啓子	風 西村 欽也	盛 富士道周明	筒 金丸 洋子	後見 殿島 文蔵	間 西村 欽也	島 大平 敏子	半 奥田 煎	後見 殿島 文蔵	祝言 難 郎 兼
祝言	波 郎 平	井上松次郎	後藤 誠子	寛 敏一	寛 敏一	大槻 秀夫	佐藤 友彦	大平 敏子	奥田 煎	泉 嘉夫	祝言 難 郎 兼
祝言	波 郎 平	井上松次郎	後藤 誠子	寛 敏一	寛 敏一	大槻 秀夫	佐藤 友彦	大平 敏子	奥田 煎	泉 嘉夫	祝言 難 郎 兼
祝言	波 郎 平	井上松次郎	後藤 誠子	寛 敏一	寛 敏一	大槻 秀夫	佐藤 友彦	大平 敏子	奥田 煎	泉 嘉夫	祝言 難 郎 兼

みどり子の影をなすは
松風よき月夜は



能紀行

三五の夕

絵と文 二井栄逸

紺青色に銀を削いたような夜空に、ぼんやりと浮く満月。うごうと鉄橋を渡る電車の窓から、そんな月を眺めていた。川面一面にきらめきが立ち、金砂子をまいたようにキラキラ光る。月の頃の水面は殊のほか美しい。

にも思えた。タイムングを合わせることは難しいけれど、月の明るい晩になると何となく田舎の方へ行つて見たくなったりする。生来、放浪ぐせのある私は風吹くまの旅が好きであつたから。

文章が素晴らしいので、このなせば、ありありと波の音、月の輝きを目の前に再現することが出来る。水衣の肩をとり、色なし縫子のかなやかな旅装束を出した千鶴(せんみつ)の母は、一の松にすくと立つ。そしてすぐにカケリ、各文句の道行にのって三井寺に着くのである。まことに軽やかな、美しい運びである。

各地だより

京都

豊春会秋の能
稀曲「松山天狗」など
金剛流・豊春会は、十月十五日金剛能楽堂で「秋の能」を開催。

神戸

第二回神戸狂言の会
11月24日神戸文化ホールで神戸市の主催による「神戸狂言の会」は、同市の古典シテとして

神戸

「道成寺」(シテ藤井久雄)
能「道成寺」(シテ藤井久雄)

神戸

藤井久雄古稀祝賀能
10月29日湊川神社能楽殿
観世流・藤井久雄師古稀祝賀能が十月二十九日(日)十一時から神戸・湊川神社能楽殿で

54年度観世会定式能

新たに土曜定式能を企画

遊行柳 観世 元昭

葵上

梅田 邦久
梅若 景英

井筒

片山 次郎

西尾孫太郎師十三回忌 追善

叶石会・一謡会大会

十月二十八日(土)午前九時始
熱田 神宮 能楽殿

手向一調弱法師	名 詠 会	寛 敏 一
通小町	保坂 信	小林 久子
雙子屋	島 祖父江修一	山口 亮大
葛	萬 高木のふ	山口 輝亮
松	亀 堀川 修	山口 花子
鞍馬天狗	毛利 菊志子	山 王
雙子高	砂 堀とし子	若 輪
芦	刈 伊藤 昭子	後藤 孝一郎
玉	蟹 遠藤 俊雄	兵藤 孝正
紅葉	狩 角田 富美	丹羽 峰子
岩	船 川 絹子	福井 啓次郎
素鵲隅田川	祖父江 澄子	福井 啓次郎
連吟 砦	林 大造	高野 頼三
一調桜	川 梅田 邦久	石田 糸代
雙子蟬	丸 長戸 花子	吉田 定男
定	家 村木寿忠子	福井 啓次郎
土蜘蛛	柳 原 富司忠	山本 幸子
鞍馬天狗	福井 啓次郎	福井 啓次郎
狸々	海田 トシ子	後藤 孝一郎
番外仕舞野	宮 武田 太加志	藤田 昭彦
番外一調江	口 山本 真義	谷口 正喜
番外小舞道	明 寺 井上松次郎	河村 大
能羽	吉田 明	河村 大
衣	和合ノ舞	高安 勝久
雙子加	茂 近藤 重治	古橋 正邦
天	鼓 内田 睦子	鬼頭 喜太郎
竜	田 太田 喜昭	三宅川 公香
放下	僧 澄川 寺子	海田 トシ子
安宅	宅 澄川 寺子	佐藤 孝一郎
融	五段替之型	大塚 幸二
安達原	林 留三	相墨 純二
間	空之祈	飯富 雅介

豊橋・名古屋・四日市・津 謡楽会秋季大会

十月二十九日(日)午前九時始
熱田 神宮 能楽殿

番子石	増田 糸	山崎 晴代	藤田 喜代子	鬼頭 喜太郎
番外雙子融	内藤 泰二	吉田 定男	藤田 昭彦	鬼頭 喜太郎
橋	主 催 叶	石	鬼頭 喜太郎	鬼頭 喜太郎
神歌	武田 小兵衛	武田 欣司		
橋弁慶	大井 光明	安井 八重子		
小督	阿竹 登代子	山路 敬一郎		
富士太鼓	高木 宏子	坂 勉		
紅葉狩	清水 松男	松岡 清子		
菊	龜井 順一	吉田 定男	鬼頭 喜太郎	藤田 昭彦
西王母	後藤 とき	吉田 定男	藤田 昭彦	藤田 昭彦
海士	上野 典子	吉田 定男	藤田 昭彦	藤田 昭彦
女	花 梅田 邦久	吉田 定男	藤田 昭彦	藤田 昭彦
歌	占キリ	古橋 正士		
今村香	野村 又三郎	吉田 定男	藤田 昭彦	藤田 昭彦
舟ふな	野村 信行	野村 又三郎		
吉野天人	松陰 ますみ	吉田 定男	鬼頭 喜太郎	藤田 昭彦
紅葉狩	横山 園枝	吉田 定男	藤田 昭彦	藤田 昭彦
松	虫クセ	小林 富美代		
六	浦クセ	山本 幸子		
大江	山 瀬川 泰代			
胡蝶	田中 萬子	河村 總一郎	鬼頭 喜太郎	藤田 昭彦
班	鬼沢 清治	河村 總一郎	藤田 昭彦	藤田 昭彦
千手	渡辺 浩二	後藤 孝一郎	藤田 昭彦	藤田 昭彦
池田菊雄	渡辺 浩二	毛利 喜久男		
乱	西村 欽也	河村 總一郎	鬼頭 喜太郎	藤田 昭彦
山	後藤 孝一郎	藤田 昭彦		
井戸和男	梅若 盛彦	大井 光明		
葵上	西村 欽也	鬼頭 喜太郎	藤田 昭彦	藤田 昭彦
間	飯富 雅介	福井 啓次郎	助川 龍夫	藤田 昭彦

葵上

飯富 雅介

京都 金剛流・豊春会は、十月十五日金剛能楽堂で「秋の能」を開催。本演目には秋の名曲「楊貴妃」を上演する。

新たに土曜定式能を企画

名古屋観世会館の昭和五十四年度定式能の日程と番組がこのほど決定した。明年度は、本年度と同じく年間五回の「日曜定式能」とともに、新たに年四回の「土曜定式能」が企画され、愛好者の期待にこたえる。また恒例のように夏の素謡会も予定されている。

◎日曜定式能(予定番組)

- 第一回・二月十一日(日) 正午始
 - 翁 観世 元正 観世 清和
 - 嵐山 武田 邦久 梅田 邦久 久田 徹二 久田 徹二 観世 元正
- 第二回・四月八日(日) 十二時半始
 - 楊貴妃 観世 寿夫
 - 舞姫子 芦刈 藤井 久雄
- 第三回・六月十日(日) 十二時半始
 - 遊行柳 観世 元昭
 - 鉄輪 梅若 盛義
- 第四回・九月九日(日) 十二時半始
 - 素謡班 女 殿島 修二 久田 徹二
 - 養老 梅若 芳紀夫
 - 藤戸 片山 博太郎
- 第五回・十一月十一日(日) 十二時半始
 - 唐船 大槻 秀雄
 - 素謡小督 河村 証二

「卒都婆小町」「恋重荷」

南条 秀雄 散る花の会大阪公演41日
奥村富久子 たる十一月四日(土) 大阪・大槻能楽堂で開催される。曲目は、奥村富久子師が「卒都婆小町」(大阪文化祭参加) 南条秀雄師が「恋重荷」とともに大曲にいとむ熱演が期待される。番組は次のとおり。

- 神歌 観世 武雄 佐々木勝輝
- 卒都婆小町 森 茂好 瀬尾 乃武 大倉長十郎 野口 浩和
- 狂言 貴 上田 拓司 南條 秀雄 後見 大機 秀夫 地謡 山田 均 朝山 清 堀谷 武治 下川 義長 五木田 武計 藤谷 政二 泉 嘉夫 茂山 千作 茂山 あきら
- 恋重荷 福王 輝幸 河村 総一郎 三島 太郎 木村 正雄 中川 隆夫 寛 三男

長徳、善竹幸四郎 三郎、善竹忠重 「無布羅羅」(善竹忠重、茂竹三郎) 演目「道成寺」が上演される。

◎土曜定式能(予定番組)

- 第一回・三月二十四日(土) 一時始
 - 弱法師 観世 静夫
 - 目目之舞 浦田 保利 片山 慶次郎
- 第二回・五月二十六日(土) 一時始
 - 大会 梅田 邦久
 - 素謡草子洗小町 有賀 澄子 橋岡 久共
 - 法楽之舞 奥 善助 吉井 順一 久田 徹二 久田 秀雄
- 第三回・十月二十七日(土) 一時始
 - 通小町 久田 徹二
 - 菊慈童 杉村 竹翠 小島 一英

十二時半始。会員券は、特別後援会員一万円。A席六千円。B席四千円。学生二千五百円。散る花の会事務所 東京都千代田区永代町西町二〇 南条秀雄 方 電話〇七五(七七)〇七六七

なお第二回は明春一月二十一日(日)東京・観世能楽堂で開催される。



世界の動き 身近な話題
東京中日スポーツ
東京中日スポーツ
中日新聞本社 石古原市中区三の九丁目6番1号 TEL 大代表201-8811
中日新聞東京本社 東京都港区港南2丁目3番13号 TEL 大代表471-2211
中日新聞北陸本社 金沢市香林坊2丁目7番15号 TEL 大代表61-3111

梅若猶義七回忌追善能楽会
十一月五日(日)午前十一時始
熱田 神宮 能楽殿

幸友会秋の会
十一月三日(祭)午前十時始
熱田 神宮 能楽殿

観世会定式能(第五回)
十一月十二日(日)十二時半始
熱田 神宮 能楽殿

- 附祝言 武田 謡楽会 武田 小兵衛 武田 邦弘
- 御来場歓迎 武田 邦弘
- 梅若猶義七回忌追善能楽会 熱田 神宮 能楽殿
- 幸友会秋の会 熱田 神宮 能楽殿
- 観世会定式能(第五回) 熱田 神宮 能楽殿
- 追加 大野 弘之
- 梅若猶義会 梅 若 盛 義
- 狸々乱 池田 菊雄 西村 欽也 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦
- 千手 園田 一彦 毛利 喜久男
- 花 子方 武田 衛 フレ 梅田 邦久 観世 静夫 高安 勝久 福井 啓次郎 寛 三男
- 善知鳥 観世 寿夫 河村 総一郎 寛 三男
- 栗 茂山 千五郎 茂山 正義
- 清 経クセ 片山 慶次郎 地謡 小島 一英 殿島 修二 久田 徹二 久田 秀雄
- 郡 片山 伸吾 高安 勝久 河村 総一郎 藤田 昭彦
- 附祝言 後見 久田 徹二 地謡 杉村 竹翠 梅田 邦久
- 主催 名古屋 観世会 (終了五時二十分頃)

歳末助け合い 義捐金募集能(第十回)

十二月三日(日)午前10時始

(観) 清 能 組
 熱田 神宮 能楽 殿
 経 長田 磯 河村 総一郎 森本 重一
 山二 藤田 藤田 直輝
 才 陽 二 才 陽 二

(観) 鬼 瓦
 後見 豊嶋 三千春 地謡 東田 康文 重本 重一
 吉川 周子 地謡 小林 忠三 菊川 昌三
 狂 井上松次郎 野村 又三郎

(観) 藤 能
 飯富 雅介 吉田 定男 寛頭 好信
 後藤 孝一郎 寛頭 三男
 佐藤 友彦

(観) 海 士
 河合 雄一郎 立石 滋雄 寛頭 敏一
 近藤 幸江 飯富 雅介 福井 隆次郎 藤田 昭彦

(観) 雀 能
 後見 竹内 澄子 地謡 佐藤 耕司 衣斐 正直
 戸田 和 地謡 鬼頭 嘉利 吉内 辰巳 俊彦
 鬼頭 義久 義久 義久 義久 義久 義久

(観) 妹 能
 後見 飯島 修二 地謡 中村 和男 長谷川 章
 梅田 邦久 地謡 中村 和男 長谷川 章
 舞 舞 舞 舞 舞 舞

の友社
 吹上本町2-20
 464)
) 7 9 8 4
 屋 3 6 3 9 3
 1年 500円
 1年 800円
 50円

(観) 野 守
 久田 敏二 西村 敏也 鬼頭 英二 鬼頭 八郎
 間 大野 弘之 山口 亮 鬼頭 季信
 後見 梅田 邦久 地謡 青木 武敏 加久 藤兵衛
 須部 一甫 塚本 秀雄 須部 秀雄

附祝言
 主催 能楽協会名古屋支部
 後援 中部能楽師会
 入場料 一、〇〇〇円(全自由席)
 前売 各出演楽師宅
 お問合せ 熱田神宮能楽殿(六七二)二九二二

各地だより
 山本別会能
 「賀茂」素働「正尊」など
 山本定期能楽会は、十月二十九日(日)大槻能楽堂で別会能を開催する。この別会では宇治田正子師が師を、八木康夫師が正尊を被く。山本勝一師は一子相伝の重習賀茂の「素働」(しらはたらし)を演ずる。番組次のとおり。

大阪
 山本乱能会
 徳井種荷勸請二十年・新築
 大阪市東区徳井町の山本能楽堂に徳井種荷を勸請して二十年になり、これを機会に社殿の新築が成ったので、これを記念して、九月二十九日午後一時半から山本乱能会が山本能楽堂で開催された。

和泉流狂言大会
 九月二十三日(祭)午後一時始

10月・11月放送予定
 NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)
 (10月)
 22日(日) 観世流「拍」崎 上田照也ほか
 29日(日) 宝生流「黒塚」松本恵雄ほか
 (11月)
 5日(日) 金春流「龍田」高橋 汎ほか
 12日(日) 宝生流「船弁慶」金井 草ほか
 19日(日) 観世流「葛城」梅若泰之ほか
 26日(日) 金剛流「高野物語」今井幾三郎ほか
 NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)
 (10月)
 15日(日) 観世流「俊寛」観世元昭ほか
 22日(日) 観世流「夕顔」浦田保利ほか
 29日(日) 喜多流「玉葎」栗谷菊生ほか
 (11月)
 5日(日) 観世流「定家」◎観世寿夫ほか
 12日(日) 同 上 ◎観世寿夫ほか
 19日(日) 宝生流「黒塚」松本恵雄ほか
 26日(日) 観世流「拍崎」上田照也ほか
 NHK教育テレビ
 11月3日(祝) 午前11時 宝生流「綾鼓」高橋進ほか
 (放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

秋の「伊勢路」を訪ねる
 謡曲名所めぐり
 11月23日(祭)実施要項
 前号既報のように謡曲名所めぐりのバス旅行を本年は、伊勢路にコースをもとめ十一月二十三日(祭)・勤勞感謝の日)に催します。今回は、謡曲「田村」の滋賀県・土山の田村神社「阿酒」の阿酒浦、一身田の平家発祥の地、「野宮」の斎宮跡など、鈴鹿と伊勢路の謡曲名所をたずねます。同好の方々おさそい合せのうえご参加下さい。

実施要項
 集合名古屋・栄・愛知文化講堂(NHK南側) 午前8時
 出発 午前8時10分
 帰着 午後6時30分(予定)
 (雨天でも実施します)
 ガイド 謡曲名所の説明に加え、謡曲を語っていただきます。
 定員 四十五人(満員になり次第締切ります。)
 原則として補助席は使用しません。が、やむを得ぬときは、補助イスを使用します。
 なお座席はお申込み順に前列より指定いたしますが、ご年配の方は優先席とすることがありますのでどうかご理解いただきたいと思ひます。
 会費 七千円(バス代、拝観料、昼食代一切をふくみます。)
 謡曲本 謡曲名所と季節にちなみ、次の謡曲本または百番集をご持参下さい。
 「田村」「小鍛冶」「野宮」「熊野」「敦盛」「阿酒」
 お申し込み 会費を添えて現金書留、または振替にて左記へお申し込み下さい。
 名古屋千種区吹上本町2-20 能楽の友社 (〒464) 464
 振替口座 名古屋36393
 十月中に座席指定の会員登録をお送り致します。

和泉流狂言大会
 九月二十三日(祭)午後一時始

目覚めた設備を誇る日進堂
 メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもちろんのこと、必要ときには数分でピクアップできる...お客様一人一人の視力記録システムなどを常に生きた設備の充実を心がけています。
 目撃一本にも全神経を集中する日進堂
 メガネ店の技術をささえるもの—それは、お客様の信頼におこたえる責任感とまごころです。正しいメガネを安心してご使用いただくために、日進堂は、たとえ一本にも全神経を傾倒しています。
 徹底した日進堂のアフターサービス
 メガネをいつも正しく、最良の状態でご使用いただけるよう努めることもメガネ店のつとめです。日進堂は可能な限りの修理サービス、レンズ・フレームの清掃サービスを無料でこなしております。いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。
 定休日 毎週木曜日
 正しいメガネでしあわせを.....
目覚めたメガネの日進堂
 ◎駐車場完備 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町)
 ▼451 TEL (571) 6181-3

観世流 金剛流 流元
 世宗 本発 行元
檜書店
 〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
 〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
 電話(291)2488-9
 振替東京3-3552
 電話(231)1990
 振替京都113

割烹・小料理 **城**
 ●熱田神宮能楽殿喫茶部
 ●住吉小路(中区栄3-10)
 電話 241-0248
 ●喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
 電話 731-1128

能紅葉狩
 御来場歓迎

期待される銀行
ご奉仕する

十六銀行 創立明治10年
本店 岐阜市

能樂の友

発行 能樂の友
名古屋市中区千種区吹上本町2-2
(郵便番号 464)
電話 (731) 798
振替口座 名古屋 3639
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一部 50円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 【11月】
12日(日) 観世会定式能 (有料)
19日(日) 和泉狂言会 (有料)(番組①面)
23日(祝) 中部金剛会能 (来場歓迎)
26日(日) 梅若猶義師遺著追善観音大会(来場歓迎)(番組①面)
- 【12月】
3日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料)(番組②面)
10日(日) 豊泉会能 (有料)(番組②面)
17日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料)
- 【54年1月】
3日(水) 能楽協会名古屋支部新年謡初式 (協関係者)
6日(土) 学生能 (来場歓迎)
7日(日) 青陽会定期能 (有料)
15日(祝) 清韻会大会 (来場歓迎)
20日(土) 邦舞会能 (来場歓迎)
21日(日) 熱田紳士能 (来場歓迎)
- 【2月】
4日(日) 宝生会定式能 (有料)
11日(祭) 観世会定式能 (有料)
12日(休) 柳原富司忠職分十周年記念能 (有料)
17日(土) 観世九奉会定期能 (有料)
- (演能変更の節はご了解下さい)

青少年のための芸術劇場

12月17日 熱田能楽殿で

名古屋教育委員会、能楽協会、名古屋支部主催による「名古屋市青少年のための芸術劇場、能・狂言」は、十二月十七日(日)熱田神宮能楽殿で午後二時から上演される。

この公演は働く青少年、高校生を対象に、能・狂言鑑賞の機会として毎年行なわれているもので、本年も第一部、第二部にわたって入場料四百円。

第一部、午前十時開始
狂言 能について 内藤泰三氏
狂言について 佐藤友彦氏
狂言 井上松次郎 井上礼之助
能(宝生流) 野村又三郎
子方片桐 真
内藤泰三 飯富雅介
船井慶 高安勝久
吉田 定男 助川竜夫
福井啓次郎 森本重一
後見 玉井博祐 戸田和

といたものが胸に伝わってくるのである。(筆者は和歌山市居住)

「改名山謡観世流シテ方山本」

第二部、午後二時開始
狂言 (第一部と同じ)
狂言 野村又三郎 井上松次郎
能(宝生流) 井上礼之助
子方片桐 真
衣裳正立 飯富雅介
河村総一郎 鬼頭壽太郎
柳原富司忠 野村又三郎
野村又三郎 野村又三郎
間 大野弘之
後見 竹内澄子
玉井博祐 高田真六 鈴木義久
地謡 平子福美 内藤泰三
附祝言 加藤勝男 吉田俊彦
関い合せは名古屋教育委員会文化課(電話九六一一―一一一)

愛知県芸術祭「能と狂言の会」

十二月二十三日(土)安城市民会館で開催され、能「紅葉狩」(観世流)狂言「武悪」(和泉流)が上演される。午後二時始。無料

愛知県芸術祭「能と狂言の会」

十二月二十三日(土)安城市民会館で開催され、能「紅葉狩」(観世流)狂言「武悪」(和泉流)が上演される。午後二時始。無料

小島一英 久田徹二 武田邦弘 梅田邦久 高安勝久 飯富雅介 船井慶 西村欽也

鈴木磯吉氏受章

愛知県文化功労者表彰
能楽小鼓製作技術の保持者として今年選定保存技術(無形文化財)個人指定になった鈴木磯吉氏(八二)名古屋千種区振甫町二一―七一―二は、十一月三日文化の日にあたり、愛知県文化功労者として表彰された。

中部金剛会 流友大会

11月23日熱田能楽殿
中部金剛会の秋季大会は、十一月二十三日(祝)熱田神宮能楽殿で豊島三千春師の豊屋会を中心に中部金剛会流友会を開催する。素謡七番はか舞踊子、連時、仕舞など。

能「船弁慶」上演

新春1月15日清韻会能
新春一月十五日(祝)に催される清韻会能は、能「船弁慶」小書前後之替(シテ奥村久枝氏)ほか一調、連時、仕舞など十五番が予定されている。

第十八回 和泉狂言会

十一月十九日(日)午後一時三十分始
熱田神宮能楽殿

井上松次郎 井上礼之助 佐藤秀雄
大野弘之 野村万作
井上松次郎 井上出一

犬山伏 隠し狸 井杭

井上松次郎 井上礼之助 佐藤秀雄
大野弘之 野村万作

八尾

和泉保之 佐藤友彦

千切木

野村万作

梅若猶義先生七回忌追善 猶諷会秋の大会

十一月二十六日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

川上瑞江 中村則安
日比野辰巳 小川清
小沢みさを 石田千恵子
中尾隆子 後藤政実

班

鈴木八尋 西村欽也 飯富雅介 佐藤友彦
高安勝久 後藤政実 藤田六郎兵衛

魚説法

井上礼之助 大野弘之

天鼓

西村欽也 飯富雅介 佐藤友彦
河村総一郎 福井啓次郎 藤田六郎兵衛

通 玄 松 雲 清

玉野博示存 飯富雅介 佐藤友彦
日下すみ子 飯富雅介 佐藤友彦

名古屋

守

神宮東門前

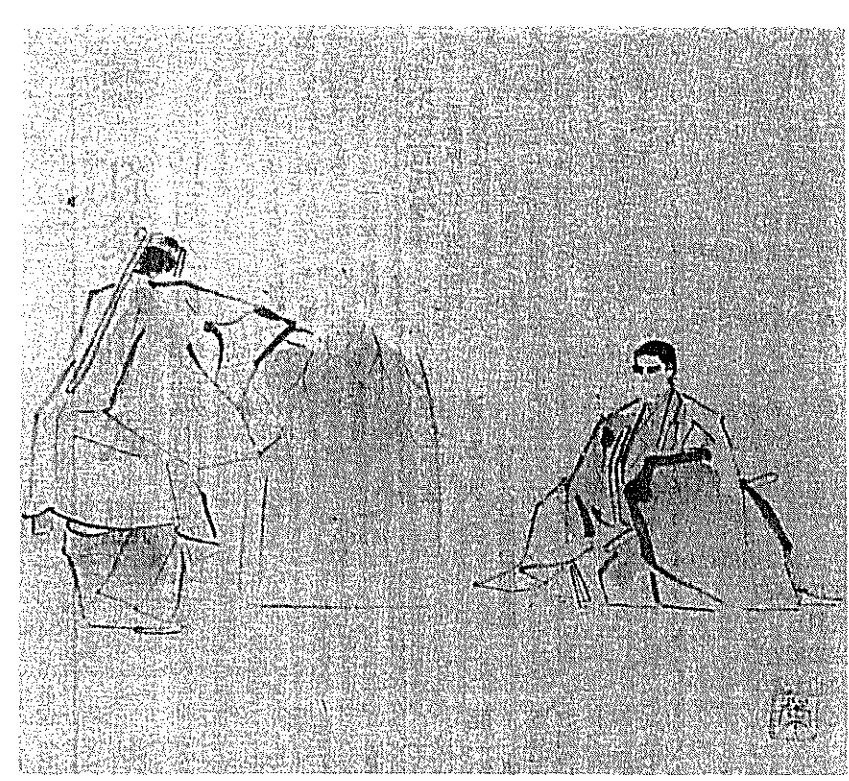
行紀 能

方子の幻

逸 栄 井 二 文 と 絵

する。深夜の大念仏に母は吾が子の幻影を見、その幻をとらえようとするが、しのめんの空がはのぼると明け、吾が子に見えた塚の上の春の草が暁の微光にしらしらと映えるのみであった。

白水衣に黒頭をつけた梅若丸の舞は、声のうちより幻に見えければの地謡の間に塚から出る。消え消えと失せれば、で、塚に入り、いよいよ思ひは、と、再び、塚から出て、隠れつ、で、塚に入ってしまう。この子方を舞台に出



この申楽談義の、隅田川の能に内にて見もなく殊更面白がるべし、の内にて、の意味は、屋内で演ずる内申楽のことをさしたものである。

私が少年の頃、能の道に入った時、父がどこで手に入れたのか申楽談義や花道書をもつてきてこれを読めと言われたが、余りに難解なのでさっぱり分らず、そのまま本箱にほり込んで置いたが、東京の家元に住み込む時は忘れずに持っていた。今になって父の心が分り父に感謝している。

とにかく世阿弥という人は、想像も出来ない程の大芸術家であったことはたしかである。

世阿弥元清は、普通セアミと呼ばれているが、正しく言えばセアミと訓まれていたようである。観世の世(せ)で、世阿弥自身、是阿(せア)と署名したことさえあるようであるから。

世六十以後申楽談義は、世阿弥が長男の元雅を前に置いて語った談話を次男の元能が整理した聞き書で、話題は能作、演出、演技、用具、演者等の広範囲にわたり、具体例が多い点でまことに重要な文献である。

吾が子の墓前に導かれた母が、しみじみ謡う隅田川の夕下きである。隅田川を三場面に分けると、沿岸、船中、対岸になるが、曲中無限の哀愁がたゞようのは、塚を前にした対岸の場面である。幼い吾が子を亡くした母の心の中をかきめぐる悲しみの起伏を描写した場面。子をなくした母の悲しみにまさる悲しみはない人は言う。それは今の世にも変りはない筈。梅若丸の墓前に心弱くかき口説く内におさえることの出来ない恩愛の情が激発して、墓の土を掘り返して今一度吾が子の姿を見せよと迫るが、それも空しいと知って、浮世のはかなさにしみじみと沈思

朝日新聞歳末助け合い 協賛能

12月15日から3日間

大阪 能楽協会大阪支部主催
朝日新聞大阪厚生文化事業団、朝日放送後援による昭和五十三年度「朝日新聞歳末助け合い協賛能」は十二月十五、十六、十七日の三日間、大阪市東区、大阪府立総合文化センター(旧大阪府立総合文化センター)で開催される。

第一部、第二部とも能「清経」
「安達原」(狂言「舟葉舞」で通し各流シテ方がそれぞれ演能を競う編成である。日程は次の通り。

十二月十五日(金)
第一部・午後一時半始
喜多流 能「清経」(高林白牛)
口二「観世流「安達原」(泉嘉次)
狂言「舟葉舞」(善竹孝夫、善竹忠重)
第二部・午後五時半始
喜多流 能「清経」(高林白牛)
口二「観世流「安達原」(泉嘉次)
狂言「舟葉舞」(善竹孝夫、善竹忠重)

十二月十六日(土)
第一部・午後一時半始
観世流 能「清経」(勝部全一)
「安達原」(南条秀雄) 狂言「舟葉舞」(善竹孝夫、安東伸元)
第二部・午後五時半始
喜多流 能「清経」(高林白牛)
口二「観世流「安達原」(泉嘉次)
狂言「舟葉舞」(善竹孝夫、善竹忠重)

十二月十七日(日)
第一部・午後一時半始
観世流 能「清経」(朝山清)
「安達原」(梅若善高) 狂言「舟葉舞」(善竹孝四郎、善竹長徳)
各部とも狂言「弓八幡」「籠」「東北」「隅田川」「放下僧」「野守」観世流、喜多流、金春流、宝生流など。

【電話変更】
大阪府立総合文化センター(旧大阪府立総合文化センター)にて開催。

十二月十六日(土) 午前
能楽協会秋季大会は
十月二十九日(日) 午前
十時から岐阜公園・萬松館で奏楽、舞囃子、独吟、九(谷野明子) 松山(永谷とよ子)

11月26日岐阜・萬松館で
能楽協会秋季大会
では同会三十周年記念の
次は大会として「三井」

放送2題
NHK総合テレビ、11月16日午後7時30分午後8時「北陸東海ローカル番組」として三重県・松阪市を舞台に「三井」を放送する。この番組は、能楽協会の協賛で、松阪市立文化センターで収録された。またあわせて松阪市立文化センターで収録された。

歳末助け合い 義捐金募集能(第十回)

十二月三日(日) 午前十時始
熱山神宮能楽殿

能楽 組子
熱山神宮能楽殿

【清】 経 長田 駿 河村總一郎 森本 重一
藤田 直利 山本 栄彦

【放】 下僧 高安 勝久 寛 敏一 森本 重一
井上礼之助

【和】 鬼 瓦 井上松次郎 野村又三郎

【春】 羽 衣クセ 林 鉄郎 地謡 河村 恒三 塚本 正三

【宝】 藤 飯富 雅介 吉田 定男 鬼頭 好信
佐藤 友彦

【観】 海 飯富 雅介 吉田 定男 鬼頭 好信
佐藤 友彦

【観】 海 飯富 雅介 吉田 定男 鬼頭 好信
佐藤 友彦

壺泉会能
十二月十日(日) 午後一時始
熱山神宮能楽殿

【観】 野 守 西村 欽也 鬼頭 英二 鬼頭 八郎
山口 亮 鬼頭 季信

【和】 鐘の音 野村又三郎 井上松次郎

【観】 半 島 中村 和男 水藤 元三
善知 鳥 河村 錠二 大村 末吉

【観】 野 守 西村 欽也 鬼頭 英二 鬼頭 八郎
山口 亮 鬼頭 季信

【和】 鐘の音 野村又三郎 井上松次郎

【観】 半 島 中村 和男 水藤 元三
善知 鳥 河村 錠二 大村 末吉

能「葵上」など
幸謡会大会
岡崎・随念寺で盛會

能「葵上」など
幸謡会大会
岡崎・随念寺で盛會

能「葵上」など
幸謡会大会
岡崎・随念寺で盛會

能「葵上」など
幸謡会大会
岡崎・随念寺で盛會

能「葵上」など
幸謡会大会
岡崎・随念寺で盛會

大阪 朝日新聞大阪厚生文化事業部、朝日放送後援による昭和五十二年「朝日」...

能「葵上」など 幸謡会大会 岡崎・随念寺で盛会 幸謡会(近藤幸江師)は、十月二十九日(日)...

岡崎 幸謡会(近藤幸江師)は、十月二十九日(日)岡崎市・随念寺能舞台で第九回社中大会を開催...

岐阜 岐阜交歓会秋季大会は十月二十九日(日)午前十時から岐阜公園・萬松館で素謡、舞謡子、独吟...

岐阜 岐阜交歓会秋季大会は十月二十九日(日)午前十時から岐阜公園・萬松館で素謡、舞謡子、独吟...

大阪 大阪能楽鑑賞会11月公演 大阪能楽鑑賞会の十一月公演(第二〇三回)は十一月二十八日(火)午後六時から大阪能楽会館...

大阪 大阪能楽鑑賞会11月公演 大阪能楽鑑賞会の十一月公演(第二〇三回)は十一月二十八日(火)午後六時から大阪能楽会館...

大阪 大阪能楽鑑賞会11月公演 大阪能楽鑑賞会の十一月公演(第二〇三回)は十一月二十八日(火)午後六時から大阪能楽会館...

大阪 大阪能楽鑑賞会11月公演 大阪能楽鑑賞会の十一月公演(第二〇三回)は十一月二十八日(火)午後六時から大阪能楽会館...

大阪 大阪能楽鑑賞会11月公演 大阪能楽鑑賞会の十一月公演(第二〇三回)は十一月二十八日(火)午後六時から大阪能楽会館...

福井 宝生流福井能楽鑑賞会 は十月三十一日(土)福井能楽堂で開催...

福井 宝生流福井能楽鑑賞会 は十月三十一日(土)福井能楽堂で開催...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

明石 明石市市民会館で 明石市芸術協賛として十一月二十五日(土)午後一時から明石市市民会館...

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

附祝言 中村和男 後藤契雲 今沢美和 高木美智子 近藤幸江

山田宝石 貴金属・時計・装飾品 名古屋・本山駅 電話 762-2434 代表

宝生流全曲旅の友 宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。 合本(全一冊) 定価27,000(送料別) 天・地・人(三冊) 定価30,000(送料別) わんや書店

若い御二人の門出に ふさわしい結婚式場 名古屋 若宮八幡社 各種会合や宴会にも御利用下さい(駐車場完備) 名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

第二十四回中日五流能(仮番組)

昭和五十四年三月二十五日(日)
名古屋中 日劇 劇場

第一部 (午前十時始)

政 福王 輝幸 佐伯 純三 森田 光春
鳥手 高林白牛口二 地謡 山本 大井 政栄
後見 長田 勝二 神海 忠生 大島 政栄
高林白牛口二 和谷 衡生 佐々木 宗生

狂言

鬼 瓦 善竹 圭五郎 善竹 十郎
仕舞 鳥 頭 粟谷 菊生 地謡 二井 栄逸
仕舞 鳥 頭 粟谷 菊生 地謡 佐々木 宗生

夕

顔 元正 宝生 剛 安福 春雄 藤田 大五郎
山端之出 善竹 十郎
後見 大隈 秀夫 地謡 加藤 保彦
山中 義滋 長谷川 保彦
浦田 保利 後藤 芳雄 契 雲雄

仕舞

舟 東 北クセ 金春 晃夷 地謡 塚本 恵一
舟 慶キリ 金春 欣三 地謡 塚本 恵一

第一九七九年 第五回 神戸五流能

昭和五十四年一月二十一日(日)
午前十一時始・神戸文化ホール(大)

能組

弓矢立合 親世 清和 大村 良三 赤井 藤男
金剛 永誠 曾和 博朗 (金剛) 赤井 藤男
金剛 安明 (親世) (金剛) 赤井 藤男

鶴

鶴 山内 崇生 谷口 正喜 金春 忍右衛門
山内 理松 幸 田次郎 藤田 大五郎
鶴 山内 崇生 谷口 正喜 金春 忍右衛門

素袍

狂言 後見 柏原 仁兵衛 地謡 平野 俊清 衣斐 正宜
新井 櫻 地謡 杉山 正人 衣斐 正宜
狂言 茂山 千五郎 岩崎 正義

熊野

熊野 親世 元正 宝生 剛 安福 春雄 藤田 大五郎
熊野 親世 元正 宝生 剛 安福 春雄 藤田 大五郎

恋

花 簗 クルヒ 大槻 秀夫 須部 文雄
仕舞 金春 安明 福王 輝幸 渡部 晴義 三島 太郎
金春 信高 替之型 善竹 圭五郎 前田 正徳 三島 太郎
後見 横山 晃夷 地謡 河村 恒三 高橋 光洋
附祝言 後見 横山 晃夷 地謡 河村 恒三 高橋 光洋

附祝言

後見 横山 晃夷 地謡 河村 恒三 高橋 光洋

第二部 (午後三時半始)

木

曾 後見 浦田 保利 久 梅若 本若 善勝 朗一
山中 義滋 地謡 梅若 本若 善勝 朗一
後見 浦田 保利 久 梅若 本若 善勝 朗一

仕舞

仕舞 花 簗 クルヒ 大槻 秀夫 須部 文雄

国

五流仕舞 金春 晃夷 金剛 巖 和島 富太郎 上田 照也 辰巳 孝
後見 吉井 順一 清和 地謡 越前 義隆 渡藤 井井 全政 信三
後見 吉井 順一 清和 地謡 越前 義隆 渡藤 井井 全政 信三

栖

江崎 金治郎 幸 田次郎 森田 光春

間

後見 和島 富太郎 地謡 上中 政則 佐々木 宗生

主催

能楽協会神戸支部

入場料 C 5,000円 A 4,000円 B 3,000円
学生 1,000円 小学生 500円

11月・12月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)
(11月) 19日(日) 親世 流「葛城」梅若泰之ほか
26日(日) 金剛 流「高野物狂」今井幾三ほか
(12月) 3日(日) 宝生 流「殺生石」松本忠宏ほか
10日(日) 親世 流「唐船」親世清夫ほか
17日(日) 親世 流「清経」木原康夫ほか
NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)
(11月) 19日(日) 宝生 流「黒塚」松本忠雄ほか
26日(日) 親世 流「柏崎」上田照也ほか
(12月) 3日(日) 親世 流「巻絹」坂井音次郎ほか
10日(日) 宝生 流「船弁慶」武田喜永ほか
17日(日) 金春 流「竜田」高橋汎ほか
24日(日) 金剛 流「高野物狂」今井幾三ほか
(放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

附祝言

主催 中日新聞本社

是

遊 行 柳クセ 野村 剛作 地謡 小沢 藤木 喜正 泰久
鉄 輪 辰巳 孝 地謡 小沢 藤木 喜正 泰久
金剛 永誠 巖 高安 勝久 吉阪 修一 森三 高 光太郎

百

野 隅 田 守 川 盛 波 君 師 路
野 隅 田 守 川 盛 波 君 師 路
野 隅 田 守 川 盛 波 君 師 路

の友社
売上本町2-20
464)
7984
屋36393
1年500円
1年800円
50円

義捐金募集能
第10回・能楽協会名古屋支部主催

風韻会能
十月二十二日(日)午前九時半始

日比大吉郎
助川 竜夫

登録商標 おちよほ
季節の干菓子 生菓子 松露糖 味噌松風
万年堂薬舗
名古屋市東区東桜二丁目17-21
電話(052)931-6446(代)・1234

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科
東山整形外科
TEL 781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

蔵元直営
酒藏白龍
白龍本店 名古屋市北区深田町
電話 911-7572

割烹・小料理 城
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
電話 731-1128



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

発行 能 楽 の 友

名古屋市中区吹上本町2-
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8
振替口座 名古屋 3 6 3 8

購読料 1年 500
郵送の場合 1年 800
— 部 50

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[12月]

10日(日) 壺泉会能 (有料)
17日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料) (番組③面)

[54年1月]

3日(水) 能楽協会名古屋支部新年賀初式 (協会関係者)
6日(土) 学生能 (来場歓迎)
7日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組①面)
15日(祝) 清韻会大会 (来場歓迎) (番組②面)
20日(土) 梅田邦久後援会能 (要招待券)
21日(日) 熱田紳士能 (来場歓迎)

[2月]

4日(日) 宝生会定式能 (有料)
10日(土) 西陵高校能鑑賞会 (非公開)
11日(祭) 観世会定式能 (有料)
12日(休) 柳原富司忠職分十周年記念能 (有料) (番組③面)
17日(土) 観世九皋会定期能 (有料)

[3月]

4日(日) 大蔵狂言会 (来場歓迎)
11日(日) 梅猫会能 (有料)
18日(日) 泉楽会春の大会 (来場歓迎)
21日(祝) 壺泉会春の会 (来場歓迎)
24日(土) 観世会土曜定式能 (有料)

(演能変更の節はご了解下さい)

秋の叙勲

伊藤裕康氏(喜多流シテ方)
三島太郎氏(金春流太鼓方) 受章
野村蘭作氏(宝生流シテ方)

能楽協会名古屋支部主催、中部能楽師会後援による「歳末助け合い義捐能」はことし第十回を迎える。十二月三日午前十時から熱田神宮能楽殿で開催された。喜多流舞臺子「清経」(長田藤)につづき、金剛流能「放下僧」(シテ百々康治、ソレ日比野圭昭)の五流、和泉流の出演で熱演のうちに終了した。

2月に「道成寺」上演

柳原富司忠 職分記念能 十周年

十一月三日文化の日昭和五十二年秋の叙勲が発表されたが、能楽関係では、喜多流シテ方・伊藤裕康氏(東京)・金春流太鼓方・三島太郎氏(大阪)・宝生流シテ方・野村蘭作氏(東京)がそれぞれ勲五等双光旭日章を受章された。

幸清流小鼓方、柳原富司忠氏は職分十周年にあたり、明春二月十日、熱田神宮能楽殿で記念能を開催する。

この記念能では、大曲「道成寺」(シテ観世世帯)が上演されるが、催主・柳原富司忠氏が小鼓をつとめる。幸清流小鼓方、大蔵秀夫、片山博太郎、片山慶次郎の諸師が来演、能「羽衣」・「翁」・「狂言「夷大黒」舞臺子、一調それぞれ二番で盛会が期待される。指定席八千円、自由席五千円、学生席三千円。(番組③面掲載)

博訪) 観世流仕舞八番、観世流能「海士」(シテ近藤幸江)狂言「鐘の音」(野村又三郎、井上松次郎)切能は観世流「野守」(シテ久田徹二)の能四番、中部能楽界の五流、和泉流の出演で熱演のうちに終了した。

定) 保持者に認定。
吹田市高浜町一〇一四三
野村蘭作氏(七四)新潟県生れ。大正六年十二歳で宝生重英に師事。昭和二十二年「道成寺」五十二年「鷗鷗小町」を披く。四十年重要無形文化財能楽(総合指定)保持者に認定。能楽協会監事。
東京都新宿区百人町一―一五―二〇

その天分、演技、講見ともにすぐれ、息遣が備えられる。昭和四十九年芸術祭優秀賞受賞、世阿弥座、欧州公演などその足跡は大きい。

昭和五十四年一月七日(日) 午前十一時始

熱田神宮 能楽殿

演能案内

名古屋青少年のための芸術劇場
能・狂言
十二月十七日(日) 2回
熱田神宮 能楽殿

第一部(午前10時始)
能について 内藤 泰二
狂言について 佐藤 友彦

蚊相撲 井上松次郎
井上礼之助
野村又三郎

船弁慶 高安 勝久
飯富 雅介
吉田 定男
福井啓次郎
森川 重一

第二部(午後2時始)
能について 内藤 泰二
狂言について 佐藤 友彦

蚊相撲 野村又三郎
井上松次郎

船弁慶 高安 勝久
飯富 雅介
河村総一郎
柳原富司忠
鬼頭喜太郎
藤田六郎兵衛

附祝言
四百円
主催 名古屋教育委員会
能楽協会名古屋支部

後見 玉竹内 澄子
白藤 真六
加藤 利夫
吉田 義久
鬼頭 喜太郎
藤田 六郎兵衛

後見 玉竹内 澄子
白藤 真六
加藤 利夫
吉田 義久
鬼頭 喜太郎
藤田 六郎兵衛

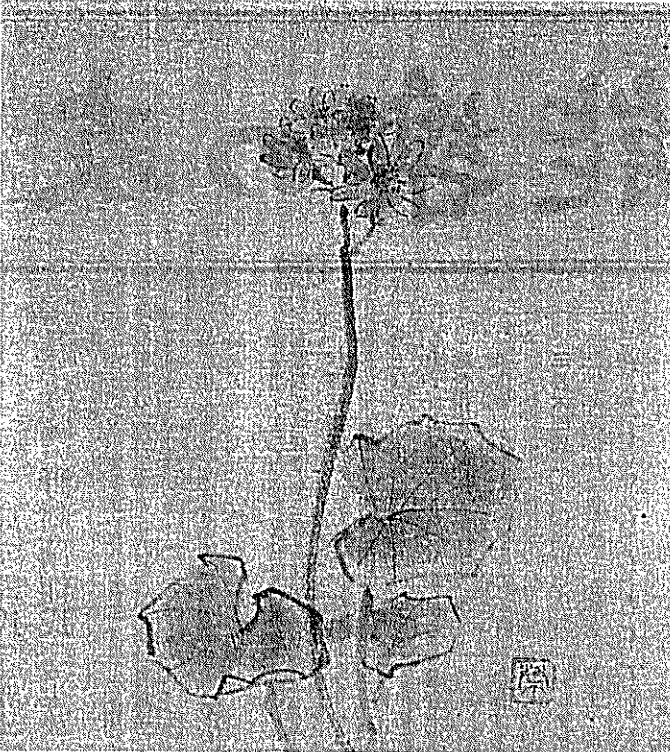
富士道
小夢齋
名古屋 TEL 愛知県

能紀行

つむぎの咲く頃

絵と文 二井栄逸

南紀の海岸には、今、つむぎが真盛ります。きりたったような断崖や、潮騒のはげしい入江の岩間にも、つややかな丸い葉を暖かい南の陽に輝かせています。車は海岸の道路を上ったり下ったりして漁村を過ぎてゆくのですが、つむぎはあちこちに群生していて私を迎えてくれるのです。



ほとんどの草は枯れ、冬の色をしているのに、つむぎは花の時期を過ぎて緑を保っています。植物や湿気によく育つというので葉草の仲間入りもしているのか、葉が柔らかくよくこの葉を摘んでいました。キク科の常緑多年草です。花は黄菊の一重咲きに似ていますが、長い茎の先に花がいくつか群れて咲くのが、何となく風格を備えています。

くつか群れて咲くのが、何となく風格を備えています。私の家ではつむぎを格好の花の一つとして伝えていますが、自然風のお花にもよく使います。花屋ではお目にかからない花ですから、水揚げをよくありません。水切り三度、或は切口を煮たり、葉をついたりしてお使いになるといいと思います。このつむぎは能楽の横櫓にも良く、丸い葉と、群れた花を交互に配置した小袖や唐織が非常に品のいいものだといふことを知りました。或る旧家で拝見させて貰ったおかげだと思っております。

世界の舞台衣裳のなかでも、能楽はどの精緻なものをめだつて飾る華やかなものには珍しいと思います。舞台装置のない能楽台では、装束が叙景の役目も果たしています。それは能楽東は主人公にあたるシテの時代や人格をあらわす説明的な扮装ではなく、能の本質的な表現を受け持つからなのです。

長綱や法被、水衣等の広袖の装束が色々な角度にみせる直線、鋭角、弧状線等の抽象的な面白さ、又、能特有の物着という演出、これ等も装束を唯の扮装でなく、能の本質的表現に大きな役割を果たしているように思われます。

名古屋清韻会能

昭和五十四年一月十五日(祭)十時始

役名	能組	地謡	舞	歌
通小町	渡辺 節子	寛 三男	柳原富司	北原良一郎
弱法師	福間 昌作	山 鏡一	近藤 一清	千歳 近藤
胡蝶	池田美知子	寛 三男	高橋 宗司	高橋 宗司
采女	小島トミル	寛 三男	小川 貞三	加野 昭二
善知鳥	長谷川 実	後藤 孝一郎	吉井 佐幸	吉井 佐幸
融	高田みね子	後藤 孝一郎	栗田 純子	栗田 純子
碓	佐藤アヤ子	河村 幸三郎	寺西 繁子	磯貝 勝子
高	五段之舞	河村 幸三郎	栗林 愛子	栗林 愛子
高	塩谷 元計	河村 幸三郎	八神 孝充	八神 孝充
天	奥村 久枝	河村 幸三郎	大西 徹八郎	大西 徹八郎
祝言	西村 欽也	河村 幸三郎	大平 敏子	大平 敏子
祝言	高安 勝久	河村 幸三郎	奥田 薫	奥田 薫
高	前後ノ替	河村 幸三郎	金丸 洋子	金丸 洋子
高	井上松次郎	河村 幸三郎	殿島 蘭子	殿島 蘭子
高	後見	河村 幸三郎	鬼頭貴代子	鬼頭貴代子
高	後見	河村 幸三郎	関谷 三男	関谷 三男
高	後見	河村 幸三郎	日比大吉郎	日比大吉郎
高	後見	河村 幸三郎	御牧 紀代	御牧 紀代
高	後見	河村 幸三郎	御牧 紀代	御牧 紀代

12月・昭和54年1月放送予定

● NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

12月1日(日) 観世流「唐」 船 観世静夫ほか

12月2日(日) 観世流「正」 船 山本真賀ほか

(17・24日は休み)

12月7日(日) 金剛流「東」 北 奥野達也ほか

12月8日(日) 金剛流「黒」 北 塚本恵雄ほか

12月9日(日) 金剛流「老」 北 松本原康次ほか

12月10日(日) NHK・F・M (毎週日曜日午前7時15分)

12月11日(日) 宝生流「船」 慶 武田喜永ほか

12月12日(日) 宝生流「流」 慶 高橋汎ほか

12月13日(日) 宝生流「流」 慶 今井三郎ほか

12月14日(日) 宝生流「流」 慶 梅若素ほか

12月15日(日) 観世流「求」 塚 観世元正ほか

12月16日(日) 観世流「生」 塚 松本忠宏ほか

12月31日(日) 午前8時 観世流「井」 観世静夫ほか

(放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

名古屋清韻会 (入場歓迎)

主催 名古屋清韻会

補導 大槻 秀夫

舞臺子 高 砂 泉 眞澄 吉田定男 鬼頭喜太郎

番外舞臺子 天 鼓 大槻 文蔵 赤松 慎友

祝言 鶴 亀 大槻 秀夫 地謡 泉 嘉夫 齊藤 信隆

船 弁慶 塩谷 元計 奥村 久枝 西村 欽也 高安 勝久 河村 幸三郎 後藤 孝一郎 藤田 昭彦

融 五段之舞 高田みね子 木村 晴子 吉田 定男 寛 三男

碓 佐藤アヤ子 山口 鏡一 寛 三男

高 後見 塩谷 元計 奥村 久枝 西村 欽也 高安 勝久 河村 幸三郎 後藤 孝一郎 藤田 昭彦

天 奥村 久枝 西村 欽也 高安 勝久 河村 幸三郎 後藤 孝一郎 藤田 昭彦

祝言 西村 欽也 高安 勝久 河村 幸三郎 後藤 孝一郎 藤田 昭彦

祝言 高安 勝久 河村 幸三郎 後藤 孝一郎 藤田 昭彦

山本定期能

54年度上期演能予定

大阪 山本定期能楽会の昭和五十四年度上期の演能日程は次のとおりである。

●一月七日(日) 能老 松山本 勝一 能葛 城河村 領二 能鞍馬 天狗 松浦信一郎

●六月十日(日) 能女 郎 花山本 真賀 能藤 山本 勝一 能山 山本 勝一

●四月七日(土) 能小 鍛 治山本 順之 黒頭

●四月七日(土) 研究能楽 正 山本博通 能巻 絹矢野 一馬 能草子洗小町 山本 真賀 能鶴 飼 千崎 隆一

昭和54年新春 ラジオ 放送番組

〔NHKテレビ〕 (午前9時、再放送午後10時)

1月1日(月) 能「翁」 金春流・金春信高、大沢弥太郎

1月2日(火) 狂言「大黒連歌」 三宅藤九郎、狂言「福部の神」 茂山千作、茂山千五郎

1月3日(水) 「号立立合」 観世元正、金春信高、宝生英雄

〔NHKラジオ第二放送〕 (午前7時、再放送午後3時)

1月1日(月) 新春五流謡曲 (I) 宝生流「翁」 宝生英雄

1月2日(火) 観世流「賀茂」 観世元正、喜多真

1月3日(水) 新五流謡曲 (I) 金春流「花月」 金春信高

能楽研究 第四号

法政大学能楽研究所発行

野上記念・法政大学能楽研究所による「能楽研究」第四号(能楽) 片桐 登氏

昭和五十四年二月十二日(休)正午始 於熱田神社宮能楽殿



「半 蔀」 沢田春子さん

修証会15周年記念大会

(53・10・14)

演 能 の 記 録

「いや、入ったね」
「大入り満員、マスコミの宣伝もきいたろうが、底固い狂言への人気があつたことだろう」
「この好調が続いてほしいものだね」
「それには向といつても舞台が第一、演者に一層のご努力をお願いして、さて感想は」
「結論をさきにいうとね、「犬山伏」と「隠し狸」だ。一番面白かったのは」
「ほかの狂言は」
「この二番ほどではなかったというところだ」
「まずは同感だね。「犬山伏」は、おっとりした共同作のよいところがそのまま出たという感じ。「隠し狸」は万之丞、万作のイキをのむような鋭いやりと見もどった」
「犬山伏」は山伏(礼之助)

前田 満穂
茶屋(松次郎)前(弘之)大(秀雄)と、役それぞれを取り合わせがよく、文句なしに楽しめた」
「それそれ、文句なしに楽しめた、という意味ではこれがトップではないかね。大など大いに笑わせたぜ」
「好み次第というところだが、僕は「隠し狸」をとるね。見所をトコトコ納得させる行と届いた解、豊かな意味、快調のテンポ、近代的な演出のサンプル、ぐらいいちめでも悪くはない」
「いや、当代の人気コンビ、悪かろうはずはないが、われわれ田舎者にはスキがなさ過ぎて息がつかない」
「千切木」は前半快調で後半もたつき気味。万作(太郎)又三郎(女)という上手が二人そろいながらどうしたわけかね」
「さあね、いろいろあらあね、というところかな。とにかく演者

「まだ何か言いたそうだが、秋の日は暮れ易い。先を急ごう。」「非抗」(松次郎、祐一、靖雄)はちよつと重かった。なんとなく吹っ切れない気持のまま終ったのは残念。」「八尾」(保之、友彦)のような能がかつたものになると僕はお手上げ。いいのかわいのかかわらない」
「わからないのは、君だけではなと思うが、こういう狂言もあるというところは面白くないか。科白劇の狂言を能がかりで行くと、いう皮肉さ、趣向、しゃれっ気、これが理解され難い世の中、となるとお手上げは演者の方だ。」
「千切木」は前半快調で後半もたつき気味。万作(太郎)又三郎(女)という上手が二人そろいながらどうしたわけかね」
「さあね、いろいろあらあね、というところかな。とにかく演者

観世流謡曲本
ちくさ正文館
ちくさ駅前
電話01137
(11月19日熱田神社能楽殿)



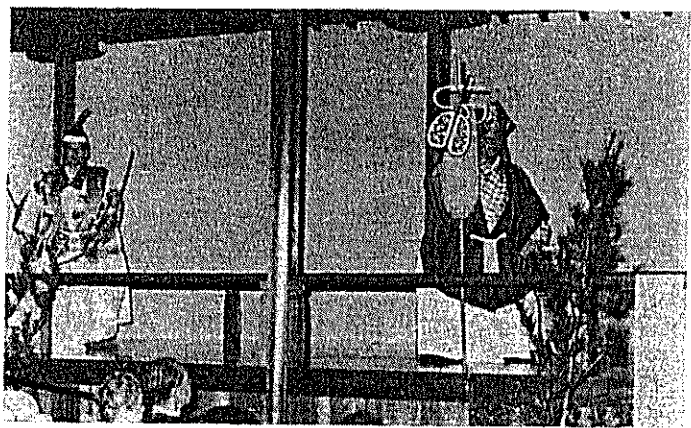
「松 風」 シテ 守部啓子さん

戯之舞

ツレ 御牧紀代さん

風韻会能

(53・10・23)

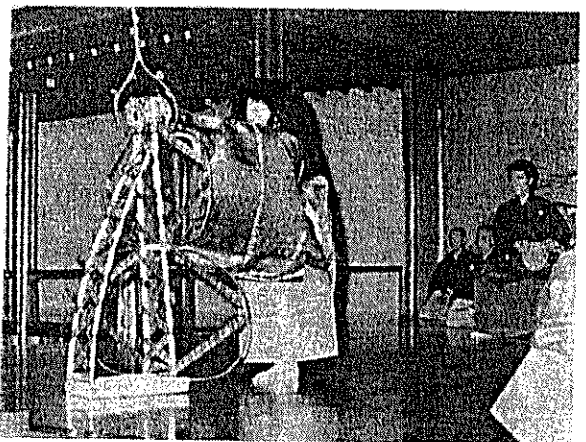


「放下僧」 シテ 福岡昌作氏

ツレ 福岡克彦氏

風韻会能

(53・10・23)



「天 鼓」 殿島博子さん

弄鼓之舞

風韻会能

(53・10・23)

能楽研究 第四号

法政大学能楽研究所発行

野上記念・法政大学能楽研究所による「能楽研究」第四号(能楽研究所紀要)がこのほど発行された。この「能楽研究」は、昭和四十九年創刊、爾後五十一年(第二号)五十二年(第三号)と発行され、今回が第四号で、同研究所の収集資料の紹介など研究成果の発表をその主目的としているが、同時にトブクラスの研究者の寄稿により一層内容の充実をはかり、年間の能界・学界の動向を概観した展望をも加えて幅をひろげている。今回発行された第四号の主な内容は次のとおりである。
▽大和猿楽の「長」の性格の変遷 表 章氏
▽天女舞の研究 竹本 幹夫氏
▽寛永年間の勧進能 古川 久氏
▽研究展望 西野 春雄氏
東京都港区南麻布二一八四、野上記念法政大学能楽研究所、電話〇三(四五)四〇二九番

Table of contents and program information for NHK Radio and TV, including dates and program names like 'NHK Radio Second Broadcast' and 'NHK Education TV'.

Table listing names and roles of performers and staff for various events, including '能道成寺' and '能羽衣'.

名古屋観世九臈会

昭和54年度定期能番組

名古屋観世九臈会(会主・観世武雄師)の五十四年度定期能番組が、このほど発表された。

とくに第二回(五月六日)は、故観世武雄師の三回忌追善会として、会場はいずれも熱田神宮能楽殿上演される。

会費は全自由席一万円。(四回分)

●初回番組 二月十七日(土)午後一時始

素謡神 歌 塚本 秀雄 長谷川 武雄

能高

加藤 保彦 後有賀 滋子 前観世 武雄

能卷

狂 野田 裕一 野垣 慶子 高安 勝久 寛 敏一 助川 龍夫 藤田 昭彦

附祝言

●二回目番組 五月六日(日)午後一時始

故観世武雄師三回忌追善別会

素謡藤 戸 青木 武弘 長谷川 章 加藤 保彦

能弱法師

塚本 秀雄 高安 勝久 後藤 孝一郎 寛 三男

寄稿

色紙をよみます

垂井 勉

この間、能楽家の二井宋逸先生に能楽を描いて頂くようお願いしたのである。盲目の身の私が輝々たる能楽家を描いて頂くという事は、考えれば全く妙な話である。それが妙な話であるという事に気がついたのは、お願いしてから大分経つたことである。

しかし二井先生はこの盲人の申出を快く受けて下さり、水墨画で「経政」「桜川」の二枚の色紙を描いて送って下さった。

能砧

小林 喜久 観世 武雄 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 八郎 藤田 六郎 齋藤 道加 梓ノ出

●三回目番組 七月二十一日(土)午後一時始

能蟬

長谷川 章 観世 武雄 西村 欽也 後藤 孝一郎 鬼頭 季信

能天

吉田 妙 高安 勝久 河村 欽一郎 助川 龍彦 藤田 昭彦

附祝言

●納会番組 九月二十九日(土)午後一時始

素謡景 清 佐々木 勝雄 小島 芳雄 観世 武雄 五木田 武計

能賀

加藤 保彦 高橋 敏一 西村 欽也 吉田 定男 鬼頭 好信 藤田 昭彦

能菊

高木 美智子 高安 勝久 鬼頭 英二 池田 三男 福井 良久 寛 三男

附祝言

名古屋南区元垣町一ノノ十七 加藤保彦方 電話(台)六六一一三六五九 名古屋観世九臈会 電話(台)六七一一二九二二(能楽殿)

も感にたえないように、その典雅な絵姿を口ごもりながら私に告げた。私は黙ったまま手にした色紙の上に見えぬ視線を注いでいた。それはいつも能舞台に向って、全身を傾けて対峙している心境であった。すると能舞台同様、極度に凝縮した空間や、はりつめた気が胸に迫ってくるのであった。

やがて臉の裏に映し出されたのはその顔や髪にわずかに金箔が施されているというあくまで典雅な墨色の濃淡であり、微妙な舞台姿で一瞬しっかりとらえたその映像であった。

こうして二井先生に色紙をお願いしたが、おこがましくも日頃お私に洗禮親であった同志社教会名譽牧師、茂義太郎先生が細々と聖句を寄って下さった。その聖句は、

齋の伝書のことばであるという。狂言方の元老、同じく人間国宝であった故野村万蔵師は、お宅にお邪魔したとき、持ち前の気遣いで花吹雪、能が始まっていて静かという自作の俳句を書いて下さった。大阪の能舞台で、いつもこの眼にした深い重みのある僧侶の久保田千三郎先生の姿は、まだありありと眼底に残っている。しかしお会いすると普段の先生は、謙虚で温厚そのものの方である。その人柄が絵にその儘あらわされていて一枚には「翁」の面、あとの一枚はかわいい娘達磨が描かれている。

他に友から贈られた木彫の額には私の洗禮親であり神学生時代最もお世話になった同志社教会名譽牧師、茂義太郎先生が細々と聖句を寄って下さった。その聖句は、

(改名) 観世流シテ方・山本真直氏(豊中市中津町六丁目) 一九〇一

友の楽能
吹上本町2-20
464
7984
古歴 36393
1年 500円
1年 800円
50円

名古屋観世九臈会
名古屋教育委員会、能楽協会
第一部・午前十時始

青少年のための芸術劇場
12月17日 熱田能楽殿で
第一部・午前十時始

第十八回
和泉狂言会



近江路 謡曲名所巡り

田村神社、斎宮、阿漕塚など

能楽の友社では、さる十一月二十三日、伊勢路の謡曲名所めぐりの旅行会を開催しました。

当日は晩秋の好日和に恵まれ、四十五人が参加。午前八時愛知文化講堂前を出発、東名阪高速道路から鈴鹿峠を越え、近江路を辿り、近江路の謡曲名所巡りとして田村神社に到着、清涼な神祕に参拝、同神社田村宮司の厚意ある記念品を拝受して記念撮影、車は再び伊勢路に入り、津市の西郊平家落着の地、忠盛塚に参拝、伊勢自動車道で松阪に到着、能楽の友社同人二井宋逸氏の格別の配慮により、松阪肉のすき焼を「海津」で賞味、伊勢路の味を満喫しました。

少憩後、23号線を経て、古代又

化史のうえで大きな関心と注目をあつめていた多気郡明知町に到着。大淀の浦の「業平松」「行平松」「陸子女王墓」「斎宮跡」「竹神社」「古里遺跡」などを巡り、とくに竹神社では松馬堂にちなんで武内宮司のご配慮により、同社に伝わるご神体「松馬」の拝観と丁寧な説明を承り、斎宮の歴史の重みと謡曲愛好の楽しみを味わいました。

史跡の多気をおとりにして、北上して津市に入り、阿漕塚に参拝。平治町などの地名のゆかりも土地柄がしのばれ、わずかにこの安濃の松原、日も暮れかかる阿漕浦で往時の有様をしのび午後五時再び車中の人となり、午後七時つづき、役々を決め「田村」につづき、「野宮」「敬盛」「熊野」「小鍛冶」などを同時参拝しました。

なお今回の旅行には杉村竹翠師が同行されました。また参拝の各神社、明和町教育委員会などにお世話になりましたことを紙上をお礼申し上げます。(加野記)

(写真) ①田村神社での記念撮影 ②阿漕塚 ③斎宮の竹神社での「松馬」の拝観

名古屋銘菓

きよめ餅

神宮東門前 株式会社きよめ餅総本家 TEL681-6161

流元 剛行 金発 流本 世宗 観宗

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9
 〒604 京都市中京区二条通数屋町東入 電話(231) 1990
 振替東京 3-3552 電話京都 113

大箱・段ボール・ケース

ト・ア

株式会社 山田 茂

中華料理 桃源亭

御宴会・御集會・御商談等には是非御座敷を御利用下さい

中区栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081
支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋

花巻 五 貴 笹切 狂

谷口 周子 杉浦 一枝 青山 高子 鈴木久美子